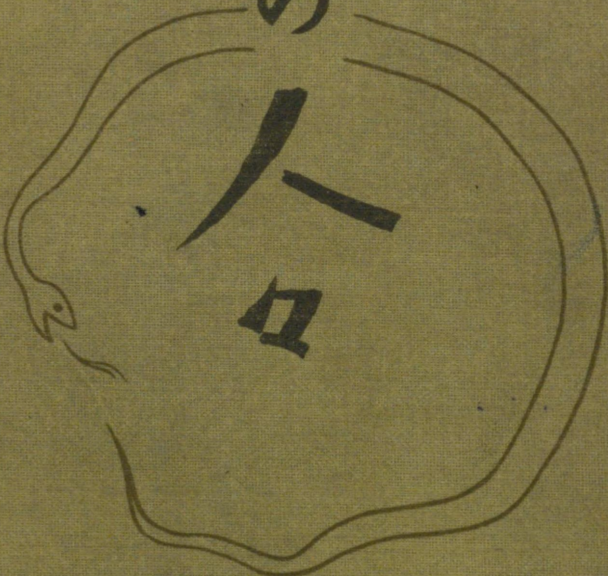
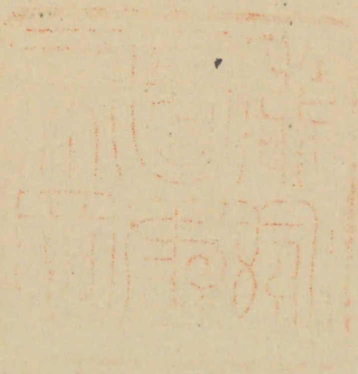
ユダヤの人々



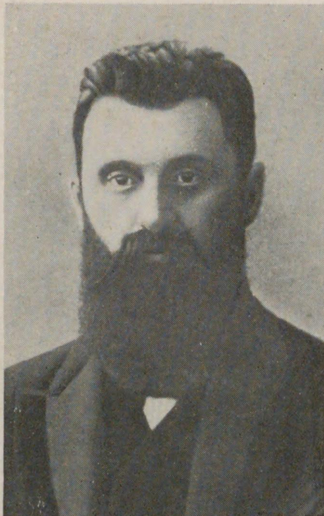


安江仙弘著

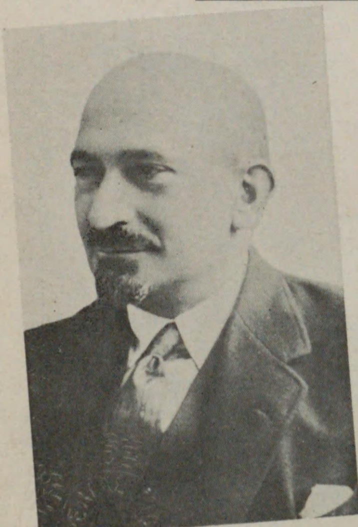
ユダヤの人々

財團法人
軍人會館出版部發行

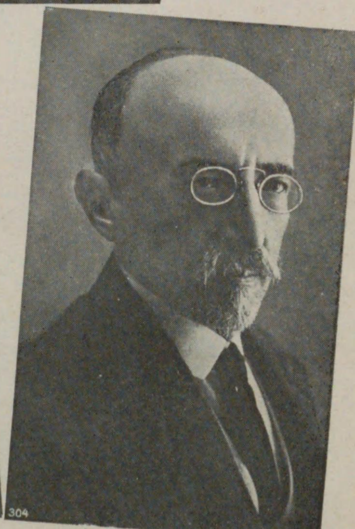
近代の代表的ユダヤの人々



シオニズムの唱導者
テオドル・ヘルツル博士



シオン團總裁たりし
ワイヅマン博士



露國のユダヤ文豪
アハド・ハム本名ギンツベルグ



ユダヤの首府ジェルサレム市ゲッセマネの園と基督が昔最後の日の前夜弟子ペテロ、ヨハネ等と腰かけたりといふ橄欖の老樹

ユダヤ人々のタイプ

ポーランド・ユダヤ婦人

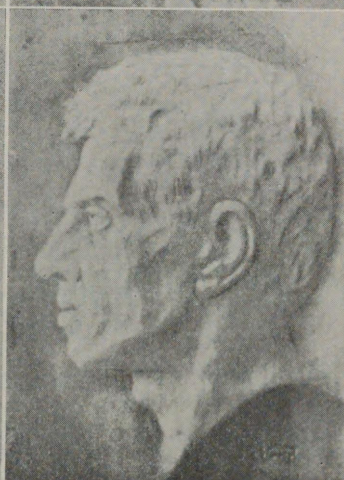


アメリカ・ユダヤ人

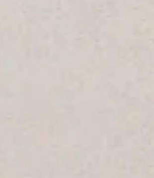


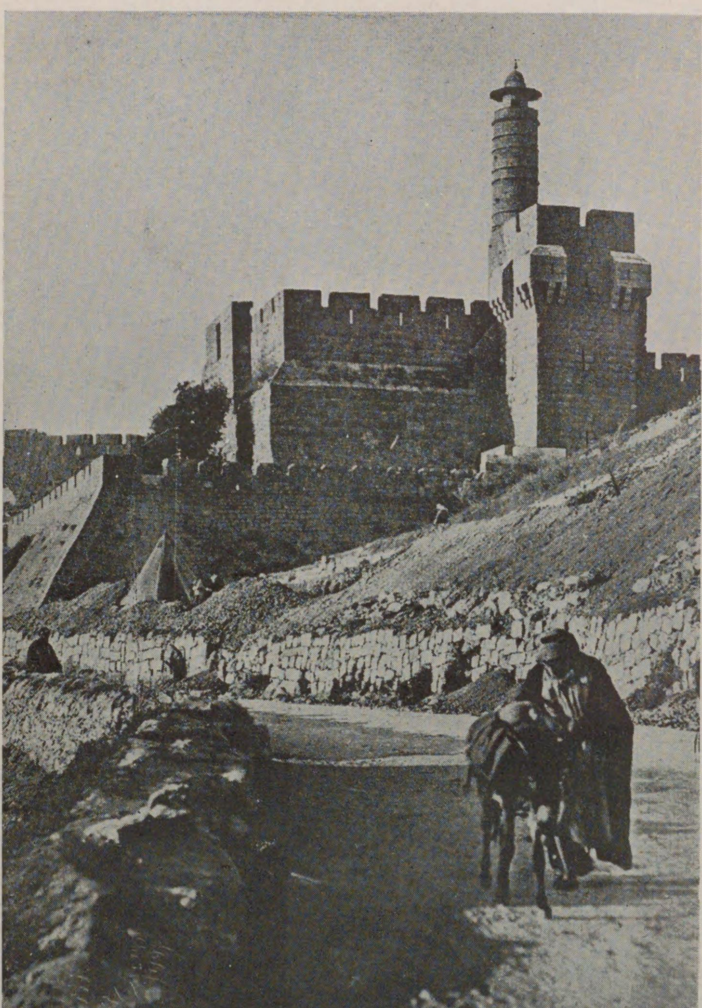


モロッコ・ユダヤ人



ロシア・ユダヤ人





ジェルサレム市の一角に聳ゆるダビテの城砦

序

現在の日本は太平洋上の單なる島帝國ではない。天意に依つて既に大陸の一角に其の地歩を占め、大和民族本來の使命に向ひ、邁進しつゝあるのである。我等の使命は東洋平和の保障であると共に、皇道に依る世界人類眞の平和の招來である。而して今や世界の情勢は、自ら其の視聽を東洋に集中せしめ、帝國の一擧手一投足は忽ち世界に大波紋を畫きつゝある。更に萬邦は帝國至高の使命を諒解するを得ずして、我を嫉視の渦中に投じて居る、爲に帝國は未曾有の危機に直面し、方に存亡の岐路に立ち、緩急寸分の偸安を許さない。

猶太民族は世界各國に分離散在し、表面は國籍を異にし、國語を異にするも、居常列强を背景として、經濟に外交に並に國際政治に偉大なる勢力を有し、熱烈なる民族愛と、鞏固なる團結力とを以て、國境を超越して隱然たる一種の民族國家を成して居る。

而して又猶太の亡國的特種環境より出でたる特種の思想、藝術並に其の文學等は、何れも人類の社會生活に、日々甚大の影響を與へて居る。故に猶太民族の本質、勢力並に其の活動等について之を研究知得することは、列强に率先し以て世界の平和工作に邁進しつゝある大和民族として、眞に喫緊事である。

更に現下國際關係の複雜と其競爭の激甚なることは、既に平時に於て思想戰、外交戰、經濟戰、宣傳戰並に資本戰等に歴々として顯はれて居る。今や武力が國防の凡てではなく、又戰鬪は武力のみを以つ終始するものではなくなつた。現在に於て然り、將來に於ては益々然らざるを得ないであらう。此の見えざる戰鬪を唯一の力とし、全世界に亘り大なる役割を演ずるものは、卽ち國際的民族たる猶太人である。從つて猶太民族を研究することは、我々日本國民として、國防上よりするも當然爲さねばならぬことである。

著者安江中佐は、予の最も親しき友人である。中佐は猶太民族の世界的役割に着意し、多年猶太民族研究に從事して其の事に精通し、且つ親しく其發祥の地たるパーレスタインを

始め歐洲各地を巡歴して、各國の猶太民族に接觸し、其交友も亦頗る廣く、猶太研究の先覺者として、一大權威たるを失はない。本書に說く所一々實際に徵し、論旨肯綮に中り、而も憂國の至情、切々章句の間に溢れ、猶太民族の研究上絶好の資料である。予は中佐の達識と憂國の至情に深厚なる敬意を有するものである。猶太問題の研究は獨り軍人のみに限らない、有らゆる階級、職業を通じ、等しく之を諒解知得し、以て我が大和民族の使命と國家萬年の光明の爲に、十分の關心を茲に傾けることを熱望して已まない。

甲之戌盛夏

南次郎

增補改訂に際して

本書發行以來、愛讀者日に增加し、好評嘖々たるは、本書が單に時代の要求に適應して居るといふ許りではない。實に廣汎多岐なる猶太民族の眞相を、能く此の小册に簡明平易に取纏めてあり、而も猶太問題の理解あるなしに拘らず、何人にも趣味多く讀了し得るからであらう。

今や世界は極まりなき急變轉を爲し、猶太大勢力の極東進出に伴ひ、我が帝國に取つて猶太問題は益々深刻化して來た。

依て當部は、此情勢の變化に鑑み、特に著者に增補を請ひたるところ、頗る重要なる數章を寄せられ、本書に千鈞の重みを加へられた。玆に本書の增補改訂を紹介すると共に、著者の勞に對し深甚なる謝意を表する次第である。

昭和十二年六月

財團法人 軍人會館事業部長 平田重三

自序

私が玆に在郷軍人會本部の御依頼に依つて、猶太民族に關し、私の研究の一端を説述する機會を與へられたことは、眞に光榮に存する次第である。

猶太人に關する問題は、世界の經濟、思想、外交等各種の方面に關係を有し、而も其の範圍は、猶太民族が地球の有らゆる方面に分散して居ると同樣、地球全面に亘つてゐる廣汎な問題である。從つて猶太民族に關する總ての方面に立ち入り、深く檢討することは、素より此の小冊子の許す所ではない。

併しながら日本人が、尚ほ永く小島國に蟄居してゐるならば格別であるけれども、今や大和民族は、時到つて其の國是たる天業を恢弘すべく、既に大陸に乘り出し、我が日の本の光は皓々として、東洋の一角から世界を照し始めてゐる。我々大和民族は、之から有らゆる障碍を排除し、盤根錯節を超え、我が國の使命遂行に向つて邁進し、世の有らゆる邪

惡を芟除し、全世界の人類の爲に、皇道に立脚する眞の世界平和を招來せしめねばならぬ。

此の意味に於て、世界の各種方面に隱然たる大勢力を有する、不可思議なる猶太民族に就て、我々が其の實相を捉へておくことは、極めて必要なことであると思ふ。

又猶太人勢力の影響は、單に吾人の對外的の問題ばかりでなく、對内的にも有形無形上大なる關係を持つて居る。從つて我々は、事苟くも猶太勢力の影響ある問題に關しては、猶太民族を認識して、外に處すると同時に、内に顧みる必要があると考へる。

猶太問題は、世界的には最も古い問題であるが、我が國にとつては、極めて新しく、又極めて重要な問題である。從來猶太民族に關する研究は、彼等猶太人が顯然たる國家を有せず、且つ其の活動が直接吾人の耳目に觸れないのと、今一つは彼等が國際的民族なる爲め、其の影響を吾人の日常生活の利害の上に、直接認識し得ない所から、問題の無い所に態々問題を作るが如く考へ、或は全く無關心に之を看過する人々も尠くなかつた。

併しながら過般猶太勢力が、國際聯盟の日支交渉問題に於て顯然として現はれ、又思想經濟問題に於て、彼等の活動が明かに認識されるに及んで、今更の如く、猶太民族の勢力を、人々が感得するやうになつた。

私は今迄隱れたる猶太人の勢力に就て、本書の許す限りに於て、研究の一端を紹介しようと思ふ。それにつき最初に一言して置きたいのは、私は本書を借りて猶太民族を呪詛しようといふのではない、又親猶太主義を皷吹しようとするのでも無い。私の觀察して居る猶太民族を、ありのまゝ讀者の前に展開し、猶太民族に關する認識を、多少なりとも深からしめたいと思ふのである。從つて全く公正なる立場に於て、親疎何れにも與せず、本書に筆を執る次第である。

昭和九年盛夏

著者識

跋

猶太問題は兎角、我國の外交、政治等に表立つて現れて來ない爲に、世人は凡そ我々と緣の遠い問題の樣に考へられて居つた。併し世界に現れ行く我が日本勢力の進展に伴ひ、又、一方猶太勢力の極東進出に關聯して、此の問題は最早單なる學究問題として、輕視することが出來なくなつた。況んや日獨防共協定が締結せられ、一部猶太人の攻擊の矢が、はつきりと我が國に向けられるに到つては、盲目で之に對することは、危險此の上もないことである。

本書發行以來、幸にして讀者の多大なる好評を博し、些少ながらも世の猶太民族に對する認識を新たにし、前軍人會長鈴木大將閣下の依囑に報ゆるを得たのは、菲才なる著者の誠に欣幸とするところである。

今回本書の改版に當つて、成る可く我が國に關係深き猶太問題の現實を捉へ、之を増補し、更に本書發行の目的に添ふ如く努めた。參考の爲め増補改訂の要點を左に掲げ、以て跋に代へる次第である。

卷頭に『相遭遇する猶太と日本の陰陽兩勢力』を新たに設け、

一、平和戰の雄猶太民族、

二、日獨防共協定と猶太民族、

三、最近歐米に現れたる猶太人の活動、

四、猶太財閥の支那經濟制覇と上海緬甸鐵道の建設

の四節を新たに加へ、又『國際聯盟』の章に、

日本の聯盟脫退後に於ける猶太の補强工作

を追加し、又、フリーメーソンと猶太人の章には、

フリーメーソンの國々、

フリーメーソンの習慣と表徴、

の二章を増補し、『革命と猶太人』の章末に、

現ソヴエート政權と民族爭鬪

の一章を加へ、『猶太人口並にその世界分布』の章には、最近に於ける統計表を末尾に添加した、更に『猶太人の財的勢力と其の影響』の章中に、國際猶太資本の偉大なる實相を具體的に述べ、これが國際政局に及ぼす影響を說述した。

昭和十二年六月十日

著者識

増補改訂 ユダヤの人々 目次

挿入寫眞

ユダヤの人々

陸軍歩兵中佐　安江仙弘　著

一、相遭遇する猶太と日本の陰陽兩勢力

一、平和戰の雄猶太民族

今世界は激烈な平和戰の眞最中である。蓋し我國の非常時、世界の非常時といふも、これを意味するものではあるまいか。私が茲に平和戰といふのは思想戰、宣傳謀略戰、外交經濟戰等見えざる戰を指すのである。この各種の見えざる戰が、今國際間ばかりでなく、一國内にも相綜錯して行はれてゐる。そしてこの平和戰の絶頂に達した所、鐵火を發し、人類爭鬪の極點であるところの武力戰を展開し、地も空も硝煙に蔽はれてゐる。

見よ、西班牙を。共產主義、社會主義、無政府主義等、凡ゆる左翼團體の合同軍の人民戰線と、ファッシスト、愛國黨、王黨、基督敎團等の右翼團體、卽ち國民戰線と、首府マドリッドを中心に同胞相撃ち、鎬を削つて居るではないか。人民戰線にはソヴエート露西亞を始めとし、佛蘭西チェック等が加擔し、國民戰線には、獨逸、伊太利、墺太利等が公然支援し、甚だしきは之等の義勇軍同志が、西班牙人そつちのけで國際戰鬪を續けてゐる。西班牙は方に世界思想戰の白熱化の縮圖である。

併し顧みて我が皇國の現狀を見る時、世界無比の國體を有す我が國は、果して純日本の大思想に全國民が統一されて居るだらうか。將た又、世界大戰以後今日迄の我が思想界は果して如何。我が神聖なる皇國內に各種の思想相剋するものなしと斷じ得ようか。

それは偖ておき、現ソヴエート露西亞のトロツキー對スターリンの爭鬪も亦民族爭鬪なると共に、立派なる思想戰ではあるまいか。

『思想は何人も持ち得べき人間の最も偉大なる武器である』と、昔英國の宰相ピットが述べたが、

幾多の平和戰中最も恐るべきは思想戰であらう。この思想戰にみるに、その性質の矯激なると共に、その破壞力及び侵蝕力の最も强烈にして、社會人類に深刻なる影響を與へて居るものは、即ち猶太民族に根源を發する所の思想であらう。

實に猶太人は世界思想戰のオーソリチーである。

ソヴエート露西亞を根據とするところの、赤の思想の根源は猶太人マルクスであることは、餘りにも有名なことで、尙その實行者も同じく半猶太人であるところのレニンであり、トロツキーであり、ジユノヴイエフであり、ラデツクであり、リトヴイーノフ等である。又逆に猶太人の有名なる人々、例へば詩で有名なハイネ、獨逸帝政顚覆に活動したりしリーブクネヒト、相對性原理で有名なアインスタイン等の思想をみる時、孰れも非國家的左傾思想の多分に現はれてゐることを我々は否むことが出來ない。

偖て現在世界にはその國家體系に於て、各種各樣の國があるが、世界的の隱然たる勢力を有する一つの世界國家なるものを我々は認めない譯にはいかない。これが即ち猶太人の世界國家

なるものである。そこで世界の國々を表國家とすれば、猶太の見えざる國家は裏國家である。特に我が國は表國家中の代表的なるものである。從つて日本及び猶太國民はお互に正反對の立場にあることを、我々は認識しておく必要があると思ふ。

猶太民族は大昔アッシリアの爲に國家滅亡し、その後諸國の屬領として幾變遷を經たが、西暦百三十五年、羅馬の追放政策によつて、三々伍々世界に流浪し、今では凡そ人間の住むところ、猶太人の姿をみないところがない程、世界中に分散してしまつた。目下日本及び支那丈けでも一萬五千の猶太人が活動してゐる。

併しながら猶太人は、エホバの神に對する熱烈なる信仰と、強靱なるその民族的傳統力と、燃えるやうな民族愛と、年と共に愈々熾烈なるところの故郷聖地に對する愛著の念とによつて、その民族的結合は、その世界分散と共に、弛むことなく益々強固を加へ、凡ゆる迫害に抗し、日に富み、月に榮えつゝ、遂に今では見えざる世界猶太國家を形造つてしまつた。即ち裏國家とは此の滅亡して、形の見えざる猶太の特殊國家を指したのである。

此の人一倍强烈なる民族意識と、猶太人のみ獨り神に選ばれたるものなり、との自負心を有する猶太の人々が、國家なくして存在する爲には、我等、國家を有する民族と異つた民族爭闘の方式を選ばねばならなかつたことは當然である。

そこで武器を持たない彼等としては、先に述べた平和戰の方式を自ら採用したのである。從つて彼等は獨り思想戰の大家である許りでなく、經濟戰に於ては正に世界の雄であり、又宣傳に、外交に、謀略に彼等の右に出づるものはないと思ふ。

二、日獨防共協定と猶太民族

一九三五年七月二十五日から、同二十七日に亙つて、露都モスコウに第三國際共產黨第七回大會が開催された。參加團體五十七、出席代表五百十名で、第二國際共產黨を始め、各種の社會主義團體と聯合し、その戰線を統一して、人民戰線の構成をする爲め討議を行つた。その決議文は當時、我が新聞紙上にも報道せられたのであるが、その重要なる點は次ぎの如くである。

一、國際共産黨は從來に於ける諸團體との對立觀念を清算して、專らファシズムに對する單一戰線の構成に邁進する。即ち反ファシズム戰線統一の手段としてその何物たるを問はず、之と提携し、高遠なる理想論を排して、日常卑近の現實的事業を捉へ、且つ各國の特殊事情に即應するが如き方法を以て、不知不識の間に大衆を自己の傘下に引き入れ、ファッショ乃至ブルジョア機關に積極的に潜入して、内部より之を崩壞せしむること。

二、赤化の主攻撃を日本及び獨逸、波蘭に撰定し、此等の國を撃破する爲め、英・佛・米の資本主義諸國とも提携し、各個に撃破するの戰略を採ること。

三、日本を中心とした赤化の前提として支那の利用に力を注ぐこと。

此の決議の實行として、第二國際共産黨を始め、各國に於て公認されてゐる幾多の社會主義團體と提携し、人民戰線の統一强化を圖り、以て赤化工作に活躍することになつた。

日本は、此の世界赤化の本源國際共産黨に對し、昨年十一月二十五日、獨逸と防共協定を締結した。即ち獨逸と思想戰の共同戰線を張つたのである。

このナチスの獨逸が、徹底的に猶太人を排斥してゐることは、何人も知らぬ人はない。ヒツトラーのナチス政權成立當時、獨逸在住猶太系民族、卽ち猶太敎徒、改宗猶太人及ひアリアン人種との混血種、併せて百七十四萬居つたのであるが、最近の報道によれば、その中、獨逸より追放或は亡命せるもの、實に四十九萬九千餘と傳へられて居る。その中には有名なノーベル賞を受けた小說家トーマス・マーンを始め、プロ作家であるところのベレヒト及び、元藏相ルドルフ・ヒルフアンデング博士も入つてゐる。從つて猶太民族の世界分布にも大變動を來したことは申す迄もない。

抑ゝ猶太人マルクスの主義を實行せんとする猶太人及び、その共鳴者によつて、組織されて居る所の國際共產黨員からなるソヴエート聯邦政府、並びに猶太人に關して、昨年九月十日ナチス大會に於て、ローゼンベルグ外交部長及びゲツペルス宣傳相のなしたる宣言は、よくその眞相を衝いてゐる、先づローゼンベルグ外交部長宣言の中に、次ぎのことがある。

『ソ聯邦政府を支配する者は、農民に非ず、勞働者に非ず、實に猶太人に依つて指導さるゝ最

も苛酷なる國家資本主義である！　赤軍は全世界猶太禍の旗幟を掲げ、武裝せるプロレタリアの前科者を第一線に据ゑ、歐亞兩大陸諸國を内外から脅威して居る！』

更にゲッペルス宣傳相は、次のやうに述べてゐる。

『今や猶太人は歐洲各國の文化を潰滅に導き、國際猶太帝國建設の爲め、あらゆる手段と方法を盡して蠢動して居る！　各國民は今こそ奮起して世界の危機を救濟する爲め、ボリシェヴィズムとの鬪爭を開始せねばならぬ。彼等は曾て露國に施した所を今西班牙國内に繰返して居るが、西班牙内亂を全歐洲に擴大するのが、彼等窮極の目的である。ボルシェヴィズムは今や理論鬪爭の對象ではなく、歐洲死活の大問題である。ヒットラー總統は率先猶太禍に對する抗爭の火蓋を切つた。兩極は決して妥協しない……』

右の宣言の眞實なる限り、日本國民は防共協定の成立によつて、猶太民族を理解するの必要性が倍加されたのである。

我々は國際共産黨に對して公然獨逸と共同戰線をはつた以上、國際共産黨と不離不則の關係

にある猶太民族に對しては、其好むと好まざるとに係らず、無關心であり得なくなつたのである勿論この猶太の赤化主義は猶太の世界政策中、最も尖銳過激な一部に過ぎないのである。この外世界大祕密結社フリーメーソンを背景とする大勢力が潜んでゐる。又他に世界三分の二の大資本を所有する猶太大資本主義が、傲然として構へて居る。況んや此等の猶太勢力が歐米は勿論、支那及び日本までも及んでゐるに於ては、尚更のことではあるまいか。

話は少し變るが、去る十二月一日、英京倫敦にファシストの猶太人に對する大示威運動が擧行された。彼等ファシストは例の黑襯衣を着け、倫敦東區にある猶太人居住地に、大デモンストレーションを行つた、これを見て憤慨したのは共産黨及び獨立工黨である、早速寄り〱集團して反ファショの大運動を始めた。正反對の思想團體が敵意を以て、同じ處で打突かつたから堪らない、そこに大騷動が持ち上つた。かうなつては警察も默つてゐる譯にはいかない、早速出動した。併しこの警察隊の出動位で驚く連中ではない、遂に相互に實彈が飛び始めた。そして三者三つ巴になつて大混亂となり、これが爲めお互に多數の負傷者を出した許りでなく、

一般民衆は逃げようとして折り重なつて倒れ、此處にも多大の死傷者が生じた。

この事件は、デモクラシーの英國に、フアッショの反猶太主義の勃興を實證するものであるが、併し英國に昔から根強く張られた猶太の勢力は頗る偉大で、英國が今から猶太勢力下より脱することは絶對に不可能とされて居る。

三、最近歐米に現れたる猶太人の活動

米國現大統領ルーズベルトの幃幄にあるところの重要なる人々の中、財政顧問の首席ヘンリー・モーゲンソー、ベルナード・バルシユ、ジエームス・ウアールブルグ、ブランデス判事等、猶太人ならざるものありや否や。

先般、世界の耳目を聳動したシンプソン夫人は、英國皇帝エドワード八世の退位の後、猶太財閥の最高峰ロスチヤイルド家の墺太利ウヰーンに於ける別莊に、エドワード八世を御待ち申し上げた。その後シンプソン夫人は米國の左翼文壇に有名なる、自稱「社會主義煽動小說家」

猶太人アプトン・シンクレアの姪であることが明瞭になつた。この事件は生粋の倫敦子を大に激昂させた、中にはわざ〳〵シンクレアに宛て、

『汝はシンプソン夫人は米國の花である、と云つたさうだが、我等は絶對に反對の意見を持つ云々』

の電報を、態々何磅かの高い料金を拂つて、打つた者があると傳へられてゐる。

このシンプソン夫人事件は、我國の一部の人々が模範と考へて居つたデモクラシーの英國と、皇國日本との國體的差異を明らかに實證してくれた外、我國にとつては何等の關係もなかつたが、併し今の猶太民族の地位は、賤められた憫れなるものではなく、歐米の上層社會にどれ程まで勢力をもつてゐるか、といふこと丈でも明らかに示して居ることゝ思ふ。

次ぎに佛蘭西共和國は、猶太人の爲に建設されたものであるといつて過言ではない。今迄は財的に、政治的に、猶太勢力が蔓つて居つたが、赤露と握手をなし、人民戰線は結成され、しかも西班牙の動亂に勢ひを得て、その赤化は遽かに進展し、已に佛國將校の三分の一は赤化せ

りと云ふに到つては、實に驚くべきことである。

即ち佛蘭西は、猶太思想中の最も尖鋭過激なる思想の侵略を受けつゝあるのである。過般のラヂオは、佛國政府が猶太人の爲に植民地をマダカスカルに設ける用意があることを放送したが、これは佛蘭西に於ける猶太の政治的勢力の一つの現れではあるまいか。

ソ聯邦百八十萬の赤軍、七千臺の飛行機、整備せられたる莫大の機械化兵團を背景とする猶太思想の東方侵略に就いては、餘りにも明瞭であるからこゝで述べることは差控へよう。

四、猶太財閥の支那經濟制覇と上海緬甸鐵道の建設

先年支那は幣制改革を斷行して、南京政府の發行する紙幣を交換に、支那民衆が命より大切に蓄へてゐる銀を全部捲き上げてしまつた。即ち銀國有を實施したのであるが、これは蔣政權の紙幣による支那統一であつて、この紙幣を握らせられた民衆は、この紙幣を紙屑にする覺悟がなければ、蔣政權を離れることは出來ない。この大政策は一體誰の提案したものであらうか。

現英國の財政顧問として、飛ぶ鳥も落す大勢力を有する、猶太人リース・ロス博士の提案によるものである。その結果、英國及び猶太財閥は南京政府の壞倒を禦ぐと同時に、日本の北支進出を喰ひ止めて、日本勢力の南下を豫防し、その猶太投資の將來を保證したのである。それならば何故日本の北支進出を銀國有が阻止するのであるか。

之は今述べた通り、北支民衆は銀の代りに握らせられた蔣政權の保證する紙幣を紙屑にする覺悟がなければ、日本と反對の立場にある蔣政權と分離して、日本の側に立つことが出來ないからである。

又この銀國有といふことによつて、この銀を直接とり扱つた猶太財閥は莫大の利益を獲得したのである。リースロス博士は先年夏に日本へも來た人であるが、彼の出身は波蘭猶太人である。そしてこの銀國有の問題は昨年八月、倫敦に開かれたる猶太人會議に於て討議せられ、その結果、支那幣制改革に要する國庫準備金として、先づ英國は南京政府の一千萬磅の借款に應じ、その金は支那第一の猶太財閥の巨頭サッスーンが引き受けることに決定されたものである。

先般張學良が西安に於て蔣介石を逮捕し、内外を驚かしたが、當時その生死不明と共に先づ影響を現したのは支那の財界で、殊に蔣政權の先きに發行した紙幣が大動搖を來し、我が國も當時多少の影響を蒙つたのであるが、その際一般に最も心配されたものは何であるかと云へば、この紙幣が宛かも露國帝政顚覆當時のロマノフ紙幣の樣に、又獨逸帝國崩壞時に於けるマルクの樣に、大暴落を來し、これが爲め支那に經濟的大危機が到來するであらうと云ふことであつた。併し事實はこの豫想に反した。この西安事件が起ると同時に猶太財閥を背景とする宋子文が先づ第一に猶太銀行に駈け附けた。その結果猶太財閥は、支那の紙幣に對しては、彼等が保證する旨の聲明を發した。この一聲明によつて流石動搖を來した紙幣の暴落は一度に止つてしまひ、支那紙幣の市價は依然今迄の價値を保持することが出來た。この一事を以て見るも如何に支那に於ける猶太財閥の勢力の牢乎たるものであるかといふことが窺はれるのである。

目下、支那に於ける猶太財閥は、新舊二派の種類があつて、舊猶太財閥の表面に踊るもの、即ち蔣介石である。新猶太財閥の表面に踊る者、即ち宋子文である。若しも以上の事が事實で

あるならば、現支那を觀察する上に於て、英國の勢力にカモフラーヂされ居る猶太財閥の勢力を度外視して、支那の眞相を掴むことが出來ようか。

先般、南京政府は上海を起點とし、杭州、南昌、長沙、貴陽、雲南を經て、略揚子江と併行に、緬甸に到る蜒々五千五百支里、日本里程の約八百二十里に亙る鐵道敷設を計畫した。その費用は一千五百萬磅で、その諸材料は英國政府が供給し、これが爲め支那政府の發行する國債は猶太銀行團が割引して引受けることになつた。この上海より緬甸に到る大動脈の完成は、表面英國勢力の伸長であると同時に、その實際に於ては猶太の資本的勢力の緬甸への進出に他ならないのである。卽ちこの開拓せられ行く沿線の大富源は、無限の資本を擁する猶太財閥の開發に委せられるのである。我が北支進出の停頓に反して、猶太財閥の支那の西南部及び西北方奥地への進出發展が如何に目覺しいことであらうか。

以上は最近世上は現はれた猶太勢力の一端を述べ、以て猶太民族に對する、ほんの概念を讀者に與へんとしたに過ぎないのであるが、兎に角、この非常時に於て、猶太民族から我々は非

常な影響を蒙つてゐることだけは、一般に諒得し得られたと思ふ。
猶太の人々を說くに當つて、最初に斯の如きことを述べたのは、單に猶太民族研究の必要を强調する目的ばかりではなく、彼等の最も得意とする、又彼等の生命とする平和戰から、日本は過去及び現在に於て、如何なる影響を蒙つて來たかといふことを內に省みつゝ、猶太民族は決して我々とは無關係なものではないといふことを頭において、本書を讀了して頂きたいからである。

二、國際聯盟は即ち猶太人聯盟

一、國際聯盟の起源と猶太人

本書を認むるに當り、猶太民族を理解する必要上、猶太民族の歷史的の觀察及びシオニズム並に猶太人の世界分布のの現況等について述べるのが順序であるが、此等は一般的事柄である

から、逐次に後から述べることにして、先づ今日の我が國の非常時を招來し、當時吾人の耳目を衝動した所の、彼の國際聯盟の日支交渉問題に於ける、猶太民族の活動振りを知り、以て其の勢力の一端を窺ふことにする、それには先づ國際聯盟の起源と猶太關係から述べねばならぬ。

世界大戰に於て、參戰諸國は悉く疲弊困憊し、彼の世界的經濟恐慌も畢竟此の大戰の結果に外ならなかつた。然るに此の世界大戰に於て、非常なる飛躍を爲し、莫大なる利益を獲得し、斷然其の勢力を伸張したものがある。此は申すまでもなく猶太民族である。大戰間の戰時成利得の大部は、殆んど米國に集められ、米國は世界の大成金國になつたが、此の米國の戰時成金七十三パーセントは、實に猶太人であつたのである。而も歐洲諸國の猶太人も、各國民の疲弊に反比例して肥つたのであるから、世界大戰は猶太人の金庫に金を集中したといへよう。此の財的勢力の增大と平行して、國際政治上に於ける猶太勢力は、一躍擡頭した。

先づ世界平和會議に於て、歐洲諸國の英佛等の聯合國側からも、獨逸、墺地利の同盟國側か

國に依つては委員の
ら も、代表者、委員、及び顧問として驚く可き多數の猶太人が參加した。
殆んど全部が猶太人から成つて居つた。從つて之を見た佛蘭西人は『此の巴里の平和會議は、
コウシア會議だ』と評した。卽ちコウシアといふのは猶太の精進料理の名前で、平和會議を猶
太會議と評したのである。又イー・ジエー・デイロン博士は其の著『平和會議裏面物語』に、
『讀者中に斯ういつたなら、不思議に思ふ人もあらうが、アングロサクソン民族背後の眞勢
力は、實にセミチツク民族（猶太民族）であることを確信した……』
と述べ、更に、
『各代表は米大統領の提案した宗敎的差別問題、特に其の提案の動機を不思議に思つた、併
し之れは大統領が、諸小國に課した少數者保護の手段で、實に東歐諸國に散在する猶太人の
歡心を求めようとする秘策であつたのだ。遂に各代表は、巴里に蝟集した猶太人が、其の計
畫を實現する爲めに立案して、之を强要したものであることを看取した……斯くて世界は、
表面アングロサクソン民族により支配せられて居るやうであるが、實は該民族はその內部に

於て、交互に猶太人に左右せられて居るものである云々』と述べて居る。

平和會議當時の有樣が既に右の通りである。從つて之れから生れた國際聯盟が、猶太勢力と無關係なことはあり得ない。實に國際聯盟は米國大統領ウィルソンに依つて唱導提議せられたのであるが、此のウィルソンの秘書役で、ウィルソンに大小となく進言し、裏面に於て大活動を演じた人物が猶太人である。彼は「米國のヂスレリー」と呼ばるゝバーナード・エム・バラチといふ有名な亞米利加猶太人であつて、米國人は彼を超猶太人といつてゐる。併し米國あたりの噂では、ウィルソンは、此の米國猶太執政官バラチの傀儡で、又國際聯盟なるものは、素々バラチ等の猶太人と、フリーメーソンの人々に依つて提言されたものであると言つて居る。

そこで猶太人が提言した國際聯盟に對し、猶太人自らは之をどう解釋してゐるか、一九二五年(大正十四年)十一月十五日發行のヴュー・ジュネーヴ紙に記載された『猶太人と國際聯盟』と題する、猶太人の書いた記事によると、

『……その指導精神からして國際聯盟は、イスラエルの運命に二重の關係がある。國際聯盟

は國際問題の平和的解決の機關であるからして、國際民族たる此の猶太民族より以上の確固たる支援を受けることは出來ない。而して猶太民族の國際主義は、イデオロギーではなくして現實の問題であり死活問題である。……吾人は國際主義の最初の具體的提案者であつた……國際聯盟は、猶太民族が其の全世界へ離散以來、民族生活の根底をなして居る事柄を、政治的に實現するものである』

と、此の記事によると、其の成立の如何を問はず、少くも猶太民族の國際聯盟に對する根本觀念は明瞭に現はれて居る。

又事實に於て、國家を持たない而も全世界に分散居住する猶太人にとつて、猶太政策實行の爲に、此の國際聯盟が如何に便利なものであり、且つ猶太人か之を利用しようと努力することは、彼等としては當然のことであると思ふ。

二、聯盟內の猶太勢力と日支問題

事實に於て國際聯盟が成立すると猶太人等は、此處に堅固な地盤を築くために、不斷の努力を拂つて來た。其の結果として聯盟の内外は、遂に猶太人を以て充たされるに至つた。日支問題勃發の際、聯盟に於て此の問題が論議された當時、我々は所謂非常時として活躍し、國民皆非常に緊張して、ジュネーヴの空を注視して居つた。日々の新聞によると、佛蘭西代表は斯く言つた、西班牙代表はあゝ言つた、或は英國外相は此樣に述べたと、逐一報告されてゐる。併し新聞には佛蘭西とか、獨逸とか或は英國とか、各々其の國名が並んでゐたが、此等の活動人物を民族的に觀察して居つたものは一つもない、そこで此等の人々を民族的に見ると、此の聯盟内外には猶太人の勢力が、如何に根強く植ゑ付けられてゐるかゞ實際に首肯かれる。

最初に、日支問題勃發以來、我々日本人の腦裡に深い印象を與へた聯盟事務總長ドラモンドは英國猶太人である。事務總長の一人は我が杉村陽太郎氏で、今一人の事務次長はアブノールといふ佛國猶太人である。

其の後ドラモンドが事務總長を勇退し、事務總長であつた猶太人アブノールが、事務總長に

就任し、國際聯盟の元締は、依然猶太人に依つて占められて居る。國際聯盟の四人の部長は皆猶太人である。其の一人は交通部長でリツトン調査團の秘書長となつた佛國猶太人のハースである。我々に大憤激を與へた彼のリツトン報告書は、リツトン卿の名前にはなつて居るが、あれを起案したのは此のハースである。彼はまた聯盟から派遣されて、支那の交通顧問といふことになつてゐる。

次はかの有名なライヒマン博士である。彼は聯盟の衛生部長で、上海事變當時眞茹の無線電信所に立籠つて、三百何十通の日本に不利なる秘密電報を打つた波蘭猶太人である。ライヒマンは國際聯盟から、支那の技術的援助の名目で派遣され、此の間屢〻支那に往復したが、當時問題になつた所の宋子文等の親米排日要人によつて企圖された銀公司は、ライヒマンの計畫であることが暴露報道されて居る。

その次には、經濟部長は獨逸猶太人ソルターであり、宣傳情報部長は猶太人コンメンである。

日支交渉の大詰に活躍したチェッコ・スロバキヤ代表ベネッシュは、やはり猶太人である。彼はチェッコ・スロバキヤ建國以來の外相で、且つ聯盟創設者の主なる一人である。過般の日支事件に、彼が小國側の陣頭に立ち如何に活躍したかは、今尙ほ吾人の記憶に新たなるものがある。彼は其の後チェック・スロバキヤ第一代の大統領猶太人マサリツクに次いで大統領に就任した。歐洲大戰後 此のチェッコ・スロバキヤ國が獨立する際、我が日本は多くの同情を之に寄せ、尠からず援助を與へて居る。然るに日支問題が聯盟會議に論議せられた時、日本を仇敵視し、最も激しく日本に楯突いたのは、此のチェッコ・スロバキヤ國の代表たる一猶太人であつた。彼は國家の代表としてよりは、寧ろ猶太民族の代表として、活動したのではあるまいか。西班牙代表マダリアーガも亦猶太人で、彼の活動も素晴らしいものであつた。

十九ケ國委員會の議長をやり、最後の總會で議長を勤めた白耳義代表イーマンスは、白耳義の猶太人で、ベネッシュとは無二の親友である。

日支事變が始まつた當時、佛國代表として聯盟に牛耳をとり、其の後間もなく死んだ有名な

プリアンの秘書官長は、支那通で親支主義者のレーゼといふ、佛蘭西猶太人である。

右の外聯盟の外廓に於ても吾人は大なる猶太人を見るのである。卽ち英國前外相レーヂング卿も、次の外相サイモンも共に英國猶太人であることは、有名な事實である。

尙ほ支那本部に居つて、滿洲事變上海事變當時、日本軍と大なる交渉を持つた英國公使ラムプソン、米國公使シムプソンは何れも猶太人で、又上海工部局長（市長）として有名なフェツセンデンが米國猶太人であることは之亦周知のことである。

斯のやうに系統的に集めて見ると、國際聯盟の內外に於ける活動役者の殆んど大部分が、猶太人であつたといふ事實に、今更一驚を喫する次第である。

此の國際聯盟の會議中に、猶太人會議が屢〻開かれて居る。それは獨逸、佛蘭西、白耳義、英吉利其他の國々から猶太人が集つて、猶太民族としての會議を開いたのである、之は日支問題に就て、猶太民族として取るべき方針を決定する爲の會議であつたのである。其の他フリーメーソンの會議も屢〻ジュネーブの一角に行はれて居る。

聯盟の會議に於ける日支交渉の論議は、民族的に見て、結局日本人對猶太人の論爭であつたというて、決して過言ではない。又之と同時に聯盟内外に於ける猶太人の勢力が、如何に偉大であるかといふことを窺知することが出來よう。

以上記述した處を一層見易くするため、之を一表に纏めると次の通りである。

氏名	職名	人種別	秘密結社	要件
ドラモンド	聯盟事務總長	英國猶太人	フリーメーソン	
アブノール	同事務次長（現事務總長）	佛國猶太人		
ハース	同交通部長	佛國猶太人	フリーメーソン	リツトン卿書記官長、リツトン報告書起草案者支那政府交通顧問
ライヒマン	同衞生部長	波蘭猶太人	フリーメーソン	支那政府衞生顧問
ソルター	同經濟部長	獨逸猶太人		
コンメン	同宣傳情報部長	猶太人		
ベネツシユ	チエツコ・スロバキヤ代表	チエツコ・スロバキヤ猶太人	フリーメーソン首領	聯盟創始者、當時のチエツコ・スロバキヤ外相、現大統領

マダリアーガ	西班牙代表	西班牙猶太人	フリーメーソン
イーマンス	十九ヶ國委員會議長	白耳義猶太人	フリーメーソン
レーゼ	故ブリアン秘書官長	佛國猶太人	
レーヂング卿	英國前外相	英國猶太人	フリーメーソン
サイモン	英國現外相	英國猶太人	フリーメーソン
フェッセンデン	上海工部局長（卽ち市長）	米國猶太人	
ラムプソン	英國公使	英國猶太人	
シムプソン	米國公使	米國猶太人	
顧維鈞	支那代表		フリーメーソン
顔惠慶	支那代表		フリーソーソン
王正廷	外交部長		フリーメーソン

右の表によつて、聯盟に於ける猶太人勢力なるものが判然すると同時に、猶太人を主とするフリーメーソンの秘密結社に、支那代表が加入してゐることも亦注目に値する。又此等のこと

を頭に置かずに、全然不認識で彼等と交渉しても、それがうまく行く筈はない。我が國の聯盟脱退そのものゝ善悪良否は別として、結局日支交渉が四十二對一の結果を現はしたのは、蓋し當然といはねばならぬ。

三、日本の聯盟脱退後に於ける猶太の補强工作

時のたつのは速いものである。國際聯盟に於ける日支交渉問題で、我が全國民が血を沸し我が代表が各國代表を全部向うに廻して、惡戰苦鬪の結果、帝國が一部の軟論を排して斷乎として脱退を宣してから、既に滿二年が夢の間に過ぎた。そして昨年三月二十七日で全然聯盟と名實共に別れを告げた。此の間に日本は一回轉した、卽ち歐米崇拜、歐米追從の不吉極まる夢から醒めて、自主的日本の眞の姿に歸つた。非常なる變り方である、喜ばしい覺醒である。

之と同時に聯盟其のものゝ姿は、世界の國際聯盟から、歐洲の國際聯盟に變つたが、變らないものは、其の本質と内容である、現在聯盟事務總長は佛國猶太人アブノールで、事務次長は

アブノールの後を襲うて、西班牙猶太人アズカラーチが就任した。そしてリツトン卿書記官長を務めた現事務局部長ハース、衛生部長ライヒマン、メキシコ代表猶太人カステロ・ナジエラ等と共に聯盟の猶太勢力を保持して居る許りでなく、其の補強工作さへ行つて居る。

此の補強工作といふのは何々であるかといふと、ソヴエート聯邦の聯盟加入である。ソヴエート聯邦の外相は有名な猶太人リトウイーノフである、此の怪星が聯盟の後楯たる佛國外相猶太人ラヴアール、英國外相猶太人サイモンの間を駈け廻り、猶太人で固めた聯盟に加入しようといふのであるから、聯盟から人並に扱はれなかつた所のソ聯邦でも、其の加入は易々たることで、一寸考へると不思議に思はれるが、此の消息を窺へば別に不思議はない。

そしてソ聯邦の聯盟加入の結果ソ聯邦の駐佛大使館の參事官であつた猶太人ローゼンベルグがソ聯邦代表となり而も聯盟事務總長代理に任命されたのであるから聯盟を通じて猶太の資本主義と猶太の共產主義が一體となつたのである。猶太の資本主義と猶太の共產主義即ち左右の兩極限は一致するのであるから、此一致によつて聯盟は完全に國際猶太聯盟となつたのである。



獨逸皇帝の王冠



墺國皇帝の王冠

今は唯骨董品として、ありし日の名殘を留むる兩帝國皇帝の王冠

つても、何事によらず四十二對一の現象は免れ難いことゝ思ふ。此の一點から見ても聯盟脱退は當然斷行せねばならぬものであつたらうと考へられる。

斯の如く觀察すると、日本の政策と猶太人の政策と背馳する限り、日本は聯盟に止まつて居

三、フリーメーソンと猶太人

一、フリーメーソンとは何か

國際聯盟の項で、フリーメーソンといふ言葉が出たから、玆にフリーメーソンに就て、その如何なるものであるかを、極く簡單に說明しておく必要があると思ふ。

扨てフリーメーソンに就ては、近頃我が國に於ても一般に認識されるやうになつたが、フリーメーソンと言へば、直に猶太人を想像する程、猶太人とは密接な關係を持つて居るのである。中にはフリーメーソンの陰謀は、即ち猶太の陰謀であると看做すものもある位である。

フリーメーソンは一名、マツソンと呼ばれる世界的大秘密結社で、以前は日本人の中でも、マツソンとかフリーメーソンとかいふ結社は、世界に存在してゐない架空のものであると考へたり、或はロータリー倶樂部のやうな一種の社交的團體であると思うた位、之に對する認識が極めて薄弱であつたけれ共、現在では此のフリーメーソンの結社の存在を、否定するやうな非常識な學者も無くなつたやうである。歐米では此のフリーメーソン結社について、今から私が說明する位の程度のことは、一般の人の常識として心得てゐる程である。

從つてフリーメーソンは、其の勢力世界各國に亙り、其の結社員は、各國共其の國の有力者を網羅し、數萬乃至數百萬人に及んで居る。其の內容及び策動は勿論秘密にされて居るけれども、各國にその結社の舍(結社員會合の爲の會堂)の存在すること及び自ら結社員たることを秘せざる如き、殆んど公然の秘密とされて居る位で、フリーメーソンは秘密結社と言ふよりは、寧ろ公開せざる結社といふ方が適當かも知れない。事實、フリーメーソンの結社員で、フリーメーソンは秘密結社にあらずして、公開せざる結社なりと、言うて居る人さへあるのである。

フリーメーソンは其の起源非常に古く、判然したことは明かでないが、昔ソロモン殿堂の建築技師として有名なヒラムが、其の創設者であると主張して居る派があり、又羅馬時代の建築組合が其の前身であると云ひ、或は十四世紀頃にあつた聖堂騎士の組合が、其の濫觴であると云うて居るが、之は國々の組合に於ける主張であつて、素より判然した證據はない。

併しウイヒテル博士の研究によると、英國に於ける昔の石工などの職工組合から發達したものであるといふのが、最も確かなやうである。昔工藝技術の發達しなかつた頃に、此の組合は獨特の技術を保持して居つた爲め、當時に於ける歐洲各國の大建築は、王侯の大殿堂を初めとして、此の職工組合卽ちフリーメーソンの手にかけたものが少くなかつた、從つて此の組合は社會的に非常なる勢力を有し、各國の王宮から特別の待遇を受け、特別の自由を與へられ、そして各國を遍歴した。又此の組合員の中には、不文律の規定や獨特の仁義が成立して居つて、彼等特有の傳統を持つてゐた。

其の後十八世紀になつて、此の職工組合なるフリーメーソンは、當時の牧師ヤコブ・アンダ

ーソンによつて、憲法が起草され、職工フリーメーソンが、精神的フリーメーソンに變化するに至つた。其の後結社員は獨り職工のみでなく、各方面の有力者を歡迎し、益々發達を遂げた。そして此の精神的フリーメーソンは、英國を根據として、歐洲諸國は勿論米大陸にも及び、各結社は其の國々に於て特殊の發達を遂げ、今日に及んで居る。

勿論此のフリーメーソンが、屢々國體破壞の原動力を爲したところから、例へば洪牙利、伊太利、及びナチスの獨逸に於ては、其の結社に解散を命じ、舍を沒收した。又最初から結社を嚴禁して居る國々もあるが、併し全般的には、依然として世界的一大勢力であるといふことを、認めなければならない。

此のフリーメーソンは、最初猶太人の入社を絶對に許さなかつた、それでゐてフリーメーソンの暗號や、各種の規定等に、猶太式なところが非常に多く、ある結社では、其の首領たる棟梁の命令は、生けるソロモン王の命令であるとしてゐる所がある。斯の如き猶太關係は、猶太人が結社に這入つてそれを入れたものではなく、舊約聖書から色々の點を採用したもので、此

の爲に猶太式の點が濃厚であると說明する向もある。

兎に角各國のフリーメーソン結社は、猶太人の入社を全然許さなかつたのであるが、十八世紀の末葉、獨逸のフランクフルト・アム・マインに於て猶太人を採用し始めたのを切掛に、逐次に猶太人の入社するものを增加し、遂に十九世紀に至つては、猶太人なき結社なしと言はるゝ程、此の結社に猶太人が多數を占めるやうになつた。

猶太人は一旦結社員となるや、結社員中最も忠實熱心なる結社員として、遂に其の勢力を獲得し、十九世紀末よりフリーメーソンを左右するものは、猶太人であると見なされるに至つた。

フリーメーソンは大體に於て、見習、徒弟、職工、棟梁等各種の階級に分れ、尙ほ國によつて三十三階級、九十五階級等多數の階級に分れて居る。

即ち猶太人がフリーメーソンの勢力を獲得したことは、要するにフリーメーソンの上層階級を占むるに至つたことである。何故に猶太人がフリーメーソン結社員として、斯く熱心であるかといふに、猶太民族は元來國家を持たない民族であるから、色々な活動をなす上について、

世界的の大團結の中に、彼等が根據を置くことは、非常に便利であり、又インターナショル式の結社を利用することは彼等分散生活者に取つて、最も好都合であるからである。

西洋では金持になりたければ、フリーメーソンに入れといふ位、彼等の仲間は國際的に、共通性を持つて居るのである。フリーメーソンのモツトーとする所は、自由、平等、博愛であつて、各結社員は相互に、國家及び民族を超越して、兄弟と呼んで居る。そして此の兄弟は、相互扶助と連帶責任の連鎖によつて、固く連結され、而も其の階級に應じて絶對服從を要求し、秘密嚴守は死を以て誓つて居る。彼の佛蘭西大革命のモツトーは、此のフリーメーソンのモツトーと全然同じであるので、佛蘭西大革命はフリーメーソンの革命であると、歐洲では一般に常識的に、認められて居る。

我が國に於ては維新以來自由といふ言葉、平等、博愛等の主義が輸入され、遂に民主主義的思想が我が社會に普及するに至つたが、此等は要するに、此のフリーメーソンの思想の輸入されたものである。從つて思想的に見て、フリーメーソンは我が國に間接に大なる影響を齎した

ものと言ひ得るであらう。

二、フリーメーソンの目的

フリーメーソンの理想は、自由、平等、博愛の人道的の言葉をモットーとして、世界をデモクラシー化し、茲にフリーメーソン主義による世界平和を建設しよう、といふのであるやうであるが、此の主義の實行さるゝに當つて、世界に如何なる作用を及ぼしたであらうか。

米國に於ける英國移民の革命的獨立戰爭を始めとし、佛蘭西大革命、露西亞、獨逸、洪牙利等の諸革命は、總て此のフリーメーソンの活動であると認められて居る。例へば米國はジョージ・ワシントン以下代々の大統領は殆んどフリーメーソンの錚々たる人物であり、洪牙利のハプスブルグ王家顚覆に活動した人物は、九十九パーセント迄は、猶太人であつたと同時に、彼等はフリーメーソン結社の社員であつたのである。

支那の帝國を崩壞させたのは、何にも外國人が直接活動したのではないが、よく觀察して見

ると、帝政顚覆に最も大なる役割を演じた大革命家孫逸仙は、フリーメーソンの世界的巨頭に擧げられて居る。從つて支那に於ける革命思想の本源は、此のフリーメーソンの思想に、胚胎して居るといふことを否むことは出來ない。

世界大戰は、フリーメーソンの一大事業であつたと看做されて居る。卽ち一九一四年六月二十八日、墺地利國皇儲フエルヂナンド大公は、サラエボに於てセルビアの一靑年の爲に暗殺され、玆に世界大戰の口火は點火されたのであるが、暗殺者に爆彈を交付したタンコシツ少佐も、又暗殺者にブローニングを手渡ししたチガノウイチも、共にフリーメーソンの結社員であつたことが、其の裁判の結果により明かになつて居る。又此の大計畫は、一九一二年既に佛蘭西の大結社に於て決定されて居つたと言はれてゐる。

此の世界大戰の結果、歐洲の諸國の帝冠は殆んど全部墜落せられ、フリーメーソンの理想とする共和國が出現した。そして遂に世界大戰後の平和會議も亦フリーメーソン式條件によつて、解決せられたと見なされて居る。

血染の軍服



フランツ・フエルジナンド大公の當時着用せし軍服、世界大戰は此一發より始まる。

墺國皇儲



フリーメーソンの犠牲者墺國皇儲フランツ・フエルジナンド大公。

米國大統領ウイルソンは、フリーメーソンの結社員で、相當上層階級に位置する人であるが、ウイルソンの平和條約十四ケ條は、フリーメーソンの目的に、適應したものであると言はれて居る。例へば第四條ミリタリズムの廢止・第八條アルサス・ローレンスの還附は、共にフリーメーソンの有らゆる機會に於て、要求した所である。第九條伊太利國境の改正に關する事項は、ブリーメーソンの大棟梁マッチニーが既に三十年前に之を提唱し、世界フリーメーソン社員が、主義上同意したものである。尙ほ又最後の第十四條たる各國の合同（國際聯盟）は、全くフリーメーソン式の事項で、過去三十年間フリーメーソン會議に於て、詳細に研究されたところである。

　そこでフリーメーソンの目的は、表面は前に述べた自由、平等、博愛であるが、其の最後の目的は、君主政體を廢止し、フリーメーソンによる世界共通の共和國を建設することである。卽ち言ひ換ふれば、政黨政派が自ら天下を取り、以て自己の主張する主義政綱により、政治を行ふことを考へて居るのと同樣である。

之を要するに、フリーメーソンの思想は、猶太思想に胚胎する所多く、現在のフリーメーソンは猶太人によつて掌握され、而して其の理想は、共和國の建設にあるのである。故に彼等に取つて帝國なるものは、最も忌むべきであり、且つ其の主義に合しないもので、所謂最も厄介な大障碍、即ちフリーメーソンの敵であると看做さるゝが當然である。

今や全世界には、英國の如き眞の主權なき帝國が、若干殘つてゐるが、眞の帝國として現存するものは、東洋の一角に毅然として聳ゆる、我が大日本帝國あるのみである。若しも前述せるフリーメーソンの目的にして誤りなくば、フリーメーソンの大風は、まともに我が帝國に吹きつけられつゝあることを、我々は覺悟せねばならない。

三、フリーメーソンの國々

前述の通り王政復古の洪牙利、ファッショの伊太利、ナチスの獨逸はフリーメーソンに解散を命じたが、米國はワシントンを始め代々の大統領マッキンレー、タフト、ルーズヴェルト、

ウイルソンも現大統領ルーズヴエルトも皆フリーメーソン結社員である。又英國はフリーメーソンの元祖であるだけに、皇室以下其の有力者は大部分フリーメーソン結社員で、英國の政策即ちフリーメーソンの政策であり、英國が今日の大を爲したのは、フリーメーソンの力によるものとさへ言はれて居る。

佛蘭西は現在全くフリーメーソンに占領された國家といつても過言ではあるまいと思ふ。昨年の二月巴里にスタビスキー事件といふのが起つて、當時各新聞紙上に報道され世界の人々を驚かした、此の事件は露西亞生れの猶太人スタビスキーといふ男が、バイヨンヌ市營質屋の證劵を僞造して、六億フランの金を詐取して居つたことが、暴露されたのである。併し單に大金詐取が暴露したといふだけなら大した問題ではなかつたのであるが、有力な兩院議員から內務省まで其の黑幕で、而も內相兼首相のカミーユ・ショータン迄其の背景を爲し、スタビスキーは單に其の手先に過ぎなかつたといふのであるから、騷ぎが大きい。此の一味は全部フリーターソンの有力者で、ショータン首相の如き、フリーメーソーの最高階級第三十三

階の位を持ち・其の全閣員は皆結社員であつた。そして此の事件から不可解なことが次から次へと生れた、即ち此の事件に關係したプランデス判事は、ティション市外の鐵道線路上に死骸となつて現はれるかと思ふと、事件の中心スタビスキーはシヤモニーの山の中で横死をして居る。而も司法警察そのものゝ事件取扱ひが頗る不思議を極めた。そして此の事件は結局闇から闇へ消え失せてしまつた。

フリーメーソン結社員が、相連絡して國家に大損害をかけたのであるから、此の事件以來佛國人民のフリーメーソンに對する憤激は非常に高まり、巴里では動亂まで起りかけたが、なんとか治まつた。之が爲めショータン内閣は崩壊したが、次いで起つたのはドーメルグ首相、之もフリーメーソンの手先きで、外相バルトウ初め閣員は皆其の結社員である。此の内閣が倒れると更にフランダン首相内閣を組織したが、之亦フリーメーソン内閣である。

併し佛蘭西内閣のフリーメーソンはショータン内閣から始まつたのではない、其の前を遡つて見れば、カイヨーも、ポール・ボンクールもステーグも、皆フリーメーソンの錚々たる連

中である。尤も佛蘭西革命其のものが、既にフリーメーソン革命であつたことに想到すれば、佛蘭西共和國の內閣のフリーメーソンであることを不思議に思ふ方が、寧ろ變なことである。目下佛蘭西のフリーメーソン結社員數は約五萬といはれて居るが、首相以下此の五萬人で佛蘭西はフリーメーソンの目的に向つて左右されて居る譯である。

スタビスキー事件以來、佛蘭西にはカトリツク聯盟、王黨を初めド・ラ・ロツク大佐の率ゐる在鄉軍人團たる十字架團等の反猶太、反フリーメーソンの團體が國民の間に結ばれて、活動を開始して居るのであるが、此の歷史的フリーメーソンの大磐石の土臺は小動ぎしさうもない。

最後にフリーメーソン卽ちマツソン結社なるものは、我が帝國と相反するものであるけれども、元來秘密結社だけに、彼等の國家的或は世界的大波瀾を捲き起すやうな大計畫は、最高統帥部にある上層階級の人々の畫策する所であつて、見習や徒弟の人々が、一々之に參加する譯のものではない。從つて下葉の結社員は、平常單にフリーメーソンの人道的なる自由、平等、博愛の國際主義を宗敎的に奉事しつゝ、フリーメーソンの相互扶助の恩惠に、浴してゐるのみ

である。故に某氏がフリーメーソン結社員として、加入してゐるとしても、此の人が直に我が帝國の顚覆陰謀に參加してゐると考へるのは、過早であると思ふ。

尙ほこのフリーメーソンの外に、ブナイブリス或はブネブリツトと稱する結社がある、之は全然他民族を混へない猶太人のみの、謂はゞフリーメーソンで、頗る猛烈なものであるが、目下着々東洋に進出しつゝある。

今や日本は、未曾有の國際的危機に向ひつゝある折から、此のフリーメーソンの活動に對しては、愼重に考慮すべきであると信ずる。

四、フリーメーソンの習慣表徴

參考の爲め、フリーメーソンの習慣と表徴とに就て、其の概要を紹介して見よう。全世界のフリーメーソン結社員は、御互に兄弟と呼んで居る、從つてフリーメーソン同志には國境がない、インターナショナルである。縱令戰爭で兩國相戰つても、戰鬪間相手が兄弟であると解れ

ば、撃ち合ひを止め、握手するといふ位である。

又フリーメーソンは三の數を非常に重んずる、第一其の教が自由、平等、博愛の三つからなつて居る。それで結社員がフリーメーソンに關する書類を認めるときには、文句の始めに三つの教卽ち三點を打つ規定がある。

之が爲めフリーメーソン反對者は、結社員を「三點兄弟」の綽名をつけて居る。又ドーアのフツクも三つ打つ、徽章としては三角定規とコンパスとが用ひらるゝ、三角形はフリーメーソンの謂はば紋章である。

併し此の三を用ふるのは外にもいはれがある、前に述べたフリーメーソンの創設者と傳へらるゝ猶太の名工ヒラムは、最も完全なメーソンだ、彼の建築は當時に於ける最も貴重な建物であつた、此のヒラムは其の弟子の四人のものから、建築上の秘傳を明かすやうに强迫されたが、ヒラムは此の强要に屈せず、斷乎として之をはねのけた、之が爲め彼は遂に四人の爲め殺されてしまつた。

此の殺人罪を犯した四人の中一人は捕へられたが、あとの三人は遂に逃亡してしまつたのであるが、之が爲めヒラムは實に忠實なる義務の遂行者である、其の模範であるといふ所から、ヒラムに關することは、凡てフリーメーソンでは重要視されて居る、そこで此のヒラムを殺して逃亡した三人から三の數を用ひるのであると、或る外國人は私に說明したことがある。

兎に角三點、三角定規、三本の柱、三つのノック等皆三がフリーメーソンの表象として用ひられて居る、此の外槌、コンパス、地球、火焰のある星も用ひられて居る、又火焰の星の代りに三角を二つ重ねたパンタグラム✡を用ふることもある、此の✡は猶太民族の紋章で、猶太の國旗、猶太軍旗には皆此の印が用ひられてある、卽ち日本の日の丸に相等したものである、フリーメーソンが△の印を用ふるのは、猶太の紋章を半分にしてつけて居るのであると解釋して居る人もある。

又結社員同志が、御互に認識する爲めに、いろ〳〵の記號や暗號が定められて居る、合言葉、握手の仕方、危險信號、援助信號等一定したものがあるさうである、又服裝等も色々變つたも

のを用ふる習慣があるが、之は敢て知る必要もあるまいから說明は此位にして置く。

四、猶太民族の歷史的觀察とシオニズム

日本固有の武士道を研究するのに、日本の歷史を離れ且つ日本人の傳統、習性を閑却して、之が眞髓を會得することは出來ない。又マルクスを研究するには、單に其の理論のみに沒頭し、マルクス其の人が猶太人たることを忘れ、且つ猶太民族に關し、全然無關心・無知識では、其の眞相を捉へることは出來ない。之と同じ意味で、猶太民族の思想及び其の活動を會得するのに、先づ第一に必要なことは、其の歷史的觀察と、猶太民族其のものの研究である。

國際聯盟に於ける問題にせよ、ナチス問題並に思想問題にせよ、事苟くも猶太民族によつて生じた有らゆる事象を、正當に將又根本的に之を理解するために、以上の研究は最も大切なる前提であるから、先づ之に就て述べることにする。

一、猶太民族の南下と猶太國建設

猶太民族は、其の歴史を觀察するのに、其の開闢以來、轉々として民族移動を爲し、終に今日のやうに、全世界に全民族を分散流布するに至つたといふことは、眞に奇しき運命の民族であると思ふ。

抑々猶太民族は、其の昔、今から丁度四千年前に、メソポタミヤの地方に、エホバの神を奉じつゝ遊牧して居つた民族で、其の族長アブラハムに率ゐられ、ユーフラット河を渉り、カナンの地たる今のパーレスタインに定住した。然るに其の後更に南方に移動し、西暦紀元前一五五〇年から一三二〇年まで、約二百年の間埃及に居住したが、一三二〇年族長モーゼに率ゐられて埃及を脱出し、カナンの地に復歸した。

然るに猶太民族は、其の後十二支族に分れて相爭ひ、民族の統制が保たれないので、時の高僧サムエルは、ソールといふ人を樹てゝ國王と爲し、玆に初めて猶太王國なるものが建設せら

れたのである。

二、猶太民族の世界流散

其の後猶太王國では、ダビデ王、ソロモン王等といふ英邁な君主が出で、猶太王國の勢威は、方に四隣を壓する有樣であつたが、紀元前九五三年ソロモン王の死後、猶太王國は南北に二分し、北をイスラエル、南を猶太王國と稱へるに至つた。

國家が分裂し、今迄の國威は失墜して、其の勢力は地を拂ひし爲め、南北朝とも、間もなく隣邦アツシリア人の爲に攻め取られ、猶太の國家はこゝに於て全く滅亡し、アツシリアの版圖に入つてしまつた。其の後埃及、バビロニヤ、シリア等附近に强國が勃興するに及び、常に此等の近隣强國の屬領となり、其の存在を續けてゐたが、紀元前六三年（我が崇神天皇三十五年頃）羅馬の將帥ポンペーの爲に攻略せられ、其の後數百年の久しき間全く羅馬帝國の治下に入つたのである。

然るに猶太人は羅馬に對して、屢〻反亂を企てた。西暦紀元一三五年（我が成務天皇五年）時の皇帝ハドリアンヌスは、背叛常なき猶太民族を徹底的に彈壓し、パーレスタインから彼等を追放する目的で、苛酷なる重税を課し、ジエルサレムの市內には、猶太人の居住を嚴禁した。

茲に於て猶太人は、國民としての集團力を失ひ、埃及・バビロニヤ、シリア、波斯と故國を棄てゝ四方に流れ行き、行く先〻で猶太部落を造り、そこに落ち着いたのである。此の異邦に於ける猶太人の集團の生活を、通常ジヤスボラ生活と稱へてゐる。

三、猶太人の革命思想

此の流浪分散生活に入つて、猶太人の有力者は考へた、吾〻猶太人は、最早再びパーレスタインに歸り、猶太國を建設するとは到底覺束ないことである。併し此の儘で居つては、猶太民族は次第に他國に流れ〳〵て、遂には消滅してしまふであらう。そこで彼等は、猶太民族の永遠の存在の爲に、縱ひ國家を失つても、精神的の國家を創設して置くことが、必要であると

いふことに著眼したのである。是に於て猶太の賢者達が集まり、猶太精神王國を建設した。それでは此の精神王國とは何か、之が即ち猶太の大聖典タルムードなるものである。猶太人は此のタルムードに依つて、如何なる苦難に逢ふも、自分は猶太民族であるといふ、鞏固なる意識と團結とを保ち、他の民族の間にあつても、常に其の民族的純潔を維持しつゝ、今日に到つたのである。

又一方では、一般猶太民衆は、縦ひ外國へ追ひ出され、再び羅馬に反抗して、パーレスタインを占領することが、到底不可能であるとは考へつゝも、自分の故郷に對する愛着の念は之を捨てることが出來なかつた。其處で彼等は、到る處の猶太部落が相連繋し、一般同族に自由獨立の思想と革命思想とを熱心に鼓吹した、そして羅馬に對する反亂の機を窺ひ、時にはパーレスタインに攻め入つたこともある。

『革命』なる言葉は、我々の發明する所なりと猶太人は言つて居る、併し、彼等猶太民族は、今より大凡二千年前から、其の環境に餘儀なくされ、革命の研究と其の鼓吹とに沒頭し來つた

れて居るが、蓋し當然なことである。
のである。歐米諸國に於ける革命といふ革命に、猶太人の活動しないことはないと迄に言はれて居るが、蓋し當然なことである。

四、ゲットに於ける猶太人の解放

パーレスタインの周圍に分散した猶太人は、歳月と共に流れ漂ひつゝ各國に移動し、東洋方面に來た猶太人は、波斯から印度に、印度から海を渡つて支那に入つて居る。漢の武帝の時代（皇紀五二一―三〇年頃）には既に猶太寺院が建設され、西暦十七世紀の頃には、河南省の開封府及びハンチヤフに、猶太人部落が出來てゐたと傳へられてゐる。

又バビロニヤ及び埃及方面の猶太人は、其の國の衰退と共に、九世紀の頃多く西班牙に流れ込んだ。そして同國では西暦一四九二年八月二日、異端糺問によつて、三十萬の猶太人が國外に追放されるまで、猶太人は非常に發達して黄金時代を現はした。當時に於ける西班牙の繁榮は、全く猶太人の力に依つたものであるとさへ言はれて居る。

西班牙を追はれた猶太人は伊太利、土耳古に、又一部は和蘭、英國、獨逸、露西亞、米國といふ風に、逐次に移動して、現在の狀態となり、世界到る處、人間の住む限り、猶太人を見ざる所なきまでに、分散流布してしまつたのである。

猶太人が流れ込んだ先きの國々を見ると、東洋は別として、歐米諸國は、猶太人の奉ずる猶太敎と、全く反對の基督教國であるために、猶太人に對して、非常な壓迫を加へたことは申す迄もない。併しながら彼等はタルムードの精神王國を基礎とし毅然として之に對抗して來た。又此等の國々では、猶太人は猶太街卽ちゲツトを作り、全く其の國人と隔絕した生活を營み、其の國家からは一般國民と同樣な權利は與へられて居らなかつた。

然るに十八世紀の末、佛蘭西大革命の後、佛蘭西に於ては、一般國民と同樣に、猶太人に所謂自由、平等の權利を與へられ、歐洲の他の國々でもゲツトは逐次に解放された。卽ち佛蘭西では一七八九年に、宗敎の自由を認められ、次いで一七九一年には市民權を與へられた。英國では一八五八年全然猶太人を解放し、同年西班牙では猶太人排斥法を撤廢した。獨逸では一八

六八年猶太人に市民權を與へた。斯くて佛蘭西大革命の影響は全歐洲に及び、猶太人のゲットは解放せられ、一般の國民と同樣になつたのである。

五、猶太民族の改宗同化主義の彌漫

ゲットから解放された猶太人は、非常に喜んだと同時に、中には他の民族と同化し、或は猶太敎を離脱し、自ら猶太人たることを忘れ、又は猶太人と認められざることを以て誇りとし、之により自己の社會的の地位を向上し、自己の幸福を計らうとする猶太人さへ續出するに到つた。中には『猶太人は民族にあらず』と宣言する猶太人さへも出現し始めた。この思想は西方歐羅巴を風靡し、更に亞米利加猶太人にも波及した。

併しながら、此の新猶太人の改宗同化思想は、間もなく大なる動搖を來した。卽ち縱ひ猶太人が佛蘭西風を裝ひ、佛蘭西語を話し、その上基督敎に改宗しても、猶太人の鼻の型や、血液までも變へることは出來なかつた。結局周圍の國民は、猶太人を本來の佛蘭西人と同樣には認

めなかつた。そこで彼等は紙の上で貰つた同權の如きは、何等役立つものでないといふことに、氣がつきはじめた。即ち彼等猶太人が各國政府から與へられた權利を實際化し、且つ之を維持する爲に、然るべき方法を講じなくてはならないと痛感した。其の結果現はれたのが『全世界猶太人同盟』である。猶太百科辭典には、此の同盟の目的として、次の言葉が掲げてある。

『若しジユーなる名前が社會の攻擊を受くるが如き場合には、之が名譽を擁護し、吾人の欲する凡百の手段を以て、重要な工藝を奬勵し、要すれば社會の無智及び民衆壓迫に依つて生ずる罪惡に挑戰し、吾人の信仰力と凡ゆる道德的威力とを以て、今猶ほ異法の重荷の下に呻吟しつゝある猶太民族の解放に精進し、吾人同盟の理智的及び道德的革新に依り、完全なる公民權の確立を促進せんとす。是れ即ち全世界イスラエル同盟が今後精進せんとする目的である』

之によつて一般猶太人の民族的意識が復興し始めた、此の全世界猶太人同盟は、今巴里に其の本部を置き、猶太人の活動に大なるエネルギーを與へつゝある。續いてモーゼス・ヘスとい

ふ猶太人は、『羅馬とジェルサレム』と題する書を著し、同化主義の猶太人に對して宣戰を布告し、『同化主義の猶太人は猶太民族の敵なり』と痛罵し、更に又一八九六年洪牙利猶太人のヘルツル博士は『猶太國』といふ檄文を認め、全世界の猶太人に、猶太民族に歸ることを慫慂した。次いで其の翌年八月二十九日には、ヘルツル博士は全世界の猶太人代表をプラーグに招集し、第一次シオン會議を開いた。シオンとは猶太人の故鄕パーレスタインの別名である。

ヘルツル博士の思想は、

『猶太は一國民なり、一國民である以上一國を持たねばならぬ』

と言ふのであつた。此の思想は、猶太王國滅亡此の方、彼等の胸中に等しく流れてゐた思想であつたが、佛蘭西大革命以來　動もすれば消滅せんとしたのを、彼は新に猶太人の胸裏に之を呼び起したのである。

六、シオニズムと其の勃興

ヘルツル博士がシオン會議を開き、此の民族的思想を呼び起したのを、今はシオニズム（シオン思想）と呼んでゐる。最初ヘルツル博士がシオニズムを唱道したときは、之より起る不安と無理解から、或は嘲笑され排斥されたが、愈々シオン會議が招集されると、此のシオニズムは、猶太民族共通の思想となり、猶太民族の統一は、日と共に鞏固となつたのである。

世界大戰の直前には、既に、會員五十萬人を算し、シオニズムの組織は非常な發達を遂げ、遂に英國政府を動かし、世界大戰の末期一九一七年十一月二日、英國埃及遠征軍が土耳古軍を追うて、長驅ジエルサレム城に入るに先立ち、時の英國外務大臣バルフオーア卿をして、英國政府の名によつて、猶太の巨頭ロスチヤイルド男宛に、パーレスタインに猶太民族の祖國建設に關する、次の宣言書を提出せしむるに至つた。

『英國政府はパーレスタインに、猶太人のため鄕國を設立せんことに對し好意を有し、其の目的達成を容易ならしむるため、最善の努力をなさんとす。但しパーレスタインに存在する非猶太人團體の民業及び宗教上の權利並に他の諸國內に居住する猶太人の權利と政治上の地

位とを毀損することなし』

此の宣言は、實に猶太史上に於ける一道標となつたものであつて、一九二〇年サンレモの協商國最高會議を通過して、パーレスタインは英國の委任統治となり、更に一九二二年國際聯盟も亦之を承認するに至つた。其の委任統治第四條に曰く、

『適宜の猶太代理機關は、パーレスタインに猶太國を建設するため、またパーレスタインの猶太人の公益のため、併せてパーレスタインにおける猶太人の經濟、社會及び地方の方面に於て、パーレスタインの發達する政廳の統御に服從し、且つこれと協商協力する目的に對し、公共團體と認めらるべし。

またその組織及び法規が、統治者の意見に合する限り、シオン團は代理機關を認めらるべし。故に大英國皇帝陛下の政府と協商し、猶太國建設に共鳴する凡ての猶太人と協力すべきなり』

以上述べたやうに、佛蘭西大革命に於ける猶太人の解放を動機として、彼等民族間に彌漫し

たる改宗同化の思想は、一八六〇年イスラエル同盟の創設を切掛に、幾多の猶太の愛國者並に先覺者により、逐次に其の勢力を減殺されたが、遂にヘルツル博士のシオニズムの唱導並にその具體的實行運動によつて、彼等の故國パーレスタインは、英國の委任統治下に於て、兎に角猶太人の掌中に入つた。而して此のシオニズムの最大の効果は、全世界の有らゆる猶太人を擧げて、『猶太人は猶太人なり』との自覺に歸らしめた點にある。此のことに關し其の實證として、彼等猶太民族の叫びを次に紹介しよう。

七、猶太人の民族的自覺

少くとも現在の猶太人は、縱ひ其の身が佛蘭西の大臣であらうとも、米國の富豪であらうとも又露國の共產主義者であらうとも、最早自ら猶太人たるの自覺に生きてゐない者は一人も無い。卽ち彼等は獨逸國民であると同時に、猶太人であり、亞米利加國民であると同時に、猶太人であるのである。先年亞米利加に於て猶太僧侶アッシアー氏は、猶太人のケヒラ結社の席上

で『我々には米國の利益を一方とし、之に對し別に猶太の利益存す』と述べて大喝采を博した。嘗て私のパーレスタイン滯在中猶太首領は私に向ひ『現下世界に於て猶太人たる自覺に生きざるもの一人もなし』と證言した。

猶太民族主義の世界的指導者である所の米國高等法院判事ルイス・ディー・ブランディス氏は、次の樣に言うて居る。

『猶太僧侶會議等に於て、猶太正教に歸依する者に限り、猶太人たることを認むべきであると云ふ提案が、時々出されることがあるが、猶太人なる字義に對する定義を定むるには、一部猶太人の間で爲し得るものではない。必ずや猶太人全般に依りて、行はれなければならぬものである。而して猶太人問題と言ふが如き場合の猶太人なる意味は、苟くも猶太人の血を受くるものは悉く之を含むべきものであつて、宗教を變更することに依つて、之を免れることは不可能である。假令如何なる學理と信條を以てするも、猶太人の本能と行爲とを有するものに對しては、他と區別するに、「猶太」なる語を使用するのを拒否することは出來ぬ』

西部倫敦猶太敎會堂の敎師モーリス・ジョセフは曰く、

『イスラエル人は確に一大國民である……何人と雖も猶太人を一國民と看做して居つて、之を宗敎上の區分と誤認するものはない。猶太人の國民性を否定することは、實に猶太人の存在を否定するものである』

西部倫敦猶太民族主義協會のアーサー・デイ・レウイス曰く、

『……假令猶太人にして基督敎の洗禮を受け、全く基督敎に化しても、其の血統其の氣質及其の精神的特性は、決して變ずるものではない』

かの名聲赫々たる猶太學者で、且つ著作家であるところのレナン・シモンは、其の著『猶太國民性の研究』に於て、宗敎と國民性に關する重要研究をして居るが、彼は、

『猶太人の宗敎は卽ち國民性であつて、又國民性は彼等の宗敎の主要部分である』

と云ふ提言を爲し、次の如く述べて居る。

『猶太敎には敎義を包含せずと云ふことは、屢々耳にする所である。然れ共此の言は眞では

ない。而して救世主時代は、猶太人に取りては、單に地上に平和を齎し、人心を善ならしむることを意味するに止まらず、世界をして猶太人と其の神とを、一樣に認めしむることを意味するものであつた。換言すれば是れ猶太民族の永遠を語るものである。而して其の教義たるや何人も之を受納し得べき、單純なる教會的のものではなく、實に一國民の過去及將來に對する一の信念に外ならない。

如何となれば猶太教は、基督教の如く個人の心靈を救ふの使命を有せず、實に全觀念は猶太國民の生存と結合せるものであるからである』

グラエツヅ氏は猶太人中の一大歷史家で、其の紀念著作は世間の標準たる權威あるものであるが、氏は曰く、

『猶太人の歷史は彼等が其の國家を失ひたる後と雖も、國民的性質を有し、決して單なる信條又は教會の歷史の如きものではない。吾人の歷史は單に文學的事件の年代記の如きものとは其の趣きを異にする』

歴史上有名なる人物で、古よりの猶太計畫を具體化するに貢献したモーゼス・ヘスは曰く、
『猶太の宗教は何物よりも先づ猶太の愛國主義である』
『事實猶太教は、一の國民性と同樣自然の基礎を有し、他の宗教の如く、單に其の信仰を變ずることによつて、此の基礎を捨てることが出來ない。猶太人は自己の人種に屬する。而して此のことは彼自身又は其の祖先が、宗旨變更者たりしことは、毫も關係せざる所である』
『猶太人は其の欲すると欲せざるとに論なく、悉く同國民として堅く結合してゐる』
古き人々の言葉は此の位にして、次に一九二〇年米國猶太民族主義者協會から出版されたジエーシー・イー・サンプター氏の筆になるものの一部を紹介しよう。
『猶太人の國民的宗教の名稱即ち猶太教は、其の國民的性質から生じて來たものである。假令無宗教の猶太人でも、依然猶太人であつて、唯猶太人なる名稱を拒否するもののみが、辛うじて猶太人として盡すべき忠順を爲さずにすむのである』
高等法院判事ブランデイス曰く、

『猶太人は三千年間多少他の血統との交あるは勿論であるが、迫害偏見等の結果、他人種が猶太人と混血したことは極めて少く、如何なる人種と雖も、猶太人種程純粹なるものは他にはない』

猶太人記者アーサー・デイ・レウイスは、其の著『一國民たる猶太人』中に述べて曰く、

『猶太人は本來一國民にして、他の國民にも優りて一國民たるの要素、即ち人種的要素を保持し其の特質を有する、實に英國人が英人なる以上に、猶太人は猶太人たるものである』

其の國籍の如何を問はず、猶太民族が猶太人としての自覺に生きる證言は此位にして止めよう。

八、猶太民族精神の不變

猶太民族の精神不變は、過去現在に於ける二猶太巨頭の、猶太民族に對する演說によつて、最もよく立證して居ると思ふ。尚ほ此の二つの講演は、民族精神を窺知する上に、頗る興味あ

るものと思ふから之を次に掲げ、敢て讀者の對照を煩はす次第である。

全世界猶太人同盟が、西暦紀元一八六〇年「眠れる者を醒ます結社」といふ名稱で巴里に開かれた。此の同盟の代表者は勿論猶太人で、モーゼス・モンテ・フィオレといふものである。彼は伊太利リウオルノの生れで、英國に永住し英國女王の寵を受けて貴族に列せられたが、彼はマツソンの有力なる結社員で、猶太主義の功勞者である。此のモンテ・フィオレと共に、此の同盟の計畫者の一人で、一八四八年佛蘭西二月革命の際には、臨時政府委員となり、當時は佛國の大臣であつた同國のマツソンの有力なる一領袖、猶太人アドリフ・クレミエとが、此の大會に於て大雄辯を試み、同民族に警告を與へた。

此の演説は印刷に附し檄文として、全世界の猶太人に配布されたが、今其の演説の大要を述べよう。先づアドリフ・クレミエは立つて次の熱辯を振つた。

『吾人が創設せんと欲する同盟は、佛蘭西人同盟でもなく、英吉利人同盟でもなく又瑞西人、獨逸人等の同盟でもない、實に猶太人の全世界同盟である。猶太人の信仰する靈智の唯

一神教たる猶太教が、吾人の權利と利益とに對して敵愾心を懷く外國及び是等の國民間に、其光輝を發するやうになつた後、初めて猶太人は基督教及びマホメツト教徒の親友たり得るのである。

吾人は何事よりも先きに、猶太人であり且つ猶太人として存在することを欲するものであつて、猶太人の國粹の精華は、一に猶太人の父の宗教である。即ち吾人は如何なる政權をも認むることは出來ない。我が民族は常に外國に生活して居るのであるが、吾人に取つては異國人の、輕佻浮薄な慾望の爲に、浮身を窶すやうな馬鹿なことは出來ない。暫くの間は我が獨特の物質的及び道義的諸問題も、危險狀態にあることを免れない。されば猶太人の教訓を、世界に徹底せしめなければならないのである。吾人の事業は實に偉大であると共に、赫々たるものであつて、其の成功は勿論保證せられて居る。

吾人を往古から仇敵視した加持力教主義は既に滅び、イスラエル人の地上に投じた網は、日月の經過と共に擴大し、我が聖書に記載された大なる豫言は、着々と實現され、ジエルサ

レムは諸國民の祈禱の宮殿となり、猶太一神教の旌旗が、彼岸に高く翩翻たる時が近づいたのである。卽ち吾人は各國に於ける凡百の事情を利用しよう。我が民族の威力は、宏大なものである。吾々は此の威力を以て、吾人の事業に適用すべく研究しようではないか。吾人は何事か恐るる所がある。地球上に存在する一切の富を、イスラエル人の子の所有とする日は、全く遠くはないのである……』

實にクレミエは全世界猶太人同盟の意義を明かにし、他民族の風俗習慣に同化すべからざるを說き、軈て世界は、猶太人の世界となるべき抱負を述べ、舌端火を吐いて、同民族を鼓舞激勵したのである。其のあとでモーゼス・モンテ・フイオレは起つて、

『吾人は何物よりも先きに、出版界の權能を猶太人の掌中に收めねばならぬ』

と冒頭に喝破し、

『諸君が徒らに貿易及び資本其の他の物を、壟斷せんとしつゝあるも、是等の努力たるや全く徒勞の業である。吾人が世界の言論を、自由に操縱し得んが爲に、世界中の凡ての出版物

を、吾人の掌中に收めざる間は、吾人の統治權に對する理想は、妄想として存在するに過ぎない……』

とモンテ・フイオレは言論の權威を以て、輿論を左右することを說得した。其の時クレミエは更に起立して、出版物の威力、價値及び利用を就て、其の甚大なる抱負を述べた。

『然り若しも黃金が世界の第一の力であるならば、出版物は第二の力である。出版物の助力を缺いては、此處の大會に縷々述べられた各種の考案も、協議も、凡て何等の意味をなさないのである。出版物を我が掌中に收めた時、初めて吾々は目的を達成することが出來る。吾人は須らく日常の出版物を指導すべきである。

吾々は狡猾であり敏捷である、それであるから、金錢を占有し、之を我が目的に利用することが出來る。又輿論、巷間の文藝及び芝居を製造する爲め、吾々に大政治新聞が必要である、此を利用して漸次基督教徒を壓迫し、且つ此の中に何を信じ、何を尊び、何を呪ふべきをか敎へ、又吾々はイスラエル人の悲しき叫びと、吾人を虐ぐる壓制に對する訴へとを繰り

返へさう。

若し或る人々が吾人に反對しても、馬鹿な群衆は吾々の味方として、吾人の爲めに起つであらう。

吾が掌中にある出版物を利用して、吾々は不正當なるものを正當とし、不名譽なることを名譽とすることが出來る。そして我が敵基督教徒の、今日迄尊敬した信仰を根本をら破壞し、其の代り有らゆるものに對して、公然戰ひを宣しよう。吾々は物事を有名なものにすることも、之を侮辱してつまらぬものにすることも思ひの儘である。

又吾々は非猶太人の才能を損することも、向上させることも出來る。非猶太人は、常に拍手喝采されることを求めて居る。それで彼等を功名心に慣らすことは、吾々に取つて利益であるから、我々は喝采に對しては寛大な態度を取つて居る。斯ういふ有樣であるから、些細なる不成功に、自ら欺かれたる阿呆者を落膽させることは、如何にも容易である。それには彼等の權威に對して、御燒香したり拍手したりすることを、止める事だけで澤山である。ま

た成功力を勃興させる爲めに、奴隷的に肯定的な服從に彼等を指導することも容易である。

非猶太人は見た所虎の樣だが、心は羊の樣で、誠に輕卒極まる人民である』

彼等の着眼、抱負實に敬服に價すると共に、我が日本にも猶太人の所謂『見た所虎の樣で心は羊の樣な』輕卒極まる人々が、日に增し多くなるのは、實に慨嘆の至りである。

右に對照して、一九三二年九月五日、猶太青年會館に於ける上海猶太人の巨頭エヅラ氏によつてなされたる、猶太青年團の宣言を次に掲げる。

猶太青年團の宣言

猶太聯隊は、平和に對する各人の愛著心と、戰爭に對する嫌惡を消滅せしむるものでない、又吾々は我々の權利の主張の爲めに、兵備を重要視するものでない、吾々は破壞によつて問題を解決せんと欲するものでもない、即ち正義平和に依る解決法を欲するものである、其は神より與へられたる使命を有する民なるが故である。

併しながら我等の祖國擁護に必要なる自衛力を要する時ありとしたならば之を避くるもの

でない、何故ならば吾々は神の命に忠實にして世界平和の爲めの劍は、神より與へられたものであるからである。

古今を問はず國家の建設には、困難なくして克く之を爲し得るものではない、併しながら幾千年の間流浪の民なる吾々は、住むに土地なく守るに家なきも、何等の恐怖も束縛をも受くるものでないと同時に、勇氣を失ふものでもない。吾々は決して吾々の相續權利を放棄し、我々が平和の殿堂建設の爲めの戰闘を中止するものでない、又中止してはならない、一致團結吾々の祖先ユダマカビーの四人兄弟の英雄の如く、勇猛果敢決して降服してはならない、今日の吾々猶太人の精神は、昔時に於ける猶太精神であらねばならぬ。

吾人は兩三年前猶太を風靡し壓倒せる、迷信による猶太騷擾に屈服してはならぬ、露西亞の猶太人、獨逸の猶太人、米國の猶太人及び西班牙、英國の猶太人等に對する迷信的宣傳的排擊に對しては、强力なる意志と猶太精神とを以て之を征服し、以て平和の殿堂を建設しなければならぬ。

吾々は飽くまで聖なる使徒の爲めに戰ひ、正義の爲めに揮ひ、猶太統一精神を發露して潮の如くあらねばならぬ。時の高低は建設の過程である、シオニズムの運動方策は只神の使の一語に盡きて居るのである。』

以上によつて昔の猶太精神も、現在の猶太精神も、何等變る所なく、一定不變のものであると同時に、其の如何なるものであるかを理解し得るであらう。

九、シオン團の編制と行政

シオン團は一九二一年國際聯盟の公認によつて、愈〻公式に設立され、倫敦に本部を置き、かの毒瓦斯を發明した化學者として、有名なワイヅマン博士を總裁とし、ソコロフ氏を行政部長に任じた。その後本部はロンドン及びジエルサレムに分置されることになつた。ワイヅマン博士は先年までその任にあつたが、目下はソコロフ氏が總裁に就任して居る。

シオン團は全世界五十七ケ國に設立せられた七十六個の法人を有し、內四十七個は或る一國

內に多數の分體を有する聯合體のものであつて、二十四個は印度、濠洲・支那及び日本の如き諸國に分離存在し・一個は國際婦人シオン團である。なほ殘りの四個はシオン主義の一設計內にあつて・特殊の主張の上に立てられてある別働團、即ち正統組、勞働黨、社會黨及び古代マカベス社である。

また外に行政部は政治事務のため、ジュネーヴ、巴里及び羅馬に特定局を持つてゐる。

議會はシオン運動の最高權威であつて、前議會後における重要事項を論議し、將來の政策及び運動に對する決議をなし、在パーレスタイン行政部及び植民事業の支出を定め・また行政部及び財政經濟會議總委員を選定する。

行政部は約十名の部員より成り、その半數は倫敦に、他の半數はジエルサレムにある規定である。

倫敦の行政部は・シオン團全部の內政を管掌し、パーレスタイン行政部は、パーレスタインにおける各種の經濟及び文化的建設、その他を管理する。併し猶太國家の隆昌に關する一切の

事項に關し、委任統治者に對し、相當の代表をなす場合には、兩者は共同してそれに當るのである。

通信連絡は、パーレスタイン行政部において倫敦の總本部を通じ、全世界の法人と通信連絡を保持する。その公定機關紙は、ニウジウデヤ、ハオラム及びその他の刊行物を以て行つてゐる。各國に散在するシオン團は各〻その機關紙を有し、一般シオン主義の發行物は英語、佛語、獨逸語、露語、ヘブライ語及びイデツシユ語等十七ケ國語に亘り、その數全世界において約千三百の多數に達してゐる。そしてこれ等の公刊物は各國シオニスト間相互に交換され、全世界シオニスト間に織るが如く、緊密なる連絡が保持されてゐる。

右の外全世界シオン團相互の連絡を緊密にするため、行政部員は交互に、絶えず世界各方面を巡回してゐる。

因に、シオンとはジエルサレム市の西南角にある小山の名である。猶太人は昔から之を一の聖靈の山とあがめ、自らシオンの民と言ひ、之から引いて猶太國の昔に歸りたいといふ

猶太の古都ジェルサレム城景



城内の圓塔はソロモン殿堂跡に建てられたる回教の大寺院。左手前のカンランの林はゲッセマイネの園にして其の中に白く見ゆるはマリアの寺院なり。

思想をシオニズムと言ひ、其の團體の人々をシオニストと云うてゐる。現在ジェルサレム市の城壁が、此の小山に觸れる邊に、恰度和田倉門のやうなシオン門がある。

五、猶太人口並に其の世界分布

一、猶太人の世界人口並に主要諸國及び主要都市に於ける人口に就て

猶太人の活動を知る上に於て、其の人口を知ることは、頗る重要である。猶太人の總人口は一九三〇年度の猶太人側の調査によると、全世界で千五百四十五萬九千十九名である。茲に注意して置き度いのは、猶太人等自らが云ふ猶太人とは、猶太教を奉ずる猶太人を指すのであつて、縱令猶太種族の人間でも、基督教とか回教とかに改宗したものは、猶太人とは言はない。之は彼宗教民族たる面白い所で、吾々日本人等の考へとは非常に違つて居る所である。若し

日本を佛教國と假定するならば、猶太式にいへば、基督教徒や天理教徒は、日本人の中に數へられないと云ふ樣なことになる。從つて米國邊に居る猶太人は、以前米國人が猶太人を差別待遇するのを憤つて、

『我々は米國に國籍を有する眞の米人である。猶太人とは民族の名稱ではなく、單に宗教的名稱に過ぎない、然るに米國人が、我々を特種民族扱ひするのはけしからん』

など〻自分に都合の良いことを言つて、米國政府に突込んだこともある。併しながら猶太人は御承知の通り、種族としてはセム族であつて、人種學上アングロサクソンとは、全然其發生を異にして居る。少し横道に入つたが、此の猶太教を奉ずる猶太人の總人口の、世界分布の狀態を、表で現はすと次の如くである。

本表は著者の外遊當時の調査で古くなつたが、大觀するには差支へないから本書改訂に當つて此のま〻殘し、最近の人口表は本章末に新に加へることにした。

第一表　猶太民族大陸分布狀態

大陸名	人口
歐羅巴	一〇、九〇三、八六四
亞細亞	五七〇、五八五
亞米利加	三、五七二、四一九
濠太剌利	一九、四五一
亞弗利加	三九二、七三六
總計	一五、四五九、〇一九

第二表　主なる諸國に於ける猶太人口

國名	人口	主要都市	人口
波蘭	三七一六、〇一〇	ワルソー	三〇〇、〇〇〇
北米合衆國	三三〇〇、〇〇〇	紐育	一、五〇〇、〇〇〇

露西亜	二九七〇、二三四	モスコー キエフ	五〇〇、〇〇〇 一四四、五二四
羅馬尼	九五〇、〇〇〇	ブカレスト	四二、〇〇〇
獨逸	五四〇、〇〇〇	伯林	一四二、〇〇
洪牙利	四九八、九一三	ブダペスト	二〇三、六八七
墺地利	三五〇、〇〇〇	維納	三〇〇、〇〇〇
英吉利	二九七、〇〇〇	倫敦	一七五、〇〇〇
土耳古	一五八、〇〇〇	君府	六五、〇〇〇
佛蘭西	一五〇、〇〇〇	巴里	六〇、〇〇〇
和蘭	一〇六、四〇九		
伊太利	五七、〇〇〇		
白耳義	四四、〇〇〇	ブラツセル	二〇、〇〇〇
印度	二〇、九八〇		
支那	一、〇〇〇		
日本	一、〇〇〇		

右の猶太人口の第二表の下段に、主要都市の人口を掲げて置いたが、一見すれば解る通り、

英國の二十九萬七千の猶太人中、十七萬五千は倫敦に、合衆國三百三十萬中、百五十萬は紐育に住んで居る有様で、猶太人は決して田舍には住まず、各國主要都市に集中して居る。從つて其の人口に比し勢力は、自ら大である。帝政時代露都には二十四時間以上、猶太人は滯在することが出來なかつたが、革命後どし〳〵露都に集中し、目下モスコーの人口二百二十萬中・五十萬は猶太人の占むる所となつて居る。

前表以外猶太教を奉じない猶太人種、即ち改宗猶太人、混血猶太人等、廣義の意味に於ける猶太人は更に多い。之を前の純なる猶太人と合すると、世界で約五六千萬はあらうと言はれて居る。さうすると凡そ獨逸人近くの人口がある譯である。殊に彼等は改宗しても、雜婚しない習慣を持つてゐる。

例へば、サロニカの市には多數の回教猶太人が居る、彼等は表面的には、赤い土耳古帽を被つた回教徒であるが、其の結婚は依然猶太人間のみに行はれ、周圍の土耳古人とは絕對に結婚しない。彼の青年土耳古黨に參加し、後土耳古の大藏大臣となつたジヤウイツト・パシヤは、

實に此のサロニカに於ける回教猶太人である。

從つて猶太人自身は、改宗者を猶太人或はジユとして數へないが、假令宗教は變つても、猶太種族たることに就ては、肉體的に又傳統的、民族的習癖に於て、他種族と異つて居るのは勿論である。而も混血猶太人さへ、其の習癖に於て、猶太系統を強く享けて居ることは、一般に認められて居る事實である。其の原因は混血猶太人は猶太婦人の敎養を受けるからで、猶太敎では、猶太婦人は猶太民族の利益を齎す場合に於てのみ、異敎徒との結婚を許し、猶太男子は、異敎徒との結婚を嚴禁されて居る。それ故混血猶太人は必ず猶太婦人を母とし、異敎徒を父としたものゝみ生ずる譯である。

此の一點を見ても、猶太人が如何に其の種族の純粹と、猶太式傳統の保持に忠實であるかを、窺知することが出來よう。猶太人等は、世界中猶太人位種族的純潔を保つ民族は無いと言つてゐるが、實際自慢するだけの理由はあるのである。

併し純潔を保つ猶太人にも例外がある。それは露國の猶太人である。彼等は露西亞婦人とど

し／＼結婚して居る。露西亞婦人も亦自ら進んで猶太人と結婚をする。其理由は何處にあるか、露國は多くの人々の想像して居るやうに、理想的共產主義が行はれて居る譯でもなければ天國でもない。實は其の正反對の此の世の地獄である。目下猶太人は反猶太主義によつて、ソヴエート政府の首腦部から一掃され、大臣級には一人の猶太人も影も止めないが、併し依然として猶太人は、露國一般社會の中堅を爲して居る。官吏、商人、金持、家主は勿論技士、工場支配人、醫師、辯護士、音樂家、藝術家、俳優、敎師等苟くも社會生活の中心たる職業、殊に智的職業には皆猶太人が活動して居る。從つて其の生活狀態は、一般露人に比し頗る優良である。

又露西亞婦人は、露西亞人に嫁しても、單に其の虛榮心を滿たされないのみでなく、其の生活さへ保證されない。要するに露西亞人と結婚すれば、多くは乞食生活をしなければならね。然るに猶太人と結婚すれば、兎に角普通の人間らしい生活が出來る、それ故彼の女等は、心の中では『ジウ』など〻猶太人を卑しめつ〻も、猶太人に嫁するのである。中には虛榮や自己の生活上から許りでなく、一家一族の生命財產の保障を得んがため、舊貴族の夫人等が、其の夫

と相談の上、涙を呑み恥を忍んで、猶太有力者に再婚して居るものもある。

一方共産主義下に於ける猶太人は、其の宗教的傳統を忘れ、是れ幸ひと露西亞美人を拉して勝ち誇つて居る。勿論露國猶太人が、皆露西亞婦人と結婚して居る譯ではない。一部の者ではあるが、是れは佛蘭西革命後、同化主義猶太人が現はれたと同樣、猶太民族として特異な現象である。

二、パーレスタイン猶太人口

猶太民族の世界分布の狀態は、大體前述の通りであるが、數年前のパーレスタインの全人口は、回教徒たるアラビヤ人が六十三萬二千、基督教徒が八萬二千、其の他の遊牧民が一萬二千で、猶太人は十五萬八千である。往古に於ける猶太人は、固より明確な記錄がないから明かでないが、西曆紀元前一九二〇年、モーゼが埃及を脫する時には、約六十萬の猶太民族を率ゐたと、傳へられて居る。從つて此の時代既に、相當の人口を有して居つたものと思はれる。

其の後猶太國が滅亡する頃は、五六百萬の人口であつたやうに記されて居る。併し其の國の滅亡と共に、猶太人は諸國に流散し、殊に附近の埃及、波斯及バビロニヤ等にはどし／＼猶太部落が出現すると共に、反面本國の人口は俄かに減少し、一一七〇年頃の記錄に依れば、總計僅に一千五十三名に過ぎなかつたといふ。降つて一八四五年シユワルツといふ人は、猶太人口一萬一千と記し、又一八五五年フランゲルは一萬百十四名と數へて居る。

然るに一八六〇年全世界イスラエル同盟創立の年以後、モロツコ、カウカサス、アラビヤ及び東歐にある猶太人の歸國するもの逐年增加し、一八八〇年には總人口二萬となり、更に十五年後の一八九五年には五萬に激增した。是れは一八六〇年全世界イスラエル同盟の創立が、直接間接に此等の猶太人に、大なる衝動を與へたに因るものである。

即ち該同盟の首領の一人たるモーゼス・モンテフイオレ等は、一八五六年にヤツフアの港附近に、柑橘類等の栽培事業を始め、一八六九年には該同盟がジエルサレム西方ミクヴエーイ・イスラエルと云ふ所に、英佛兩國の贊助を得て、猶太農學校を建設した。是れ等は、パーレスタ

インの猶太人口の增加の大なる原因をなして居る。

私もパーレスタイン滯在中此の農學校を參觀したが、其歷史の古いだけに設備萬端行き屆いて、若き猶太の子弟等は、愉快氣にたくましき牛馬を扱ひ、また美しき菜園に餘念なく働いて居つた。

一八九六年シオン會議の開催と共に、シオニズムは愈〻具體化され、世界大戰の直前には、猶太人口約九萬に增加した。然るに愈〻大戰となるや、當時パーレスタインに居つた猶太人の大部は、露國系であつた關係上、パーレスタインを統治して居つた土耳古は、之に對して大いに壓迫を加へ、爲に猶太人等は退去を餘儀なくせられた。玆に於てパーレスタインの猶太人口は再び六萬に減少し、首府ジエルサレムには僅かに五千の猶太人が、踏止まつたに過ぎなかつた。

然るに一九一八年バルフオーアの宣言があり、續いて英國のアレンビー將軍の率ゐる埃及遠征軍が、土耳古軍を北方に擊退してパーレスタインを占領すると共に、猶太人は逐次に復歸

し、殊に大戰後、英國の委任統治下にシオンシ運動が世界の公認となり、シオン團の移民事業開始せらるゝや、逐年猶太人口は增加し、一九二六年九月の調査に依れば、パーレスタインの猶太總人口十五萬八千に上り、ジエルサレム市だけで猶太人口約五萬を數へ、其後引續き增加して現在の三十九萬五千、卽ち約四十万の人口を有するに至つた。

尙ほパーレスタインに於ける猶太人の增殖率は、其の人口に對し一割七分以上の比率に達し、實に世界最高の增殖率を示して居る。元來『產めよ而して榮えよ』とは猶太敎の敎ふる所で、猶太聖書タルムード拔萃シルハンアルフ猶太處世訓第百則に、

『各〻の猶太人は人類繁殖の爲め娶らざるべからず、故に金の爲め彼女を娶る場合の外、子を產む餘裕ある女を娶るべく、老女及び槪して望み無き女を娶るべからず。猶太人は縱令私生兒或は低能兒たりとも、子女を有せば人類繁榮の義務を果せり』

と敎へて居る。男子が割禮を施して居るのも、猶太民族繁榮の爲に外ならないのである。併し佛蘭西等の文明諸國に、ハイカラ生活をする猶太人は、其の環境の關係から、增殖率は大いに

減退しつゝあると云ふことであるが、パーレスタインの猶太人は、猶太教の教へに背かず、益々殖え榮えつゝあるのである。

三、猶太人人口協會の調査に依る世界に於ける最近の猶太人人口分布

猶太人の人口增殖は他民族より高率である。卽ち世界に於ける猶太總人口は、一八八〇年には六百萬人であつたが、一九〇〇年には一千萬となり、一九三五年には一千六百萬人に增加して居る。一九三五年猶太人協會の調査に依れば、各國に分布せる猶太人數は次の樣である。

新第一表　歐羅巴（四千人以下省略）

國名	人口	國名	人口
波蘭	三、一五〇、〇〇〇	獨逸	四〇〇、〇〇〇
蘇邦	二、七一〇、〇〇〇	チエッコ	三八〇、〇〇〇

猶太共産村アイン・ハロードの全景



パーレスタインには各所に猶太の共産村が點在して居る、其の歴史は露西亞の共産の出現などよりはずつと古く已に西暦 1880 年代に創設されて居る。今のソヴエート露西亞の共産主義は眞の共産ではない、謂はゞ國民を搾取する國家大資本主義である。併し此のパーレスタインに於ける猶太共産村では眞の共産主義が如實に行はれて居る。

羅馬尼	一、〇五〇、〇〇〇	英國	三四〇、〇〇〇
匈牙利	四四〇、〇〇〇	佛國	二三〇、〇〇〇
墺太利	一八九、〇〇〇	伊太利	五二、〇〇〇
リトワニア	一七七、五〇〇	ブルガリヤ	四九、〇〇〇
和蘭	一一五、〇〇〇	瑞西	一七、八〇〇
希臘	九八、〇〇〇	ダンチッヒ自由市	一〇、〇〇〇
ラトヴイヤ	九七、〇〇〇	西班牙	八、〇〇〇
ユーゴースラブ	七〇、〇〇〇	瑞典	七、二〇〇
白耳義	六三、〇〇〇	丁抹	七、一〇〇
土耳古	五五、〇〇〇	エストニヤ	四、五〇〇
計	九百七十三萬五千八百人		

新第二表　アメリカ（五百人以下省略）

國名	人口	國名	人口
北米	四、五〇〇、〇〇〇	英領クイヤナ	一、九〇〇
アルヂエンチン	二七五、〇〇〇	英領ジャマイカ	一、三〇〇
カナダ	一六〇、〇〇〇	パラグワイ	一、一〇〇
ブラジル	五〇、〇〇〇	ヴェネズヴエラ	一、〇〇〇
ウルグワイ	一七、五〇〇	秘露	九〇〇
キューパ	八、二〇〇	パナマ	八五〇
チリー	四、一〇〇	サルヴドル	七五〇
計	五百三萬人		

新第三表　亞細亞

國名	人口	國名	人口
パレスタイン	三九五、〇〇〇	印度	二四、〇〇〇
蘇領アジア	二四〇、〇〇〇	滿洲國	二二、〇〇〇
イラク	九〇、〇〇〇	支那及日本	一五、〇〇〇
ペルシヤ	三五、〇〇〇	アフガニスタン	一〇、〇〇〇
東部土耳古	三一、〇〇〇	チエメン	二八、〇〇〇
シリア	二五、〇〇〇	其他	八〇〇
計	九十一萬八千八百人		

新第四表　アフリカ（千名以下省略）

國名	人口	國名	人口
佛領モロッコ	一一九、五〇〇	伊領タンケル	一五、三〇〇

アルヂエル	九八、〇〇〇	伊領キレナイカ	五、〇〇〇
エチオピヤ	八〇、〇〇〇	伊領トリポリ	一六、一〇〇
佛領チユニス	六五、〇〇〇	西班牙領モロツコ	一五、五〇〇
計	五十六萬人		

新第五表

國名	人口
オーストラリヤ州	二萬八千七百人

全世界猶太人口總計　一千六百二十七萬三千三百人

六、革命と猶太民族

一、猶太民族は何故革命家なるか

此のことは前に一通り述べたが、西暦一三五年羅馬政府の最後の彈壓により、故國を追はれた猶太人は、三々五々諸方に流散し、附近の國々に各々猶太人の集團部落を作ることになつた。

こゝに於て猶太の有識者は、斯くも我々が徹底的に外來者に追放せられては、最早再びパーレスタインの聖地に復歸することは、不可能であると諦め、茲に於て彼等は猶太民族を永遠に存在せしめるため、精神王國を建設した。即ち猶太人の大聖典タルムードを作つたのである。併しながら一般の猶太民衆は、單に此の精神王國の創設により、尊崇措かざる所のエホバを祭るジェルサレムの聖殿を、どうして見捨てることが出來やう、又其の懷かしい故鄕を諦めることは出來やう、其の結果猶太民族に對する仇敵、パーレスタインの征服者たる羅馬政權を覆滅して、昔の猶太王國を復興せねば已まなかつた。

之が爲め猶太民衆に必要なものは、先づ第一に征服者に對する革命であつた。即ち各地の猶太集團部落及其の有力者は、猶太民族復興の爲め、一般民衆に對して、自由獨立の思想と革命

此の事については、明瞭に掲げてある。是によつて見るも、猶太民族の革命思想なるものは、如何に古くから胚胎し、如何にして生じたかといふことが、明かに知り得るのである。

實際今から凡そ二千年前に猶太民族は、上つ調子や、世界の大勢で革命思想にかぶれたとか、共鳴したとかいふのではなく、其の環境上から切實に革命の必要を感じ、革命なるものを、己れの征服者に對する復讎の手段として、又自己民族の生存の爲め、優者に對する唯一の武器として、眞劍に研究し來つたのである。實際に於て、過去現在共に歐米の革命思想の保持者並に實行者として、有名なる多くの猶太人を輩出して居る。

此のことについては、後に詳述する考へであるが、露西亞革命に於けるレーニン、トロツキー、ヨツフエ、ジユノウイーエフ等無數の猶太人、次に獨逸革命に於けるリーブクネヒト、洪牙利、西班牙革命に於けるベラ・クン、愛蘭革命に於けるド・ヴアレラ及びロバート・ブリス

コ、青年土耳古黨の革命に於けるジャウイツト・パシヤ等、多數の猶太人がある。尙ほ學者、思想家に於て有名なるハイネを初めとしカール・マルクス、ラサール等多數の猶太人を見るが、此等は前に述べた猶太民族の歴史的環境並に傳統の然らしむる所である。

日本の一部の學者の中には、猶太人が革命家であることや、露西亞、獨逸の革命が猶太人に依つて爲されたと言へば、猶太人は平和の民である、革命などゝいふ大それた罪惡を犯す民族ではない、それは猶太民族を誣ふるために言ふのである、などゝ猶太民族に賴まれもせぬ辯明をする人もあるが、之こそ研究不足の無責任の言辭であると思ふ。

猶太人は我々日本人と其の歴史並に傳統より、其の根本思想が全然異つてゐる所から、革命なるものに對する觀念も、亦日本人と根本的に異つてゐる。私が海外に於て逢つた限りの猶太人は、例へば露西亞革命に於ける猶太人の活動並に其の成功を、同族の誇りとして物語つてゐる。日本人が自國に對して革命を起すことは、罪惡であると考へる點から推測して、猶太人も亦革命を爲すのは罪惡の如く考へてゐるのではないかと思ふのは、既に大なる誤りである。

前にも申述べた通り、猶太人の革命思想は、彼等の宿命であり、其成功は彼等の誇りである。卽ち猶太民族の國家滅亡以來、革命思想と猶太人とは、不離不卽のものであると言つて差支へない。革命ある所猶太人あり、猶太人ある所必ず革命がある。歐洲の如何なる革命も、猶太人の參加なくして成功したるものなし、と言はるゝのは當然のことである。

我々は猶太人の革命思想の根源を知り、又猶太民族と正反對の國家及び國民である立場に於て、却て猶太の革命思想に感化れ、自國に革命を爲さんとする者ありとすれば、其の考へが如何に淺薄であつて、如何に大馬鹿者であるかを、看取することが出來るであらう。

二、マルクスと猶太思想の根底

讀者は先づ次の一文を熟讀されたい。

『救世主は團結せる猶太人それ自身である、宇宙の支配は、他人種の統一と、各個獨立主義の城壁たる國境及び君主國の廢止と、猶太人に對し隨所に市民權を認むる世界共和國の建設

によつて得らるゝであらう。

全然同一種族で且つ全く同一の傳統的陶冶を受けて居るイスラエルの子孫、而も特殊國家を形成して居ないイスラエルの子孫は、爾後地球の全表面に擴がり、此の新しい人類社會の組織の裡に、到る處何等の抵抗なく指導原子となるであらう。殊に彼等の中の或學者の堅實なる指導を、勞働大衆に課するに至つたならば尙更のことである。

世界共和國を建設したならば、國家の統治權は無産者の勝利によつて、何等の努力を要せずしてイスラエル人の手に移る。

玆に於て私有權は、到る處公共財産を管理する猶太人種の支配によつて、廢止せらるゝに至るべく、斯くて救世主時代の到來せる時、猶太人は全世界の人民の財産を其の鍵の下に掌握すべしといふ、猶太傳統の約束は實現せらるゝものと信ずるのである』

右は猶太人バリユーフ・レヴイが、其の友カール・マルクスに宛てたる書簡の一節である。

本書翰中に含むと同樣の思想が、エドモン、アンドレー、スピール等の、現代の猶太著述家に

よつて發表されて居るのである。

倘ほ該書翰は、一八八八年伯林に於て發表論議され、又佛國に於て一九一九年迄度々論題となり、其の都度愛國者の大憤激を買つたものである。

此の書翰のことは暫く措いて、之に關係ある有名なカール・マルクスに就て一言する。

カール・マルクスは一八一四年五月五日に獨逸の古い都市トレーヴに生れた、祖父は、ライン河畔コローニュの猶太教法師で、其の父はやはり猶太教職にあつたが、教職を其の兄弟に委ね、自分は商業を營んで相當の財産を作り上げた。當時プロシヤ政府では猶太教徒から品物を買上げなかつたので、彼は其の權利を得る爲めに、表面上新教に改宗したが、家庭では猶太教を棄てることなく、依然之を信奉して居つた。從つて若きカール・マルクスの少年時代は、猶太民族の傳統的物語によつて育まれたのである。即ち

神は世界を猶太人に與へぬ

救世主の來りまさん日

永遠に彼等は世界を支配せん
獨り猶太人のみ此の權利を保有す
救世主の來りまさん日
基督敎徒より奪ひし山と積まるゝ富と
金庫の鍵を運ばんがため
二百頭の騾馬を要せん……

此の敎義によつて、若きイスラエル人マルクスは、特に民族の勝利といふことゝ共に、利己的な物質的の遠大な搾取觀念（自ら資本家の搾取を攻撃しつゝ）を抱懷するやうになつたことは當然である。

マルクスは成長するに及び、先づボン大學で法律を學び、次いで伯林大學に哲學を修めた。當時伯林では、ヘーゲルの學說が覇を稱へて居つた時代で、彼は其の影響を强く受けたのである。之に就てサリユーストはいつてゐる。

『ヘーゲルの汎神論は、カール・マルクスのヘブライ自然神教觀念を一掃し、彼の胸奥に殘されたものは・猶太人たるの誇りと、今一つは至高な思想は全世界を支配するに至るべく・而も全世界を支配して無窮に發展せしむるものは、卽ち猶太民族の至高な思想である、と云ふ此二つの確信に外ならなかつた。云々』と、

又同じく猶太敎徒たるベルナール・ラサールは、マルクスを目して、

『頭腦明晰で英敏な猶太敎徒として、其の祖先の有らゆる論理的才能を繼承し、社會學を究め且つ經濟學の批判に、解釋者たる天賦の資質を適用したところのマルクスは、純眞なる猶太敎法師の子孫である』

と敬意を表して居る。

又マルクスの傳記を見ると、彼の父と同樣に彼も獨逸の壓迫の結果・餘儀なく基督敎に改宗したことは少年たりし彼の精神に、非常なる憤激を與へ、彼の成長するに及んで、『猶太人問題』なる書を著して、プロシヤ政府の暴政を攻撃した。マルクスの復讐心は一生を通じて殆ん

ど燃えてゐたと。又マルクスは毎に同族のことを忘れたことなく、一生を擧げて猶太民族の爲めに盡したといはれてゐる。

今吾々は、先きに揭げたバリユーフ・レヴイのマルクス宛の書翰を讀み、更にマルクスの猶太人としての生立ち、其の猶太的傳統並に其の環境を檢討した頭で、一八六二年倫敦に開催せられた工業博覽會に、諸國から集まつた技術勞働者に對し、偶々勃發した露國軍隊の暴動に關する抗議大會の席上、燃ゆるが如き熱辯の後、『萬國の勞働者團結せよ』と絕叫して、第一インターナショナルを卽座に組織したカール・マルクスの心底を見たならば、彼の理論彼の主義主張が如何なる心底から流れ出でたものであるかを窺知することは決して困難でないと信ずる。

マルクス等猶太學者の說く所は、猶太人としては、自己の立場から之を最善と信じ、最高の民族的使命と感じたにせよ、結局我々日本人と全然傳統と立場とを異にせる猶太人としての理想、猶太人としての希望で、其の運動は此の猶太人の目的、卽ち全世界の人民の財產の鍵を握る爲めの、手段に外ならないことを看取し得よう、今の露國の共產主義の第三インターナショ

ナルも、此の第一インターナショナルから生れ出たものであるが、日本は現在此等の赤思想に侵略せられて、勞働階級は申すに及ばず教育界は大學より小學校に及び、遂に神聖なるべき裁判所内部迄も喰ひ入り、思想國難を招來して居る。

而も相當以上の博士學者が、猶太學者の說く理論の端にのみつかまりて、單に其の利害を論じ、青年は之を嚙ぢることを以て、進步と心得新しいと嬉しがつてゐる中に、形態は日本人で心は猶太人の出來そこなひになつて國家を毒し、甚だしきは不逞の行動を敢てしてゐる。實に驚く可きである。

私は之を見て何時もさう思ふのであるが、日本の識者は、マルクスやラサールの學說理論を研究する前に、何故進んで猶太人を研究しないのかを不思議に思ふのである。猶太を研究することは、道樂や物好きでない、以上の思想的意味からだけでも緊急問題である。私は此の意味に於て、軍人會が菲才の私に對し、猶太問題の執筆を依賴せられたことに就て、敬意を表すると共に、其の責務の重大を感じつゝ、寸暇を利用して今筆を走らせて居るのである。

三、猶太人は資本家か革命家か

我々が猶太人の家を訪問したならば、其の座敷の一隅に、宛も耶蘇教徒の家に基督の像を掲げてある如く、テオドル・ヘルツル博士の肖像を掲げてあるのを、屢々見受けるであらう。

テオドル・ヘルツルは十九世紀の末葉、全世界の猶太民族が、改宗、同化の惡思想に感染し、全く猶太民族たるの氣魄を失ひ、其の民族性が消滅せんとせる際、自ら起つてシオニズムを唱道し、猶太民族の國民精神を喚び起し、今日の猶太人をして、猶太精神に生かしめた。謂はゞ現代に於ける猶太の救世主である。

此のテオドル・ヘルツル博士は、一八六〇年、丁度巴里でアドリフ・クリミエ、モンテフオレ等の猶太人が、世界猶太人の中央機關たる、全世界猶太人同盟を創設した時の五月二日、洪牙利の首都ブダペストに呱々の聲をあげたのである。彼は成長するに及び文藝に志し、文藝記者として活動してゐるうちに、解放後に於ける猶太民族の、憎むべき墮落の狀態を觀察し、

決然起つて猶太民族更生の爲め、猶太國復興の爲め、獻身的活動を開始したのである。
彼は一八九六年先づ全世界の猶太人に對し、一大檄文を飛ばした。之は『猶太國』(原名ユーデンスタツト)といふ、猶太人に取つては不朽の名著であり、又シオニズムの研究の爲には、其の原本とも言ふべき有名な書籍である。本書は獨逸語で書かれたものであるが、當時十八ケ國の國語に飜譯され、全世界の猶太人に頒布せられたのである。

此のヘルツル博士の『猶太國』中に次の文句が揚げてある。

『猶太人を苦しめることの不可能は、却て憎惡の念を増大し、日々反猶太主義を強大ならしめた。其の一原因は、吾人の中流知識階級の、過度の輩出である。此の階級は下方に流出することも出來ず、又向上することも出來ない、換言すれば、健全なる流出と、健全なる向上の道を持たないのである。從つて吾人は下方に對しては、プロレタリヤと化して社會の覆滅者となり、有らゆる革命黨の下士團を作り、之と同時に上方に對しては、恐るべき我が黃金力を増大せしむるものである』

と、又曰く

『吾人ははけ口の無い所から、財産を增大すると同時に、社會的危險分子となる所の、中流知識階級を拵へることになり、敎育があつて財產のない猶太人は、現今悉く社會主義者に落ちて行く、社會的鬪爭が如何にしても吾人の背に於て行はれるのは、吾人が資本家的にも亦社會主義者的にも、顯著な位置に立つて居るからである』

又曰く、

『私の提議の爲に各國政府が、猶太人に對して不利を計らうとしても、それは斷じて出來ないことである。何故ならば猶太人の法律上の同權が一度成立した處では、之を廢止しようとすれば直に有らゆる猶太人は、貧富を問はず革命黨に投ずることになるから、同權を廢止することは出來ない。又猶太人に對して、官衙が不公平なことを公開すれば、到る處經濟的危機を齎すに至るから、自ら不幸を招くことを欲しない官衙は、吾人猶太人に對して、不利の手段に出づることは出來ない……』

以上ヘルツルの檄文によつて見ると、ヘルツルは大體猶太人を、社會の覆滅者たる革命家と、大資本家の二種に分類して居る。又其の必要に應じ、有らゆる猶太人は貧富を問はず、直に革命黨に變化するものであると述べて居る。要するに世界に分散する猶太民族なるものは、現代猶太民族の尊崇措かざるヘルツル博士が、革命家であることを、全世界人道史の上に宣言をしてゐるのである。

之れ以上に猶太人の抱懷する革命思想について、私は今更改めて、玆に證言を擧げる必要はなからうと思ふ。

四、土耳古革命に於ける猶太人の活動

回教王國として、政治及び宗教の主權を掌握し、歐亞の地に亘つて永年君臨したところの土耳古王朝は、最後に靑年土耳古黨の革命によつて、脆くも崩壊し、遂に皇帝は埃及に亡命してケマル・パシヤ（パシヤとは回教徒間に稱へられる尊稱である）が之に代り、今日の土耳古共和

國が成立するに至つたのである。

此の青年土耳古黨なるものは、最初主として猶太人、希臘人及アルメニヤ人から成立つてゐた。此の三人種は何れも、狡猾なる點に於て世界に冠たるものである。此の青年土耳古黨は當初其の活動の効果が、甚だ微弱であつて、あまり現はれなかつた。

そこで彼等は、例の世界的秘密結社であるフリーメーソン（マツソン）に援助を求めた。其の結果青年土耳古黨秘密委員會が組織され、其の本部はサロニカに置かれた。サロニカはその昔西班牙から移住した猶太人の定住した處で、總人口十一萬人のうち、七萬人は猶太人であるといふ、所謂猶太市である。革命黨員等は此の市に於て外國の外交的保護を受けつゝ、革命を準備した。從つて老大國土耳古皇帝は、彼等に對して手を下しやうがなかつた。

此の猶太市サロニカに於ける革命黨員の中で、最も有力なるものはフリーメーソン結社員たる猶太人であつたことは言ふまでもない。就中後に土耳古共和國の大藏大臣となつたジヤビツト・パシヤは、サロニカに於ける回教猶太人で、此の青年土耳古黨の革命に參加し、非常な力

量を現はしたのであるが、分けても青年土耳古黨の活動資金は、此のジャビット・パシャの尠からぬ盡力によつて、サロニカ猶太人の提供したものである。斯くして革命は勝利の行進をなし、遂に土耳古帝國は無殘に倒され、彼等の欲する今日の共和國土耳古が現出したのである。我々は青年土耳古黨の革命を以て、封建的土耳古專制政治に對する、土耳古一般民衆の覺醒と反抗心とが凝つて、青年土耳古黨が結成され、土耳古一般民衆の解放の爲に、彼等が奮起した如き感を懷かないでもないが、其の眞相を捉へて見ると、以上の如くであつた、若しも青年土耳古黨の活動中に、ジャビット・パシャ以下の猶太人が居なかつたならば、恐らく土耳古の革命は、成立しなかつたことであらうと思ふ。之を要するに青年土耳古黨の成功は、一面フリーメーソンの謀略であると同時に、他面猶太人の活動の結果に外ならないのである。

因に、老大土耳古を青年土耳古に還元し、世界の耳目を聳動してゐるところのケマル・パシャは、純土耳古人（土耳古人は申すまでもなく、所謂西洋人ではなく、我々日本人と同様ウラルアルタイ民族に屬する種屬である）でなくして、猶太の血液を受けて居るといふこと

が、確實と見られてゐる。尚ほ現在ケマル・パシャ以外の諸大臣は、一人殘らずフリーメーソンの結社員であるといふことは、私が嘗て土耳古に滯在中、有力なる土耳古人から聞いた所である。

五、猶太人の露西亞革命への前進

1 露西亞人と猶太人との抗爭

露西亞の革命をお話するに當つては、先づ露西亞と猶太人との關係に就て、一應之を述べる必要がある。

帝政露西亞は申すまでもなく、現在のソヴェット露西亞の外に波蘭を併有して居つた。以前波蘭の猶太人口は三百七十一萬六千で、世界一の猶太人口を有し、又ソヴェット露西亞は二百九十七萬、卽ち約三百萬の猶太人を有ち、亞米利加合衆國に次いで、世界第三位の猶太民族包容國であつた。

從つて昔の帝政露西亞は、此の波蘭を合せて居つたからして、合計約六百餘萬の猶太民族を持つてゐたのである。當時世界の猶太人口は、約千三百五十五萬と謂はれて居るから、帝政露西亞は世界猶太人口の半數近くを保持してゐたのである。

帝政露西亞が昔から、猶太人に關し種々なる問題を、屢々惹起し、又此の露西亞猶太人の中から、各種の有名なる人物が輩出してゐるのは、蓋し當然のことである。

帝政時代に於て、昔から露西亞は此の猶太人を非常に虐待したことは、有名な事實となつて居る。露西亞には『ポグロム』といふ言葉がある。之を譯して『猶太人狩り』といふ、即ち露西亞官憲が、猶太人をゲツト（猶太人街）から追放することを意味するもので、此のポグロムが屢々行はれて居る。

露西亞官憲が何故にポグロムを屢々實行したか、其の第一の原因は、宗教に基くものと察せらるゝ、露西亞は耶蘇教の中でも、最も固苦しいと言はれる希臘正教國であつた。從つて嚴確に猶太教を奉ずる猶太人との、相互の反感も亦最も激烈である。又民族的に見て、其の性格上

ジエルサレム猶太博物館の殆んど大部は猶太民族迫害の悲慘なるポグロムの記念品にして、下圖は博物館の一室にある猶太人狩に遭遇せる猶太畫家のスケッチなり。



住み馴れし部落を後に雪の廣野をカサックに追はれ行く猶太人。



露兵の銃劍下に將に斃れんとする猶太の知識階級。

純露西亞人たるスラブと猶太人とは、氷炭相容れざるものがある。

此等の點から露西亞に於ける猶太民族は、所謂露西亞人と常に爭鬪をつゞけ、常に彼等から多大の壓迫を受けて居たのである。現に露西亞にはスラブ系の純露西亞人の外に、獨逸系、タタール系等五十餘の異種族が、混然として生活を營んで居る。併し猶太人を除いて他の種族は、概ね露西亞人と同化し、種族的の反感や鬪爭の起ることは至つて稀であつた。猶太人は啻に宗教、種族の相違からばかりでなく、其の持前の狡猾と、排他的利己心等が、他の種族から忌み嫌はれる原因の一つとなつたのである。

彼の露西亞皇帝イワン四世は、一五六三年ポロツクを攻略した時、同地に猶太人あり如何に取扱ふべきやの問に對し、極度に猶太人を嫌惡せし皇帝は、卽座に猶太人に對し『三分の一は追放し、三分の一は改宗し、三分の一は水に投ずべし』と宣告したことは有名な話である。

ジエルサレムの猶太博物館の二階各室全部は、猶太人の被つたポグロムの記念館である。追放せられた猶太畫家の筆に成る、眞に迫つたポグロムの實寫の油繪、其の他の繪畫、擊たれた

猶太人が腹に卷いてゐた血染めの猶太聖典トーラ等、一見身震ひするやうな殘虐なる記念品が、幾百となく陳列され、見る人をしてポグロムの恐ろしき狀況を、目のあたり彷彿せしむるものがある。斯の如く猶太人と露西亞人との抗爭は、非常に激甚のものであつた。從つて猶太人も亦帝政露西亞に對し、革命を以て之に報復せんと、屢〻企圖したのである。

以下露西亞革命突發に至るまでの、猶太人の活動に就て述べることにするが、歐洲文明を露西亞に輸入し、諸外國の人材を盛んに採用し、未開の露西亞を開發して、遂に大露西亞帝國の基礎を築いたペートル大帝は、猶太人に關し次のやうに述べてゐる。

『……朕は我が露西亞國に於て、猶太人よりも寧ろ異教徒或は回教徒を見度きものなり、猶太人は詐欺師にして詭計家なり。彼等が如何に努力し、如何に彼の隣人に賄賂するとも、我が國内に於ては、彼等の爲に住宅を建て、商業を營ましむる能はざるなり』

と、露國振興の爲めに、多數の外人を登用したペートル大帝さへも、猶太人に對しては、好感は持たなかつたやうである。

又露西亞の有名なる文豪トールストイは猶太人に關して次のやうに言つて居る。

『……猶太人は棒を以て諸君の背中を打たん、されど諸君は猶太人に叩頭頓首すべきなり』

と、露西亞人の猶太人に對する感想の一部は、之を以て大要を察知することが出來る。

露西亞國內部に於けるスラブ民族と、猶太民族との抗爭は、相互の宗教的、民族的不融和から、一つの抗爭が次の爭鬪の原因を爲し更に原因が原因を生み、結果が結果を生じ、永年の間に、緩急張弛はあつたが、其の兩民族の抗爭は、ソヴェツト露西亞の今日に至つても、尙ほ繼續せられて居る。私は各種の方面から觀察して、スラブ、猶太兩民族の氷炭相容れざる抗爭は皇威遠く大陸に及び、兩民族共に我が皇恩に浴せざる限り、今後と雖も融和することなく、永遠に持續されるものと、確信して疑はない。

2　猶太人の渡米と露西亞革命準備

露西亞に於ける猶太人壓迫は、ニコラス一世時代（一八二五年頃）に行はれ、頻りに改宗を

强制せられたが、一八五五年アレキサンダー二世の時代に至り、大いに緩和せられた。然るにアレキサンダー三世及び其の子ニコラス二世時代に入つて、又々峻烈になつた。

露西亞から亞米利加に移住した猶太人の大部は、即ち此時代のもので、西暦一八八二年から一九〇六年に至る二十五年間に、露西亞から亞米利加に移住したもの、實に二百萬人を突破して居る。

さて露西亞に於て、猶太人に對する取締を嚴重にした原因は、露西亞國內に居る猶太人が、國外の猶太人と相策應し、所謂過激思想によつて、露西亞帝政の顚覆を企圖したためである。事實露西亞の各所で、過激派猶太人の逮捕が、屢々行はれたのである。されど自由と解放とに熱狂せる猶太人は、露西亞の制壓が强ければ强い程、又取締が嚴重なれば嚴重なる程、自己民族の權利を獲るため、一層强く其の力を用ゐた。遂に彼等は亞米利加を利用し、次ぎに述べるやうな、巧妙な方法を用ふるに至つた。

露西亞に於て自由を獲ようとした露西亞在住の猶太人は、前に述べたやうにどし〳〵亞米利

加に渡航した。そして其の滯在間に亞米利加の國籍を獲得し、新たに亞米利加國民となり、露西亞に在る自分の家に歸つて來た。即ち彼等は國を出るときは露西亞人で、歸るときは亞米利加國民となつてゐたのである。

其の當時米露兩國政府は、相手國の國民の自由權を、互に認めることを約束して居つた。そこで露西亞駐在の亞米利加領事は、此の外交上の取り定めに基いて、此の俄作りの新亞米利加國民に對する、露西亞官憲の干渉を絶對に拒絶し、彼等を保護することに努力した。併しながら露西亞政府は、此の新らしき米國猶太人の過激的陰謀に對して、沈默することが出來ないので、依然として彼等の檢擧に努力し、其の亞米利加猶太人であると否とに拘らず、峻烈なる猶太人取締を繼續勵行した。

是に於て亞米利加と露西亞との間に、猶太人を中心として、外交的抗爭が續けられ、其の結果露西亞は、過激派猶太人に對する取締に、若干の手加減をしなくてはならないやうになつた。

フオードの機關紙たるインデペンデント紙の報ずる所によると、

『露西亜に於ける猶太革命家の重要人物は、其の大部が亜米利加の紐育から起つたもので、後に帝政を倒して自立した露西亜革命政府、卽ち猶太政府は、此の紐育東部下町方面から來た人々によつて、占められて居る』と述べてゐる。

3　ウイッテ伯の囘想錄に現はれた亞米利加猶太人

話は少々横道に這入るが、此露西亜に居る猶太人の自由獲得の爲、種々な手段を弄して活動したのは、亜米利加の金權王として有名なクン・ロエブ・エンド・カンパニーの支配者猶太人のヤコブ・シッフであつた。シッフは露西亜猶太人の自由獲得と、露西亜革命のため終世盡力した人である。

話はこれから此のヤコブ・シッフの活動に移る。日露戰爭勃發するや、シッフは日本の外債を一と手に引き受け、日本の武器を以て、先づ露國を膺懲すべく計畫をした。日本は又彼の盡力によつて、兎に角日露戰爭を繼續したのである。

斯くて日露戰爭は終末を告げ、ポーツマスに於て日露媾和談判が開かれた。此處に於て日本の小村外相と、露西亞のウイツテ伯とが、此の談判の局に當つたのである。其の際ウイツテ伯は先づ紐育に於て、猶太人街を挨拶してまはつたゝめに、米國の諸新聞は、ウイツテ伯の偉大なる人物なることを稱揚し、大々的に之を揭げたので、露西亞の今迄の不評判は一變して小村外相を壓倒し、ウイツテ伯は亞米利加人の間に非常な人氣を博するに至つたのである。これはウイツテ伯の夫人が偶〻猶太系の婦人であつた爲めでもあらうが、併しウイツテ伯が亞米利加に於ける猶太人の偉大なる勢力と、其の影響とを、よく心得て居つたゝめに外ならないと思ふ。

今ウイツテ伯の『回想錄』について其の眞相を窺はう。此のウイツテ伯の『回想錄』は、謂はゞ伯の生前の自叙記であるが、伯は一九一五年世界大戰中に歿したので、一九二二年露西亞革命後伯の未亡人によつて公刊されたものである。該書は我が國では『ウイツテ伯回想記日露戰爭と露西亞革命』の表題下に、大竹博吉氏が飜譯して公刊したもので、頗る有益な書である

から、既に御存じの方もあらうが、此の『回想錄』中にある日露媾和談判當時の伯の猶太人に關する行動の一部を、左に其まゝ摘錄する。

『私（ウイッテ伯自身を指す）の行動方針』

私が、突然の命令で媾和全權に任命されてから二週間の時日を經過した。その間に私は何かと多忙を極めてゐた、少しも落ちついて考へる遑がなかつた。今後六日を過ぎれば、私は猛烈な外交戰に臨まねばならないのである。そこで、この與へられた海上の六日間だけは一切他事を顧みないで、精神を集中して論戰の方略を研究することにした。幸ひ船中では單獨で過ごす時間も多かつたので、色々の事を考へ合せて、自分の行動の基調を大體次のやうに定めた。

三．アメリカにおける新聞の勢力の强大なのに鑑みて、記者達に對しては特に愛想よく心安く待遇すること。

五．アメリカ特にニューヨークで、ユダヤ人と新聞の勢力の强大なることを打算して、少

しても彼等の不快を招くやうな擧動のない樣に細心に注意すること。

ポーツマスで決定した媾和條項は、それが發表されるまでは、何人も思ひもよらぬほどロシア側としては、實に無上の成功だと言はれて居る。併し、私がそれほど談判を有利に展開し得たのは偏に前記の心得を守つた結果と言はねばならぬ。

『紐育ユダヤ人街訪問』

ニューヨークでは大使の盡力で目拔きの場所の一流のホテルに私の宿舍をとつてくれた。それは總ての點において申分のないものであつた。その代りに私は每日三百八十留を支拂はねばならなかつた。その露臺にはロシアの大國旗が高く揚げられた。

その季節はニューヨークは酷暑の最中であつた。市民の多くは他に避暑してしまつて、市内はやゝ寂寥の感があつた。アメリカの警察は何か聞き込んだ事でもあるのか、私が上陸すると直に私に護衞を付けた。この護衞は媾和の成立後に却つて嚴重になつた。それはアメリカ在住の日本人中に私に危害を加へる計畫がある樣な風說が立つたからである。

また大使の話では、キシネフの大虐殺以來アメリカへ避難したユダヤ人の中にも、私を暗殺する計畫がある樣な風說が傳はつて居るとのことであつた。

私がニユーヨークへ着いた時、ユダヤ人街には行かない樣にとの注意があつた。此の時ニユーヨーク市内には約五十萬のユダヤ人が住んで居た。その多くはロシアを逐はれて移住して來た者であつた。私を暗殺する計畫があるといふ風說はこの邊から起つたものらしい。

私はニユーヨーク到着後直に自動車を走らせて、大使館員一人を隨へただけでユダヤ街を訪れた。最初は不思議さうに横目で見てゐたが、私が幾人かのユダヤ人を呼び止めて、ロシア語で話しかけた時には、彼等は次第に私の周圍へ集まつて來て、親しみの態度を見せる樣になつた。

『ポーツマス乘込み』

私は特急列車でポーツマスへ行くことにした。私が同市に滯在した事がいつか知れ渡つたので、停車場へ着いた時には多數の見物人が集合して居た。その中に私に何か言ひたさうに

して居る者が見えたので、私は護衛の警官から、車内から出ない様に止められて居たが、歩廊へ降り立つて、彼等の方へ近寄つた。すると、その中からロシア語で話しかけた者があつた。それは數人のユダヤ人で、最近ロシアから此地へ移住した人々であつた。私は彼等の生活狀態を問うた、すると彼等はかう答へた。

「兎に角稼ぎがあるからロシアに居るより生活は樂である。しかし自分等はロシアの政治は呪ふが、父祖の墳墓の地だからロシアを忘れる事は出來ない。今度の媾和談判でもユダヤ人はロシア全權の不成功を祈つて居るとか風說する者があるが、それは我々の心を知らない者の揑造である。我々はやはりロシア全權の成功を祈る者である。今日貴下がこの地にあると聞いて、それだけのことを言明するために來たものである」

列車が動き始めると彼等は一齊にウラーを高唱した。

併しウイッテ伯の『回想錄』に依れば、ウイッテ伯は日本全權との媾和談判の交涉以外に、豫期せざる重大なる交涉に遭遇した。先づ之を伯の『回想錄』に依つて檢討して見よう。

『在米ユダヤ人代表との會見』

私はアメリカ滯在中にユダヤ人の代表者等からロシアに在るユダヤ人の待遇問題について、二度訪問を受けた。この代表者中にはシツフ（アメリカ・ユダヤ人、金融界の巨頭）及びシトラウス（前駐伊アメリカ大使）の二人も加はつてゐた。彼等はロシアのユダヤ人の境遇が悲慘なことや、今後この儘に放置しがたいこと、ロシア人と同等の權利を附與する必要のあること等を述べた。

私は彼等を非常に丁寧に待遇し、ロシアにあるユダヤ人の境遇に同情すべき點の多いことや、彼等の境遇改善の必要を認めた。併しまた、現在アメリカで報道される所にも、隨分誇張が少くないと辯明した。ロシアの事情に全然通じて居ない、そしてロシアから來たユダヤ人の誇張的な說だけを聞いてゐるシツフは、容易に私の言ふことを承服しなかつた。併しシトラウス博士その他同行の人々が、稍私の言ふ所に傾聽したので、彼等との會見の結果は相當に効果があつた。シトラウス博士は、現在コンスタンチノーブル駐在のアメリカ大使であ

る……。』

右のウイッテ伯と猶太代表との交渉の模様に就ては、後の問題に關係があり、且つ興味あることであるから、更に少しく之を詳述しておかう。

ヤコブ・シツフ及びシトラウス博士が、ウイッテ伯に會見した際、先づ彼等は、冒頭に

『現在ロシア國内に於ける、革命的反亂の原因は、總て我々の計畫に依るものである』

と、露西亞革命の背後にあつて、之を主宰する彼等の陰謀を勇敢に告白說明したる後に、更に次のことを述べた。

『若しもロシア政府が、猶太人に對し平等なる自由を與ふるならば、此のロシアに於ける革命狀態は、直に一變するであらう』

之に對しウイッテ伯は、次のやうに答へた。

『猶太人に對して、ロシアが直に、平等なる市民權を與ふることは、却て反動的暴行を惹起し、猶太人に取つては、寧ろ不利益であらうと思ふ』

と述べた。此のウイツテの甚だ不滿足なる答辯を聞いて、シツフは非常に怒つた。併しシトラウス博士等が之をなだめ、更に數日の後會議を開いた。此の會議に於てウイツテ伯は、尙ほ一層愼重な態度を以て、猶太人側の提言に對し、同意を表することを保留した。其の時シツフ等は次のやうに言うた。

『若しロシア皇帝にして、我等の要求する自由を認めないならば、革命黨は忽ち共和政府を樹て、其の政府は完全に吾人の權利を保證するであらう』

と、こゝに於てウイツテ伯は百方辯解に努力したが、結局會議は物別れとなつて、猶太代表者は引き揚げた。

此の會議の決裂後、シツフ等の世界活動的機關クン・ロエブ・エンド・コンパニーは、直に露西亞革命政府樹立の計畫を立案し、シツフの命令によつて、當時日本に居つた露西亞捕虜に對し、露西亞帝國破壞の爲め、社會主義の宣傳が開始せられ、之が爲め莫大な費用が支出された。

間もなく、日本に捕虜となつてゐた露西亞人幾萬といふ多數に對し、慰問と稱して多くの露西亞語の書籍が、亞米利加から寄贈された。此の册子こそ露西亞革命の準備工作であつて、面白い小說の物語の中に、無政府主義や過激思想を含ませた恐ろしい一種の宣傳書であつたのである。俘虜收容所に退屈な日々を送つてゐた彼等捕虜は、暇にあかして丁寧に之を讀んだ。その結果として此の過激思想が、彼等の頭に根强く植ゑつけられてしまつた。其の効果は後年露西亞革命に於て歷然として現はれ、彼等の革命は計畫の如く成功して、露西亞大帝國は崩壞するに至つたのである。

話は少し外れるが、私が歐洲巡歷中、土耳古に『日土協會』洪牙利に『日洪協會』と命名された會のあることを目擊した。何故に此のやうな會が組織されたかと調べて見ると、歐洲大戰當時、露軍に捕へられた同盟國側の捕虜は、戰線から歐露へ歐露から西比利亞にと段々東に輸送され、遂に浦鹽に於て、日本軍の管理下に入ることになつた。我が軍では彼等を虐待せず、軍人として非常な好遇を彼等に與へた。戰後故國に歸つた彼等は、將來は須らく日

本に親しむべしと、當年の好遇に感奮して、當時の捕虜將校が中堅となり、以上の協會が出來上つたといふことであつた。

又滿洲事變勃發後、チチハル方面に走つた彼の蘇炳文の一隊は、遂に露國に入つて捕虜同樣になつてしまつた。露國は彼等を收容中・盛んに共產主義を鼓吹した。其の後彼等は此の思想を懷いたまゝ、支那に歸つてきた。新疆に於て共產軍が、段々とその勢力を增しつゝあるのは蘇炳文等の直輸入によるものと傳へられてゐる。

以上は皆捕虜の利用の好適例であると思ふので、玆に一寸蛇足を加へた次第である。

此のシツフの宣傳せる國家破壞のインターナショナリズムは、當時ニヒリズムと稱へられ、獨り露西亞捕虜のみならず、一般日本文學青年の間にも傳播し、我思想界に深刻なる影響を與へた。

此の露西亞革命運動に於て、當時彼の支出した金額は、千六百萬圓餘と評價されてゐる。即ち當時に於ける露西亞の革命騷ぎは、相手國たる所の我が日本に取つては、非常に有利であつ

たことは申すまでもない。
此の露西亞の革命騷ぎは、遂に露西亞帝國を其場に崩壞するに至らなかつたが、之は所謂西曆一九〇五年の露西亞革命と稱へられ、歐洲大戰に於ける露西亞大革命の基礎をなしたものである。換言すれば、最後の露西亞大革命は、要するに一九〇五年の革命の延長であると同時に、其の終結を告げたものに過ぎないのである。
話は又少しく後に戻るが、亞米利加猶太人の提言はウイツテ伯に拒絕せられ、又露西亞內部に於ては、一夜作りの亞米利加の國民たる革命猶太人が、依然露西亞政府の追及を受くると共に、一般露西亞猶太人に對する露西亞政府の取締りも、何等緩和されることなく、否寧ろ一九〇五年の革命騷ぎによつて、一層露西亞政府の猶太民族に對する注意及び取締りが嚴重となつて來た。此のことに就て、ウイツテ伯は其の回想錄に次のやうに述べて居る。
『ユダヤ人問題と露米關係』

翌日はニユーヨークへ歸つて・直にオスター・ベーに大統領を訪問して訣別を告げた。彼れからは我が皇帝陛下への親書を托された。大統領はその內容を私に讀み聞かせたが・その中にはアメリカの國籍に入つたユダヤ人が、ロシア入國について宗敎的關係から、色々制限をうけてゐるのを撤廢されたいといふ、抗議的な要求があつた。

その事は私が歸國して首相になつた時に、委員會に附議したが、遂に決定する所がなかつた。その後ゴレムイキンか、ストルイピンの首相時代に撤廢に決したと聞いたが、何故か實行を見ないで、遂にアメリカとの友好關係の障碍となつたのは遺憾である……。

此のウイツテ伯のいふ、亞米利加との友好關係の障碍とは、次に述ぶる米露通商條約廢棄のことを指すのである。

4　猶太巨頭の大統領に對する米露通商條約廢棄の强要

今度、話は大統領タフトに對し、猶太人等が、米露通商條約廢棄を强要したことに移るので

あるが・フォードの記述に依ると、タフト大統領の時代迄・猶太人は其の宣傳力を以て露國攻撃の棍棒に、常に米國を利用しつゝあつたと言つて居る。又猶太人は華盛頓に院外團を有し・此の院外團は宛も猶太國民に依り、華盛頓に設けられた大使館のやうなものである。而して此の院外團には、之を操縱する大使があつて、タフト大統領をしつかり押へることが、其の主要任務であつた。併し當時のタフト大統領は鯁骨漢であつて、容易く猶太人に左右せられるやうな軟弱者ではなかつた。

一九一一年二月十五日ヤコブ・シツフ、ヤコブ・フアース、ルイス・マーシヤル、アトロフ・クラウス、ヘンリー・エム・ゴールドフオグル等が、タフト大統領を白堊館に訪問した。豫てより彼等の要求は次の如きものであつた。

『亞米利加政府は露西亞猶太人の要求を、完全に貫徹せしめる義務がある。其の方法として、亞米利加は、亞米利加に國籍を有する猶太人の、露西亞入國と定住拒絶に對する抗議として、米露通商條約を卽時廢棄すべし、さうすれば露西亞政府は、亞米利加政府の發行する旅劵を

輕侮することが、如何に重大な過失であるかを了解するであらう』

と、タフトは、彼等が卓を叩き殆んど脅迫的態度で、議論しようとする計畫を察し、且つ彼等の要求を洞察して居つたから、彼等の裏を搔き、先づ彼等を書齋に集め、米露通商條約を廢棄することは困難であり、且つ亞米利加に不利であるとの判決を堂々と述べ、之を拒絶した。

傲慢なるシツフが此の答解に對し、極度に憤慨したことは申すまでもなく、彼は憤然として席を蹴つて起ち上つた。タフト大統領は此の猶太代表等に對し、慇懃に立つて握手の手を差しのべたが、シツフは此の手をはねのけ、階段を下りながら『此の上は愈々戰爭だ』と叫び、歸宅するや、彼は直に此の目的に使用するため、莫大な金額を準備することを命じた。翌日亞米利加に於ける大部の新聞は、

『タフト大統領は、一專制君主の爲に、亞米利加市民の自由が蹂躪されつゝあるのを、不問に付して居る、自由を尊重する亞米利加人は奮起せよ』

と、一齊に大統領攻擊を始め、猶太の各團體相結束して立ち、亞米利加全土に亘つて、大統領

攻撃の演説會が開催され、亞米利加上院下院も亦此の渦中に投ぜられた。此の一事を以て見るも亞米利加新聞の大部が、猶太の支配下にあるのを證することが出來る。
遂に其の結果、一九一一年十二月十三日上下兩院は、大統領に、米露兩國内の通商條約は、既に終了せる旨を通告すべく命じた。是に於て亞米利加政府は、露西亞政府が亞米利加政府發行の、旅劵を否認したとの口實で、八十年來繼續せられた米露通商條約を廢棄するに至つた。即ちタフト大統領は猶太人の前に降伏したのである。其の結果兩國間の莫大なる取引は、米國人の手から獨逸猶太人の手に移り、且つ一九一四年勃發せる歐洲大戰に方つて、露西亞が如何に重大なる影響を被つたかは、想像に難くないことである。此のタフト大統領攻撃に、ヤコブ・シツフが支出した金額は三百萬弗と評價されて居るが、其の効果たるや實に甚大であつた。因に猶太人に反對せるタフトは、大統領の任期僅に一期限りに終り、且つタフトと共に條約廢棄に反對せる人々は、皆同樣の禍ひを蒙つた。
一九二〇年ヤコブ・シツフ沒するや、巴里の猶太新聞は、

『將來の歷史家は、米露通商條約廢棄が、露西亞及び其の他の國々に及ぼした影響を記述する猶太民族史の頁に、特別なる注意と、深甚の敬意を拂ふであらう』

と、シツフの活動に對し、大に讃辭を呈したのである。

5　露西亞大革命の勃發と其の成功

一九〇五年の革命後引續き、前に申した通り、猶太民族の露西亞帝政破壞工作は、手を緩めらるゝことなく、依然行進を持續したのである。一九一七年三月いよ〳〵露都には革命の火蓋が切られた。人民は口々に、パンを與へよと叫び、市内は騷然として鼎の沸くが如く、民衆は次第に集團して政廳に迫つた。遂に三月十一日露都に戒嚴令が布かれ、軍隊は暴民鎭壓のため繰り出された。

折から開會中の議會は、社會民衆黨の意見に贊成し、現政府を瓦解せしめ、リボウフを首相に、民衆黨首領ケーレンスキーを司法大臣に任命し、翌日假政府を組織した。遂に三月十五日

には、皇帝は臨時政府の勸告に從ひ、退位の勅令を發し、皇弟アレキサンドルウイッチ大公に皇位を讓つた。續いてケーレンスキーは新皇帝に退位を迫り、自ら借政府の大統領に就任し、茲に三百年來歐洲に蟠居してゐた露西亞大帝國は崩壞し、所謂自由なる民主平等の露西亞共和國が成立したのである。

此のケーレンスキーといふ人は、純粹のスラブ民族ではなく、猶太人である。三月此の革命が露西亞に勃發するや、彼の有名なるレーニンは獨逸から、四千萬金マークの軍資金を携へ、露西亞に飛び込んで來た。つゞいて紐育下町に、腕を扼して待つて居つた所の猶太革命家は、陸續として露西亞革命の舞臺に登場した。當時駐露米國大使フレンシスが米國上院の委員會で、說明した所によると、猶太人は革命開始のとき、一週間に約八百人づゝ、群をなして露西亞に這入つて來た、と報告して居る。

ヤコフ・シツフの公開せる所によれば、彼が露西亞大革命のために、テロリストに提供したところの軍資金は、千二百萬弗であると言つて居る。又露西亞革命に於て、世界猶太民族の提供

した革命軍資金は、獨りシツフのみならず、各國の猶太富豪より提供せられ、佛國官憲の言によれば、約二百萬圓の金が、その猶太富豪のみによつて、革命家に寄贈されたとのことである。斯く虚無黨、社會主義、無政府主義、ボリシエヴィキー、及びメニシエヴィキー等各種各様の破壞主義の猶太人は、無限の財力を有する猶太大富豪の、熱烈なる後援により、後顧の慮ひなく、全力を盡して活動したのであるからたまらない。露西亞大帝國は忽ちにして、露西亞共和國に、續いて共産ソヴエート露西亞に變化し、年來の仇敵露西亞皇室は、皇帝以下可憐なる皇太子、皇女に至るまで、無殘にもエカテリンブルグの牢獄に慘殺され、帝政時代のあらゆる貴族、あらゆるインテリーは、共産主義に降伏せざる限り、白系の名の下に、或は捕へられ、或は外國へ逃走し、スラブ國家は根底より顚覆せられ、今迄主として虐げられ、其の居住地さへ限定せられて居つた猶太民族は、一躍大露西亞の支配權を獲得し、事實に於ける猶太政府を樹立し、共産主義の美名の下に、一般スラブ民族を脚下に蹂躪して、之を昔帝政時代の農奴生活よりも、更に悲慘なる獸的乞食生活に突き落したのである。

或る日本人が露西亞革命直後に、ゲー・ペー・ウーなる猶太人が、露西亞の富豪・貴族・僧侶等を捕へ、片つぱしからどし〳〵虐殺するので、『如何に共産主義反對者であつても、君達のやり方はあまりにひどいではないか』と詰問したところ、彼答へて曰く、

『我々猶太民族が數百年來、露西亞の貴族等に虐待せられたことを考へるならば、我々の復讐は實に些々たるものである』

と答へたといふことである。此の一事によつても、露西亞革命に對する彼等猶太民族の觀念の如何なるものであるかを推知することが出來ようと思ふ。

之を要するに、以上は極めて簡單に露西亞帝政崩壞に對する、猶太民族の遠大なる計畫、深刻なる其の實行の概要を御紹介したに過ぎないが、右によつて、一見相一致せざる如き猶太民族の大資本主義と、革命主義とが、猶太民族の理想を實現する爲に、協力一致しつゝある實際の狀態を、窺ひ知ることが出來るであらう。

次に露西亞革命政府樹立に方り、それが露西亞政府でなく、事實に於て猶太政府であつたと

いふ證據を、次の表に依つて御紹介しよう。

露國共産黨領袖一覽表

姓名	種族別	職務	革命前の經歴
ヨッフェ	猶太人	前駐獨大使ブレスト並に對エストニア及對波蘭媾和全權委員	新聞記者
ステクロフ	猶太人	イズウエスチヤ紙主筆	同
カーメネフ	猶太人	黨本部委員 モスコー勞兵會長	同
コップ	猶太人	伯林駐在代表記者 前駐日大使	生粋の共産主義者亡命客
ガネーツキー（本名フエルステンベルグ）	猶太人	國立銀行理事たりしことありリガ駐在代表者	一九一四乃至一七年コペンハーゲンに於て銀行事務を營む
レインシユタイン	猶太人	同右 外務部米國課勤務	歸化米國人
ジウノーウエフ（本名フツフエルバウム）	猶太人	黨本部委員 第三インターナショナル課長	瑞西に亡命す
グリンケル	猶太人	第三インターナショナル支部に於ける活動家の一人	亡命客

リトウィーノフ（本名フィンゲルシュタイン）	猶太人	外相代理 エストニア駐在大使	瑞西亡命客
トロツキー（本名ブロンシュタイン）	猶太人	黨本部委員 革命軍事會議々長	紐育及巴里に於て新聞記者たりしことあり
ポトウォイスキー	猶太人	革命軍事會議々長	
エムシアーノフ	猶太人	交通相	
メンジエンスキー	猶太人	全露特別警務委員會役員	
ルヰコフ	露人	黨本部委員 前最高國民經濟會議々長	工場取締役
ラデーク	猶太人	黨本部委員 第三インターナショナル本部役員	獨逸及瑞典へ亡命す
クラーシン	露人	外國貿易相	シインスシエッケルト工場技師及取締役
チエチエリン	露貴族	外相	外交官たりし事あり（二ケ年間亡命客）
カリーニン	露人	黨本部委員 全露執行委員會長	鐵工
レーニン（本名ウリヤーノフ）	猶太人	黨本部委員 プラウダ紙主筆	經濟學專攻學生獨逸及丁抹に亡命す（露人といふ說もあり）

スターリン（本名ヂニガンウイリ）	グルジヤ人	黨本部委員	
カラハン	混血猶太人	外務次官駐波蘭、駐支那公使	元メニシエウイキー派大學在學中イルクーツク派に追放さる
ボクダーノフ	露人	最高國民經濟會議長	
シユミツト	ラトウイシウ人	元勞働相	

露西亜を支配するは何人か

主なる國家機關	代表的役員總數	役員中の猶太人
人民委員會	二二	一八
軍事委員會	四三	三五
内務省	六四	四五
外務省	一七	一二
大藏省	三〇	二六

司法省	一九	一八
文部省	五三	四六
新聞及雜誌記者	四二	四一
國民經濟會議	五五	四四
地方コムミサール	三三	二一
赤十字代表者	八	八
社會救護委員會	六	六
職業委員會	八	八
舊制度國家事業調査委員會	二七	五
都市復興委員	二二	二〇
第四回全露勞兵代表者會議	三四	三三
第五回全露勞兵代表者會議	六一	四二

S R 社會國家 勞働中央委員會	一二	一〇
計	五四五	四四七

右の過激派の主要人物を更に人種別に統計すれば、次の如き結果となる（一々人名を擧ぐるは煩雑なるにより之を省く）

露西人	三一	ラトウイシウ人	三四	マディヤール人	一
波蘭人	二	フインランド人	三	獨逸人	二
チェツク人	一	グルジン人	一	猶太人	四四七
アルメニア人	一二	イメレテイン人	一	合計	五四五

露國帝政顚覆の爲には、單に過激派ばかりでなく、各種の反帝政社會主義團體が活動したことは勿論である。次に此等の社會主義團體内に於ける猶太人の勢力を窺ふ爲に、右團體内に於ける人種別を一覽に供する。

團體名稱	露西亞人	猶太人
國民共産黨中央局	一	五
メニシエウイクの社會民主黨中央委員會	○	一一
社會革命黨中央委員會（SR右黨）	一	一四
社會革命黨中央委員會（SR左黨）	二	九
モスコー無政府主義委員會	○	五
波蘭自治黨中央委員會	○	一二
合計	四	五六

以上の諸表によつて、露西亞革命は何人の手によつて成立し、又革命後大露西亞國は何人の支配下に入つたかといふことを、明瞭に看取することが出來ようと思ふ。

次に猶太人にして、露西亞人の名を用ひてゐたものを擧げて見よう。

露西亞匿名	猶太本名	露西亞匿名	猶太本名
ラーリン	ルーリエ	ナウーモフ	ギンツエルゲル
リーリナ	クニギッセン	スウエルドウロフ	ローゼン
ジウノーウイエフ	フツフエルバウム	マルトフ	ツエデルバウム
トロツキー	ブロンシユタイン	レウイートウスキイ	ツエデルバウム
ルナチアールスキイ	マンデリシウタム	スロンツエフ	ブレイフマン
カーメネフ	ローゼンフエリドウ	イリイン	ゴリドウシウテイン
ステクロフ	ナハームケス	ケーレンスキイ	アーキルビス
グラードネフ	ザークス	キエウインスキイ	クリユンバウム
ガネーツキー	フエルステンベルグ	カルル・ラデツク	ソベリソン
ローシチン	グロッスマン	レベデフ	ポリヤンスキイ
イリイン	チーゲル	ルミヤンツエフ	ルーリエ

ゼンコウイチ	ラドウース	スハーノフ	ギムメル
ウラデイシルスキイ	ギルシウフエリド	カムコフ	カーツ
パウロウイチ	ウエリトウマン	ザゴールスキイ	クラフマリ

6 現ソヴエト政權と民族爭鬪

現在のソヴエート露西亞を、やはり前述の猶太政府の繼續の如くに考へて居る人もないではないけれども、一九二四年レーニンの死後、現在のスターリンが專制的勢力を獲得し、又一方ではソヴエート露西亞に於ける、橫暴なる猶太政權に對する、一般スラブ民族の反感と覺醒とにより、所謂幹部派（スターリン以下非猶太人）、反幹部派トロツキー、ジユノビエフ、ヨツフエなどの猶太人側）の爭ひとなり、遂に猶太政權沒落し、スターリン等の天下となり今日に及んだ、併し猶太潛勢力は猶ほ偉大なるものがある。

又スターリンも元々共産主義によつて政權を掌握して居るのであるから、其の政策は猶太戰法たる共産主義を依然踏襲し、其の權力把持に努めて居ることは勿論であるが、今玆に現在のソヴエート露西亞に於ける猶太勢力を少し述べて見よう。

之は昨年八月ナーシプチ紙に報道された現ソヴエート露西亞主腦部の猶太人名表である。

共産黨政治事務局長	カガノウイツチ
外務人民委員	ソコーリニコフ
外務人民委員	リトヴイーノフ
外務人民委員	ストモニヤーコフ
內務人民委員	ヤゴダ
赤軍幹部	アロンシユテイン
農業人民委員	ヤコウレフ

ジャーナ・リスト	ラデック
ジャーナリスト	ゴリドブラント
ジャーナリスト	ヤロスラフスキー
國立圖書出版部指導者	アウエルバッハ

右の表には貿易人民委員が除かれて居るが、該委員は委員長ローゼンスリスリッチ以下殆んど猶太人である。從つて海外に駐在する通商代表は何れも猶太人である。其の理由は、スターリンがソヴエート露西亞の經濟建設の爲めに適材を適所に置いた譯で、世界資本の六、七割を有する各國の猶太財閥との關係上、通商代表に露西亞人を任命するよりは、猶太人を任命した方が遙かに效果的であるのは當然であつて、スターリンも此の點に着眼して貿易人民委員には致し方なしに猶太人を置いたのである。

ソヴエート露西亞に於ける露西亞人と猶太人との人口の比較からいふと、露西亞人一億六千

萬に對して、猶太人は僅に二パーセントに過ぎないのに、猶太人が以上の樣な樞要な地位を占めて居ることは、猶太勢力の今猶ほ相等以上にあることを物語るものである。

一體自由平等の理想を看板にして居る所の、共產ソヴエート國家には、民族的偏見などあるべき筈がないやうに思はれるのであるが、猶太民族とスラブ民族との抗爭は、今も依然として行はれて居る、否寧ろ帝政時代よりも猶太人の勢力が一段と向上しただけ夫れだけ激化して居る。以前露西亞大帝國を滅亡させる爲め彼等が活動した當時は、一時仲よく互に協力したやうに見えたが、愈〻其の目的を達すると、又よりが戻つて、民族爭鬪は大びらに行はれ出した。卽ち幹部派、反幹部派の爭ひ以後今も爭鬪が止まない。

今春世界の新聞紙を賑はしたキーロフ暗殺事件の眞相は、卽ち此の民族爭鬪の反映に外ならないのである。キーロフはスターリンの親友で、スターリンと共に反猶太主義の親分として排猶太主義の實行に協力して居つた。之に對して反幹部派たる猶太人の殘黨ジュノウイエフやカーメネフ等が、亡命猶太人の有力者トロツキー等と內外相策應して、反猶太主義者キーロフの

暗殺を遂行した。

此の猶太の陰謀は調査の結果暴露せられ、スターリン等の心膽を寒からしむると共に、スターリンの憤激はすさまじいもので、キーロフに對しては國葬の禮を以て哀悼の意を表し、一方ジュノウイエフ、カーメネフ等の猶太巨頭は忽ち捕へられて夫々處刑せられた。併し貿易人民委員長のローゼンスリツチは證據不十分で、僅に處刑を免れたのである。だがスターリンは猶太人の此の陰謀に對して少しも追及の手を緩めない、其の搜査は全國的に行はれ、到る處に逮捕・投獄・流刑、銃殺が行はれソヴエート全國民を震駭して居る。

殊に最近外字紙の報道によれば、ソヴエートの母たるレーニン未亡人クループスカヤが、ジユノウイエフやカーメネフ等を救濟しようとした廉で逮捕されたことを報じて居る。クループスカヤ未亡人はいふまでもなく猶太婦人である。之で猶太征伐の辛辣さが思ひやられると共に如何に猶太陰謀の廣大深刻なりしかゞ察せらるゝのである。

勿論此のキーロフ事件を中心とするソヴエート露西亞に於ける排猶太主義の露骨なる表現が

他の歐米諸國の猶太民族に反映しない筈はない。キーロフ事件勃發するや、新聞は米國民間にソ國承認取消運動の熾烈を報じ、遂に駐米ソヴエート通商代表部アムトルグの閉鎖となり、折角開かれた米ソ關係に龜裂を生ずるに至つた。此處にも吾々は米國に於ける猶太人關係の微妙さを窺知し得るのである。

要するに露西亞人と猶太人は水と油のやうなもので、彼等相互間の怨恨憎惡の反感は、傳統であり習慣であつて、如何に混合しても、融和することの出來ないものであることを、キーロフ事件はよく物語つて居る。

六、猶太財閥の發達

最近聞く所によれば、米國に於て、日米戰爭を起こさすやうに策動してゐるのは、英國猶太人であるとか、又圓爲替は歐洲の財界に覇權を握るロスチヤイルド家の一手に歸してゐるとか、噂をされて居るさうである。此のロスチヤイルド家は、世界猶太財閥中の雄の雄たるもので、

其の家の古きこと及び其の基礎の強固なる點に於て、他に其の比を見ないであらう。從つて現在の米國の猶太金權も、素を洗つて見れば、ロスチヤイルド家の保護の下に、今日の大を成したと言ひ得よう。有名なヤコブ・シツフも元をたゞせば、ロスチヤイルド家の一使用人に過ぎなかつたのである。

ロスチヤイルド家は、英吉利・佛蘭西・墺太利に蟠踞して居るが、其のロスチヤイルド家の祖先とも言ふべき、マイヤー・アムフエルといふ人は、一七四二年獨逸のフランクフルトに生れた一兩替屋に過ぎなかつた。

元來此のライン河畔のフランクフルト市は、世界猶太財閥の發祥地で、此のロスチヤイルド、シツフ、スペーヤー等皆此のフランクフルトの出身である。此の世界的猶太財閥の本據地は、それ以前、和蘭にあつたのであるが、ナポレオンの和蘭を占領後、當時の猶太財閥は、此のフランクフルトに來たのである。

話は第一代のマイヤー・アムフエルから始めよう、此のアムフエルが、どうして金持になつ

たかといふに、彼がウイリアム一世に取り入つて、其の官金を取扱ふやうになつたのが抑もの初めである。

そして一八〇三年彼は丁抹政府に、莫大な金を貸し付けた。之が彼の國際的財政に干與し始めた最初である。彼には五人の子供があつた。其の五人の子供が、アムフェルの死後各〻フランクフルト、巴里・倫敦・維納、ネープルス等に本據を構へて、財的に大發展を遂げた。從つて今日でも、其の傾向はあらうが、兎に角十九世紀の末迄は、歐洲の諸政府は、其の外債を募集する場合、大小となく此のロスチャイルド家に相談をし、又獨逸皇帝でも、露西亞皇帝でも、要するに歐洲諸國の諸帝王は、ロスチャイルド一家に相談なしには、戰爭することが出來なかつた程、偉大なる財的勢力を有つて居たのである。

序ながらもう少々此のロスチャイルド家のことを述べて見よう。ロスチャイルド家は、ナポレオン戰爭の際、ナポレオンに對する聯合國側を、其の財力によつて極力支持したのである。當時英國のロスチャイルド家即ちネサン・マイヤーはナポレオンがエルバ島に流されたとき、

ナポレオンは既に歐洲から葬り去られたものと判斷し、財的一般計畫を策定した。然るにナポレオンがエルバ島を出で、再び活動を開始したので、ロスチャイルド一家の打算は見事に的をはづれた。併し彼は熱狂的に英普兩國を後援し、軈てオータルローの戰鬪切迫するや、其の勝敗は實に彼一族の興亡に大なる關係を有つに至つた。

ネサン・マイヤーは元來非常な臆病者であつたが、彼は一家の存亡に係はる此のオータルローの戰鬪を座視することが出來ず、自ら英軍に從つて佛蘭西に渡り、ホゴモン附近で、彈丸に對して安全なる一角に身を潛め、終日戰鬪の經過を觀察した。而してナポレオンが最後の襲擊を命ずる直前に於て、ネサン・マイヤーは其狀況を觀察し、ロスチャイルド家は戰爭に勝てりと絕叫した。

斯くて彼は戰場をぬけ出で、汗馬に鞭をあげてブラッセルに疾驅した。其の途中人々が彼に向ひ、戰爭はどうであつたかと心配してたづねたが、彼は口を緘して一言も漏さなかつた。更に彼は莫大な金員を支拂つて馬車を雇ひ、ドウバー海峽の一角オステンドに向つて更に强く鞭

を加へた。

然るに此の時海上は生憎の大暴風で、僅に二十哩を距てた彼岸に向ひ、誰一人として船を出さうといふものがなかつた。諺に鹿を追ふ獵師は山を見ずと言ふが倫敦の取引所を腦裏に强く書きつゝある彼には、此の暴風も何等の危險をも感ぜしめなかつた。彼は水夫に對し最初五百法を提供し、次に八百法に上げ、最後に千法を提供したが、出帆には誰一人應ずる者がなかつた。百計盡きた彼は二千法を一水夫の妻に手渡した、玆に於て其の夫なる水夫は、此の大暴風を冒し、ドウバー海峽を渡ることを承認した。此の荒浪のうちに乘り出したネサンと水夫は、九死に一生を得て漸く英國に到着したが、固より、半死半生の狀態であつた。

彼は更に勇氣を振ひ、特別仕立の馬に跨り、鞭の限り拍車の限り、倫敦目がけて馳せつけた。當時は勿論、電信電話等の通信のなかつた時代だから、英國の全國民は、英佛の勝敗如何にと案じつゝ、其の報告を待つて居つた。

併しいつの時代でもデマは飛ぶもので、英國では英軍が破れたと傳へられてゐた。一八一五

年六月二十日ネサン・マイヤーは、株式取引所に現はれた。彼は圓柱に身を寄せて眞靑な衰へた顔つきで、沈默して居つた。人はそれを見て、戰爭は破れたなといふ感を深うした。彼は力無く自分の所持する證券を手放し始めた。之を見た人々は、非常に驚いた、そして市場は忽ちにして大混亂に陷つた。そこで財産家は大恐慌に襲はれ、皆其の持株を二束三文で賣り飛ばし、爲めに市場は整理公債の大洪水になつた。

然るに其の賣り出された公債は、悉くロスチャイルド家が豫め廻した手先によつて買ひ占められ、其の金庫に納めてしまつた。其の翌日も相場の狀況は前日と同樣であつた。取引が終らうとする頃は紙屑同樣に買占めた證券で、彼は將に食傷する程であつた。然るに其の夕方一人の使者が倫敦目がけて驀地らに飛び込んで來た。そして、ウエリントンは大勝、ナポレオンは戰場から逃走せりとの報告を齎した。人々は二度びつくりした。そして相場は忽ち逆轉し、暴騰又暴騰で、殆んど天井知らずの有樣であつた。此一刻でネサン・マイヤーは二千萬弗餘の大金を其の懷に收めた。

併し或る一說によれば、ネサンはオータルローの勝敗を逸早く知るために傳書鳩を用ひたとも傳へられて居る。兎に角臆病な彼が、萬金を獲得する爲に振るつた勇氣と搾つた智惠とは、後世への物語として今なほ傳へられて居る。

又彼の子供は能く父業を繼承し、英國に於ける猶太解放運動に努力して、大なる効果を收めた。其後彼は英國のロスチヤイルド男爵に叙せられたのである。なほオータルローの戰爭後、彼等五人の兄弟は、ナポレオンに敵した國々を援助した功により、皆墺太利帝國の男爵を授けられた。

財的、政治的並に國際的に勢力を有する猶太人富豪は、ロスチヤイルド家の外に、まだ多數あるのであるが、米國に於ては何と言うても先きに述べた所の、クン・ロエブ・エンド・コンパニーを中心とするシッフ並に其の一族である。

今から日露戰爭並に露西亞帝政顚覆のため、最も大なる役割を演じた此の猶太財閥の勢力、及び其の本質に就て檢討して見よう。

七、猶太銀行の大同團結

クン・ロエブ・エンド・コンパニーは、一八七五年獨逸系猶太人クン及ロエブ並に獨逸系猶太人ウオルフの三名に依つて、紐育に設立せられた銀行である。當時は單なる金融業に過ぎなかつたが、一八六五年ヤコブ・シツフが、獨逸のフランクフルトから渡來し、同行に入るに及び、該銀行は驚くべき發達を遂げるやうになつた。

即ちヤコブ・シツフは先づ世界の大勢を觀察して、第一に亞米利加に於ける獨逸猶太系の銀行を合同し、之を一團となすことを計畫した。そこで彼は同じくフランクフルトの出身なる有力なる猶太銀行家、スペーヤーの經營する大銀行スペーヤー・エンド・コンパニーと、同じく有力なる猶太大銀行セリグマン・エンド・コンパニーを相連結し、そこに密接なる關係を作つた。

序であるから彼等猶太財閥の、姻戚關係について明かにして置かう。ヤコブ・シツフの妻は、

ロエブの長女であつて、其の娘は獨逸に於ける猶太財閥巨頭フエリツクス・ワルブルグに嫁した。ロエブの次女はアイツク・セリグマンの妻であつた。又其三女はフエリツクス・ワルブルグの兄であるポール・ワルブルグに嫁して居る。

此のポール・ワルブルグは、クン・ロエブ・エンド・コンパニーの支配人で、有名なる全米聯盟準備銀行の創立者であり、ウイルソン大統領の監視役として、米國大藏省の實權を掌握して居つた人で、其の兄は歐洲大戰中獨逸皇帝の最も信頼した財政顧問たるマツクス・ワルブルグであつた。

更にクン・ロエブ・エンド・コンパニーの創立者たるウオルフの孫娘は、二代目のシツフの死後、クン・ロエブ・エンド・コンパニーの支配人となつたオツトウ・カンの妻となつた。カンは獨逸マンハイムの生れで、米國銀行界の重鎭なりしのみならず、米國に於けるオペラ諸會社を掌握して居つたが、最近即ち一九三四年三月二十九日に死歿した。

斯の如くして、ヤコブ・シツフを中心に、獨逸猶太系大財閥は、單に經濟的ばかりでなく、

血縁的に相結合され、全く一團をなしたのである。

同じく獨逸猶太系でヒルシエ男爵がある。之は古いことであるが、一八七五年土耳古帝國が外債によつて、殆んど破産に陥つたことがある。其の主なる原因は、此ヒルシユの經營したヒルシユ鐵道のお蔭であると言はれてゐる。

ヒルシユは一八五、六〇年頃、既に其の財産三、四億に達して居つたが、此ヒルシユ鐵道によつて、更に財産を倍加したのである。彼は常に巴里に住み、其處に根據を構へ、表面佛蘭西に忠實なる如くにして、實は其の生れ故郷の獨逸の爲に活動して居つた。

此の獨逸系猶太大財閥ヒルシユ男は、猶太民族の發展の爲に、猶太植民協會(Jewish Colonization Association)なるものを倫敦に設立した。此の協會設立に當つて、彼を援助したのは、エドワード七世の有名なる顧問である英國猶太人サー・アーネスト・カッセルである。ヒルシユ男が此の植民協會に提供した金は、一千百萬磅即ち現時の約一億一千萬圓である。此の一事を以て見ても、ヒルシユの財力の程度は窺はれるのである。

ヒルシュ男の民族愛は、ヤコブ・シッフのそれと全然同一であつた。又猶太民族解放の爲め否猶太民族の帝國主義實現の爲の理想は、共にシッフと一脈相通ずるものがあつた。此の歐洲の猶太大財閥の巨頭ヒルシュと、紐育の巨頭シッフとは、英國のサー・アーネスト・カッセルの仲介によつて、相提携した。

次で一八九一年シッフはヒルシュを說き、亞米利加に猶太植民協會を設立した。此の際ヒルシュが提供した資金は四十九萬三千磅約五百萬圓であつた。尙ほ此の協會には世界各國の猶太財團から、多額の金を寄贈せられた。此の莫大な金は、シッフの天稟の理財的能力によつて運用された。

此の植民協會の目的は、表面上露西亞、波蘭及ルーマニヤ、亞細亞・南米・加奈陀等に移住した猶太民族の、プロレタリヤの爲に、植民地を建設することであつた。併し實際は露西亞・波蘭、ルーマニヤ等に於ける、猶太人壓迫に對抗するのが目的であつて、彼等同族を援助すると同時に、一方國際的運動を以て、壓迫政府並に猶太民族攻擊に對する防禦を目的とすること

を聲明して居つた。

從つてヒルシユ其他の猶太財閥によつて提供され、シツフによつて運用され所の、多額の協會資金は、猶太民族の發展の爲め、各種の形をなして活用せられた。卽ち其の金は特に露西亞革命費として、露西亞虛無黨に送付せられ、又時には猶太革命家の養成、援助、並に集合離散に用ひられた。一九一六年二月十四日、紐育のイーストサイドに、全米露西亞革命黨大會が開催せられ、露西亞大革命の準備は整へられたが、集合するもの六十二名、其の中五十數名は何れも既に一九〇五年の露西亞革命暴動に活躍した錚々たる猶太人であつた。

八、亞米利加に於ける猶太金權の確立

ヤコブ・シツフによつて、亞米利加に於ける獨逸系猶太銀行は、相連結せられたが、其の猶太銀行聯盟は、クン・ロエプ・エンド・コンパニーを中心として、更に全世界に於ける、あらゆる猶太系の大銀行を、連接するに至つた。亞米利加は世界大戰後、不況によつて銀行の閉鎖

するもの相繼ぎ、一九二三年より三三年迄の十年間に、其の閉鎖銀行數は、實に七千八百五行の多きに及んだのである。此の閉鎖銀行は九十九%は非猶太系銀行で、而も其の銀行は總て猶太財閥に併呑され盡したのである。日本移民の銀行が皆つぶれたのも此時である。

先年亞米利加に經濟恐慌を惹き起し、其の波動が全世界に及んだが、此の經濟恐慌は猶太人の計畫的の仕事で、彼等がシカゴに於て、二千六百萬弗の金貨を引き出したことによつて、其の端緒が發したのであつた。

抑も亞米利加に於ける經濟大不況の原因は、經濟學者によつて色々唱へられてゐるが、結局は金の偏在が其の主なるものであつた。其の金の偏在は何處に偏在してゐたかといふと、實は猶太人の金庫内に偏在して居つたのである。卽ち猶太人が金を握つたまゝ、之を外に出さないので、百數十億の金貨があつても、結局數十億しか無いと同じ結果を生じたのである。

夫れが爲に不況益々深刻に、フーバー大統領に代つて、ルーズベルトが起ち、先づ第一に此不況を挽回すべく、全力を傾注してゐるのであるが、其の結果成績良好で、約二百萬の失業者

を救濟し得たと言はれて居る。併し失業總數千四百萬あるといふから、差引尙ほ千二百萬人の失業者が、飢餓に迫りつゝ、ホワイト・カラーを着けて、乞食をして回つて居るのである。

其の他亞米利加に於ては、猶太人の外は、獨り商業上のみならず、不況は農村にも及び、農作物は種子を地上に下ろさゞる前、既に猶太仲買の手中に歸し、農民の困窮は其の極度に達してゐるとのことである。

さて一九一二年亞米利加に於ては、ヤコブ・シツフ等の活動によつて、米露通商條約を廢棄させたのと、猶太の大財閥銀行聯盟の專横とに對して、さすがの亞米利加に於ても、攻擊の輿論は到る處に勃發し、之が爲め米國の上院並に下院は、遂に猶太黨排斥の渦中に投ぜられた。猶太黨の傀儡たる大統領ウイルソンも詮方なく、猶太排斥の目標たる猶太銀行トラストの、實際に於て重要性のあるものであるかどうか、又危險性を帶びてゐるかどうかを、調査する委員會の組織を認めねばならぬやうに餘儀なくされた。

該調査會は、晝夜兼行で調査を開始し、遂に一つの報告書を調製して、之を本會に提出した。

此の調書の内容は、實に世人の耳目を聳動した所の、次のやうな驚くべきものであつた。

一、問題の對照たる亞米利加の恐怖猶太銀行トラストは、完全に組織され存在しあり。

二、此の猶太銀行トラストの聯盟銀行は、五個の主要銀行より成り、此の五個の銀行は他の百十二個の重要なる銀行を管理す。

三、此の五大巨頭銀行と、百十二個の大銀行とは、米國全土は勿論、遠く海外の重大なる工業カルテル、金融カルテルの支配權を、完全に其の掌中に收む。

四、此の銀行同盟の資本總額は、二百二十二億四千五百萬弗、約五百億圓に達す。

ミユーレツト及びバンカース・トラストの調査統計表によれば、此の二百二十二億四千五百萬弗の大資本は、我が日本帝國の富よりも、更に大なるものである。

尙ほミユーレツトの一九一二年の調査によれば、當時の佛蘭西の富は九百七十億圓であり、又英國の大戰前に於ける國富は、千五百五十億圓となつて居る。そこで佛蘭西政府及び個人當りにして、世界一の富を持つて居る四千萬人の佛國國民の富を合算せるもの、卽ち九百七十億

圓は、シッフの猶太銀行同盟の資本金の二倍に足らないのである。而して各國の富は、其の政府と國民各自の上とに分割されてゐるのであるが、此の猶太銀行同盟の大資本は、彼れシッフ一人の手によつて、左右せらるゝのであるから、其の活動能力の偉大なる點に於ては、殆んど吾人の想像にも及ばない所である。

尚ほ此のシッフの左右する大なる資本以外に、英國、佛國のロスチヤイルドを首め、獨逸のヒルシユ男、ワルブルグ家等、多數の猶太大財閥が、世界に散布して居るのだから、世界商業利得の三分の一は、日々猶太人の懐に入り、猶太人の富は、世界の三分の二を、既に掌握せりと認めらるゝのも、蓋し當然と言はねばならぬ。

さて猶太銀行トラスト調査會の報告は、全亞米利加を驚倒せしめた。亞米利加の議會は、其の對抗政策として、聯邦準備システムを制定し、十二個の銀行を打つて一丸となし、之によつて亞米利加合衆國の金融制度の、安全を確保せしむることにした。之が日常新聞紙上に吾々が屢々見受ける所の、亞米利加の有名なる準備銀行なるものである。猶太トラストに對抗して、

此の亞米利加聯邦準備銀行を創設したことは、確かに亞米利加議會の成功であつて、勝利の軍配は確實に非猶太人側に上つたものと見受けられた。

斯くて、愈々其の創立の實行に著手する段取りとなり、大統領ウイルソンは、創立委員五名を任命したのである。然るに此の五名の創立委員の最高の地位に座つたのは、何人であらうか、實に驚くべきことは、彼の獨逸の猶太大財閥、ヤコブ・シツフの義弟たるポール・ワルブルグであつたのである。ポール・ワルブルグは其の前年既に亞米利加に歸化し、完全に亞米利加市民權を獲得して居つたから之に對しては何處からも文句の言ひやうはなかつた。此のポール・ワルブルグは、當時クン・ロエブ・エンド・コンパニーの取締役ではあつたが、兎に角此のワルブルグの手によつて、準備銀行は組織せられ、何等の修正なくして議會に於て裁決せられた。

要するに猶太トラストに對抗すべく、輿論並に議會が努力した所の準備銀行は、結局猶太人の手によつて組み立てられ、彼の力によつて出產したのである。從つて此の亞米利加人の爲の準備銀行は、其の創立と共に猶太トラストの準備銀行に變化し、猶太財閥の基礎は、更に鞏固

を加へたのである。斯うなると猶太財閥の偉大なる力は、寧ろ感嘆に値する。

九、猶太財閥の作用

猶太財閥の威力は、各國の財政經濟に、甚大なる關係を及ぼして居ることは、申すまでもないが、今の世の中は金の力が卽ち政治の力である、從つて此の猶太財閥の各國政界に及ぼした作用は、更に大なるものがあると傳へられて居る。例へば亞米利加大統領フーバーの如きは、元々獨逸系の猶太財閥ワルブルグ家の援助によつて、其の地位を得たと噂されて居る。彼が在職中獨逸の救濟案や、獨逸賠償金棒引案などを、言ひ出したのは、要するに右の噂の眞相を裏書するものであると謂はれて居る。

又國際聯盟日支問題交渉の際、該聯盟に於て活動した各國の猶太系外交官は勿論のこと、佛國及び英國の大臣連中も、或は猶太財閥によつて後援せられ、或は猶太財閥より莫大の政治運動費を頂戴して、其の地位を得て居る者が少くないといふことは、既に日本の新聞、雑誌にも

屢々散見した所である。從つて猶太財閥が、これ等の人々を通じて、歐米否世界に於ける各種の事象に對して、其の欲するが如く作用することは、さして不可能の事ではなからうと思はれる。

猶太の實際の實力を認め、其の隱然たる世界的勢力を看取したならば、時々傳へらるゝ所の、猶太人の各種の策動は、單なる噂として、又猶太人に對する一つの誣言として、之を看過し得るであらうか。

一〇、洪牙利革命並に革命の順序

曩に露西亞帝國の崩壞に對する、猶太財閥の作用を大分クド〳〵しく述べたが、同じ共產革命を味はつた獨逸及び洪牙利の革命は、其の火の元は皆猶太人の活動に外ならない。

一九一八年十月、洪牙利に於ては、自由主義に感染れたカーロイ・ミハイ伯爵が、洪牙利のマツソン團（フリーメーソン）や、社會革命黨の力によつて、社會革命を實行し、十一月十三

日にカロロ王遂に瑞西に亡命し、こゝに洪牙利は共和國が成立し、十一月十六日に共和政體となつたのである。

カーロイ伯は洪牙利共和國の大統領に選ばれた。社會主義に心醉しきつて居るカーロイ伯は、その大統領となるや否や、彼が抱懷する社會主義の理想を實現すべく、非常な意氣込みで、舊洪牙利王國の各制度の改革に助力した。即ち彼は社會主義者の懷く理想から推定して、王國は罪惡であり、社會主義實現の國は、理想の天國であると考へて居つた。從つて彼は先づ第一に、軍隊は帝國主義者の專制的武器であるから、社會主義の理想から言ふと、無用の長物であると、祖國の爲に戰線に活動し、戰を終へて無事故國に凱旋する軍隊に對し、歡迎又は感謝するどころか、片つ端から武裝解除をしてしまつた。

又憲兵や警察は資本主義の番犬であり、國民に對して不快な權力を振ふやつであるから、之亦自由の國にとつて不用品であると言つて、全部解散を命じてしまつた。こゝに於て洪牙利には、武裝せる何物もなく、社會主義者の所謂理想の自由國が生れたのである。此の頃合ひを見

計らつて、洪牙利自由國に飛び込んで來た者がある。

彼は有名な革命のリーダー、ベラ・クンといふ猶太人で、カーロイ伯の革命の眞最中露西亞に行き、過激派の巨頭レーニン・トロツキー等と相談の上、好機至れりと、洪牙利に歸つて來たのである。そして數年間の大戰爭に、困苦缺乏のドン底に陷り、疲勞困憊の極に達してゐる所へ、社會主義の宣傳をうけ、桃色に下ぬりの出來た洪牙利人に對し、彼は更に共產主義の宣傳を行ひ、同時に猛烈な共產恐怖政治を實行した。

此の時社會主義者のカーロイ・ミハイ伯は驚いて、共產革命を彈壓しようとしたけれども、軍隊は勿論憲兵も警察も、全洪牙利に武裝せる何物もないため、全く手の付けやうがなく、啞然として居るうちに、洪牙利の上下は、擧つて根こそぎ顚覆せられたことは、滑稽にもあまりに悲慘な話である。

此の革命の順序を辿ると、初めから眞赤な共產主義が、行はれては居らない。私の知つてゐる限りに於ては、共產革命の序曲として、先づ一般國民の間に、デモクラシーや自由主義乃至



洪牙利の諸大臣は家族もろ共王宮の前を流れるダニューブの河に投ぜられ其の藻屑となつた、今此の橋の傍には石碑が建てられ猶太革命の悲惨を永久に物語つてゐる。



共産軍は良民を射殺する前に人々をして先づ其の墓穴を掘らせた、甚しきに至つては前の死刑の悲惨なる光景を見せないやうに豫め眼玉を抉り取ることは共産主義者の慰みの一つであつた。

享樂・自然主義等の軟思想が漸次に注ぎ込まれ、然る後此の思想が凝つて、所謂社會革命となり、之によつて國力が衰へ人心が骨抜きになる、此の時に共產革命が一擧に行はれる。先づ以上が、何處の革命でも、殆んど定まつた順序のやうである。

前に述べた露西亞に於ける共產革命の如きも、最初から此主義が實行されたのではない。繰り返して申述べるやうであるが先づ其の內部に社會主義の思想が吹き込まれ、一九〇五年社會革命の烽火が、あちらこちらに於てあげられ、遂に歐洲大戰末期に及んで、ケーレンスキーの社會革命により、帝政は顚覆し、露西亞は共和國となり、馬鹿な國民は社會主義の自由を謳歌し、軍隊では『將校は兵卒の友達なり敬禮するに及ばず』と、ケーレンスキーの一宣言によつて、さしもの露西亞大陸軍も、全く崩壞に歸してしまつた。其處へレーニン、トロツキー等の共產主義者が飛び込んで來て、共產主義の恐怖政治を實行し、遂に現在のソヴエートを組織したことは、全く洪牙利の革命と同樣である。

洪牙利の革命の詳細は、私が他の著述に屢〻報道した所であるから、茲には省くこととする

が・兎に角お人よしの伯爵カーロイ・ミハイの取巻き並に共産革命の活動役者の九十・パーセントは猶太人であつたのである。

我が日本にも・随分利口な人もあるが、中には此のカーロイ・ミハイ伯に似たやうな人物が、ありはすまいか。もしありとすれば、非常時日本に取つて、これこそ最大危險人物と私は考へるのである。

話は横道に外れたが、此の洪牙利のベラ・クンは現在モスコーの革命學院の院長として、其の怪腕を揮ひつゝあるが、西班牙革命に於ける背後の煽動も亦彼れベラ・クンの活躍であつたと報道されて居る。

一一、英國アイルランドの革命

英國アイルランドの革命は、大英國にとつての晩鐘として世界に響いたのであるが、其の立役者はド・ワレラである。彼はアイルランドの首相で、聯盟代表として日支交渉の最後の幕四

十二對一の總會で、議長として之に臨んだことは、今尚ほ人々の記憶に新なところである。彼の父はアイルランド人であるが、其の母は西班牙系の猶太人であると言はれてゐる。

さて此のアイルランドの革命には、獨逸帝政時代、獨逸政府が英國政府を苦しめる目的で、密に其の革命資金を提供し、或は武器を與へてゐたのであるが、獨逸帝政崩壞後はアイルランド革命黨は、猶太財閥ワルブルグ家の革命資金によつて、活動を繼續した。

アイルランド革命の首領は、勿論ド・ワレラに相違ないが、併しながら實際役者は、レストニア生れのシオニスト猶太人ロバート・ブリスコである。

彼はダブリンの猶太町に成長し、英國に歸化したのであるが、後アイルランド革命黨に入り、遂にド・ワレラの財政顧問となり、其の信任を得て、革命黨の武器、彈藥、軍資金の一切を提供した。彼の革命資金の調達は、紐育其の他の猶太系銀行の本支店から供給されたと傳へられて居る。要するにアイルランド革命なるものは、猶太人の革命黨員並に猶太財閥の資金によつて行はれ、之によつて今日の成功をなしたことは、敢て疑ふ餘地がないのである。

七、獨逸に於ける猶太人

一、世界大戰に於ける獨逸猶太人

近頃獨逸に於けるナチスの擡頭は、猶太人排斥に關連して、我が新聞紙上に屢々報道せられ又各種の書籍に於て論議されて居るから、一般に御存じであらうが、併しながらナチスのことをよく理解するためには、其の相手とも言ふべき、獨逸に居る猶太人のことを承知して置く必要がある。又獨逸に居る現在の猶太人について知るためには、話は古いが、歐洲大戰當時の猶太人の策動について、一瞥しておくことが肝要であると思ふ。此の意味に於て其の當時からの獨逸猶太人の活動並に努力について概說を試みよう。

御承知の通り獨逸は、聯合諸國を向うに廻し、戰場では到る處常に聯合軍側を擊破し、其の領土內へは敵をして、一步も蹈み込ませなかつた。併しながら終局は大敗の結果を齎し、獨逸

大帝國は崩壞し、獨逸人は屈辱を忍び、聯合國側に對し、無條件降伏を餘儀なくせねばならぬ破目に陥つたのである。

大戰間獨逸人が其の武勇を振ひ、祖國の爲に奮鬪してゐる際に、獨逸に居る猶太人は、獨逸内部に著々と其の地歩を固めた。勿論猶太青年の中には、獨逸の爲に武器を執つて活動し、戰場の露と消えたものも相當多數あつたのであるが、一方では猶太人の有力者達は特に財政に政治に非常なる活躍を試みた。例へばハンブルグの汽船會社長であつた猶太人バーリンは資源局長となり、マツクス・ワルブルグは、カイゼルの財政顧問として其の快腕を揮ひ、特に軍用品に關係ある諸會社、軍隊の補給機關等は、全く猶太人の手に依つて操縱されて居つた。

斯く猶太人が戰時に重用せられた一つの原因は、彼等は獨逸國民であると同時に、國際民であるがために、其の活動の範圍が非常に廣く、戰事中と雖も國際的であつたが故である。例へば獨逸政府が、獨逸商人に、軍需諸品の整備を命じても、獨逸國内は既に物資缺乏してゐる上に、周圍は全く聯合軍の包圍中にあるので、必要に應じて物資を調へることは全く不可能であ

つた、併し之を猶太商人に命ずると、兎に角必要なる品物は、常に整備せられるのであつた。即ち猶太人は、其の同胞が今戰爭をして居る佛蘭西の中にも、露西亞の中にも亦英吉利の中にも居るので、彼等は猶太人同志で、欲するまゝに國境を超越して、軍需品を集め得たと言はれて居る。結局獨逸政府は背に腹は變へられず、便利な猶太人を重用するやうになつたとのことである。

かゝる折柄一方では獨逸の社會主義猶太人のランツベルヒ或は、共産革命の張本人リーブクネヒト或は當時勞兵會を組織してゐたコーエンなど、多數の猶太人が、獨逸國民の疲勞困憊と戰爭に對する倦怠とに乘じ、獨逸國を大いに改造せんとして、著々準備を進めてゐた。又獨逸に於ける主要言論機關は殆んど皆猶太人の掌中にあるので、大戰の機會に乘じ、獨逸帝國を崩壞すべく、獨逸國民の輿論を次第に指導し、目には見えないが、最も底力ある準備作業をすゝめて居つた。

其の結果御承知の遠り、獨逸帝國に革命が勃發し、皇帝は退位を餘儀なくせられ、社會黨の

首領猶太人エーベルトは、第一代の大統領として、獨逸共和國なるものが出現するに至つた。其の狀況については『世界の猶太網』の一部を次章に引用して、詳細に述べることゝする。歐洲大戰間、獨逸の罪惡を列擧し、獨逸に對する非常なる憎惡心を、全世界に惹起させたのは獨逸の言論界を獨占する猶太人であつて、彼等は其の主宰する新聞に之を掲げ、獨逸國民に對する所謂世界の輿論なるものを、作り上げたのである云々と。統制ある猶太言論機關の活動また偉なるかなである。

二、大戰唯一の勝利者と獨逸の管理人

世界大戰に於ける唯一の勝利者、それは實に猶太人であつたのである。併し斯く主張した丈けでは不十分である、此の主張が正しいといふことを、證明する必要がある。吾人は今茲に其の事實を穿鑿して見よう。

獨逸が舊政府から新政府へ移つた其の時、既に如何であつたらう？　即ち獨逸國政府に代つ

たものは、六人制內閣で、此の內閣の代表人物は、實に猶太人のハーゼとランツベルヒであつた。ハーゼは外務を統轄し、之が補佐役となつたものは、猶太人のカウツキーである。カウツキーはチエツク人で一九一八年には、未だ獨逸國民たるの權利を持つて居なかつた者である。其他コーンもヘルツフエルドも共に猶太人だ、猶太人シツフエルは鐵相であつて、猶太人ベルンスタインは彼の補佐役であつた。內相になつたのは猶太人プロイスだ、其の女房役はフロインドといふ猶太人の博士だ。コペンハーゲンの「フランクフルト・ツアイツング」紙の通信員たる猶太人フリツツ・マツクス・コーエンは遞信事務の長官となつた。

獨逸國中央政府の狀態既に右のやうな有樣である。況んやプロイセン王國に於てをやだ。プロイセン內閣を統率したのは、猶太人ヒルシュ及びローゼンフエルドで、ローゼンフエルドは司法官を、ヒルシュは內務省を主宰した。猶太人シモンは大藏大臣となつて、プロイセンの大藏省は完全に猶太人の占領する所となつた。教育機關の總長は、露西亞の猶太人フトランで、次長は猶太人アルントである。植民局長になつたのは、猶太人マイエル・ゲルハルトである。

猶太人カステンベルヒは美術局の長官となり、陸軍給養局は猶太人ブルムの掌中に移つた。經濟省には猶太人ドクトル・ヒルシュ及び樞密顧問官ドクトル・スタツトハーゲンが居つた。勞兵委員會を統率したのは、猶太人コーエンである。猶太人ステルン、ヘルツ、リヨーヴエンベルヒ、フレンケル、ラエロウイツツ、イスラウベンハイム、ゼーリヒゾン、カツツエンスタイン、ラウツフエンベルヒ、ハイマン、シユレシンゲル、メルフ及びヴエイルは、右委員會の内部で、色々の職を持つて居つた。

猶太人エルンストは伯林の警視總監になつた。フランクフルト・アム・マインの警視廳では、猶太人ジシツハイメルが、エツセンでは猶太人レヴイイが總監であつた。猶太人アイスネルはババリアの大統領となり、其の大藏大臣は猶太人ヤツフエで、ババリアの商業、交通、工業は半猶太プレタノの隷下にあつた。猶太人タールハイメル及びハイマンはヴエルツチンベルヒ國所管省内に猶太人フルダはヘツセン國に活躍して居つた。

平和會議の獨逸正式代表は二人共に猶太人であつて、副代表は猶太人の利益を圖るに、有名

なる人物であつた。此の外代表派遣使節の一行中には猶太人の專門家や、顧問等が蝟集して居つた。即ちマツクス・ワールブルグ、ドクトル・フオン・ストラウス、メルトン・オスカル・オツペンハイメル、ドクトル・ヤツフエ・ドイチユ、フレンタン、ベルンスタイン、ラーテナウ、ワツサーマン、メンデルスゾーン、バルトールド等の類である。

此の外平和會議に、他の諸國の猶太人も、參列して居つたことに就ては、公平なる立場にある非猶太人通信員の記事を讀んだ人々は、何人も確實に知り得た所である。非猶太人通信員の目には斯の如く多くの猶太人が、平和會議に參列して居るといふ事實が、奇異に感ぜられたらしい、そこで之を記載したのだらう。併し猶太人の記者は、斯樣なことは默つて居る方が、賢いやり方だと考へたせいか、一言も此のことに言及しなかつた。

獨逸に於ける猶太人の活動は、大戰間特に熾烈となり、遂に表面に現はるゝに至つた。そして其の活動は、隼の如く敏速にして而も綿密確實、人をして、萬事は既に以前から計畫準備されて居つたのではないかと、疑はせる程である。

獨逸の猶太人は、大戰間決して獨逸に忠實なる愛國者ではなかつた。此のことは、獨逸に敵意を有する諸國民の目から見れば、何等非難に値することでもなく、寧ろ當然のことゝ見ゆるだらう。併し之れを深く考へて見れば、猶太人は自己の住んで居る國に對して、決して忠節の念を有するものでないといふことを、明かに證明するものと見なければならない。尙ほ獨逸の思慮ある人々は、之れを仔細に觀察し、次の理由からして、猶太人が愛國者たることは、不可能なことと考へて居る。

三、獨逸革命と猶太人

各方面で主張されて居るのは、曩に列擧した猶太人等は、革命がなかつたならば、あの様に重要なる職を占むることは、確に出來なかつたらうし、又猶太人が革命を起しさへしなければ、革命等は決して起らなかつたらう、といふのである。

獨逸の諸狀態は確に滿足なものではなかつた。併し此の不滿足な狀態は、なにも猶太人の手

をかりなくとも、獨逸國民自身の手で始末し得るものであり、又獨逸國民は確に始末し得た筈である。けれども既に獨逸國民は、猶太人の勢力によつて、公德は破壞され志氣は沮喪して居つて、復之れを改善することは、不可能な狀態になつて居つたのである。

獨逸の國家的秩序を破壞した原因と見るべき、猶太人の最も主要なる影響は、概ね之を次の三つに區分することが出來る。

(一)社會民主々義といふ假面を被つて居つたボルシェヴィズム。

(二)猶太人が言論機關を掌握して居り、且つ新聞界に絕對的勢力を持つて居つたこと。

(三)猶太人が食糧品供給及び工業界を管理して居つたこと。

尙ほ此の外「物價釣上げ」といふ、最も重要な一つの影響があるが、併し右の三つは國民に對し、直接有効な作用をなしたものである。

獨逸に於ては猶太人が跋扈して居る。從つて此の三影響に就いて論じた所の獨逸人の意見は、猶太人の勢力下で、故意に作られたものだと言ふので、これによると一般から疑問を以て迎へ

られるかも知れない。故に此處には、ロンドンのグローブの記者ジョージ・ピッター・ウイルソンの言を引用することにする。此の人は一九一九年四月、既に次のやうな記事を書いて居る、即ち

『ボルシエヴイズムとは、全世界の基督教諸國民から、殘らず財力を奪ひ取り、そして猶太人全部が團結して、世界の霸權を其掌中に收め、勝手氣儘に之を統治しようといふ主義のことである』

と、又獨逸の猶太人は既に大戰第二年に、次の樣なことを宣言して居つた。

『獨逸國の敗北は、無產階級の向上の爲めに、是非共必要である』

と、又ストリヨーベルは、

『私は公然と告白するが、獨逸が十分なる戰勝を得れば、決して社會民主黨の爲にはならない』

と述べてゐる。加之到る所で、『獨逸が勝てば、無產階級の擡頭は不可能である』と宣傳されて

居つた。茲に擧げた例は、單に小數の實例に過ぎない斯の如き例はまだ幾何でもある。以上の諸例の引用は、何にも大戰問題を茲に展開しようとするのではない、所謂獨逸の猶太人が彼等の住んで居る獨逸國に對して、如何なる態度を取り、又如何に彼等が爾餘の國の猶太人と聯合して、獨逸國の滅亡の爲めに活動したか、といふことを明瞭にする爲めである。

それならば何故に彼等が、獨逸の滅亡を策したかと言ふに、獨逸國を軍國主義から解放せんが爲めに、したのでは決してない。彼等の目的とする所は、獨逸國の秩序を破壞し、混亂せしめんが爲めであつたのである。蓋し彼等は混亂に乘じて、其の支配權を奪取し得るからである。

四、猶太新聞の思想製造

最初獨逸の新聞界の猶太人記者は、斯の如き企圖を秘して表面には現はさなかつたが、後には大膽にも公然と、此論旨を明言するやうになつた。ベルリーネル・ターゲブラット及びミュンヘネル・ノーエステン・ナハリヒテンの兩紙は、大戰間政府の官報であつたが、兩紙共猶太

人の所有で全然猶太人の支配する所であつた。フランクフルテル・ツアイツング紙始め、小新聞の大多數も、亦猶太人と氣脈を通じ、猶太人に從屬して居つた。

今日の獨逸人は、此の狀態を評して、此等の諸新聞は、寧ろ敵であつた聯合國側の猶太諸新聞が、獨逸國內に發行せられて居ると見るべきが至當であつて、其の目的とする所は皆同一であると言つて居る。今や猶太系新聞は、卽ち公共の新聞として日々世界の思想を製造しつゝ、全世界に亘つて互に結合協同して居るといふことを、一般によく認識して置くことが必要であると思ふ。

五、戰時需要品の獨占、志氣の不振

大戰勃發するや、食糧及び補給は迅速に猶太人の手に移り、不正行爲が盛んに行はれた爲めに、戰場の勇士達の祖國に對する信賴心は、薄らぎ始めた。勿論獨逸國民は他の總ての愛國的國民同樣、戰爭なるものは、卽ち之れ犧牲と苦痛を意味するものである、といふことをよく承

知して居つた。又此の何人も、等しく受けなければならない運命に、堪ゆるの覺悟をして居つたのである。

然るに獨逸國民は、猶太人といふ一階級が、彼等の凡てのものを奪ひ、一人巨利を占めて居ることを知るに至つた。彼等は凡て國民の必需品を思惑買を爲し、又は中間に介在して、利益を占め得る所には、必ず活動して居つた。卽ち諸銀行、戰時用品に關係ある諸會社、醵金事業、補給機關等、到る處猶太人が活動して居つて、豐富なる物資を隱匿し、次いで價格暴騰するや、再び品物を吐き出した。戰時必需品に關係する諸會社は、全然猶太人の勢力範圍であつて、苟くも金さへあれば何んなものでも、切符なしに買ふことが出來た。勿論政府としては國民全般の爲を思ひ、食糧品を均等に分配することに極力努力したが、矢張り其の効がなかつた。

猶太人は不正手段によりて盛んに品物を手に入れ、之れを三倍にも高く賣るといふ有樣である。從つて金は洪水の如く猶太人の金庫に流れ込んだ。政府の食糧品見積額等は、猶太人の投機者が買ひ集めて、之を秘密に隱匿貯藏するため、全然信用の出來ない有樣であつた。

此が爲め國民の志氣は沮喪し、不平は起り訴訟が始まつたので、政府は遂に暴利を取締り・之を處罰するの手段に出たが・如何せん被告も裁判官も、悉く猶太人であつたからして、暴利取締も有耶無耶となり、一向其の効がなかつたのである。但し獨逸商人が捕へられた場合は喧々囂々と大袈裟に騒ぎ立てられ、嚴罰に處せられるのが常であつた。之が爲め猶太人の勢力亂用に對する憤激は、恰も熱鐵の如く、獨逸人の腦裡に強く燒きつけられてしまつたのである。

六、政府の頭上に策動せる猶太人

右の如く猶太人が一方には、多數の國民の脚下に作用して居つたが、又一方には更に高級猶太人は、政府の頭上に策動して居つたのである。即ちベートマン政府の顧問の顏觸れは、次の猶太人達であつた。

即ち大海運業者猶太人バリン、汎猶太新聞の同人である所のベルリーネル・ターゲブラット

のテオドル・ウオルフ、獨逸の銀行頭取で、猶太人大銀行家スパイエルと、姻戚關係のあつたフオン・ゲヴインネル、それから猶太人の工業及び財政上の諸企業團體の統率者であるラーテナウ等であつて、是等猶太巨頭が政府要路を擁して、政府内に勢力を振つて居つたことは、恰度他の猶太人が、國民に對して勢力を振つて居つたと同じ關係であつた。

七、富裕銀行と貧乏猶太人

富裕なる獨逸猶太人は、其の擁する財的勢力によつて、自己の欲する儘に經濟生活の各方面に亘り、社會的の地位を獲得することが出來た。是れ經濟生活の各方面には、獨逸の支配階級が直接關係して居つたからである。

然らば貧困なる猶太人は、如何にして自己の欲求を貫徹したろうか。抑々猶太人には、之を一貫する一つの衝動ともいふべきものがある。此の衝動は實に彼等猶太人の血液中に存在するものであつて、即ちそれは支配權を掌握せんとする希望である。猶太人の富裕階級が、獨逸上

流を侵蝕したのは、其の金力に依つたものでもあるが、貧困なる猶太人の民衆侵蝕は金力に依ることが出來ないから、唯彼等が擾亂に乘じて掴み取つたものを用ふる外途がない。而も彼等が獨逸國民の大部を征服したことに就ては、尙ほ探究するの必要がある。

八、右傾猶太人と左傾猶太人

抑々猶太人は決して無政府主義者ではない、又決して破壞主義者でもない。併しながら猶太人は世界的過激派であつて、獨逸に於ても卓越せる革命家である。猶太人の無政府主義者は決して純眞のものではなく、彼等に取つては、或る一定の目的を貫徹する爲めの、一手段に過ぎない。

又富裕猶太人は、決して無政府主義者たることはない。何となれば彼等は、金力といふ頗る巧妙な手段によつて、目的を達成し得るからである。けれども貧乏な猶太人に至つては、何等の資材をも持つて居ないのであるから、無政府主義を方便として使用するのだ。

茲に於て吾人は、左右兩極端の猶太人同志の間に、抗爭が起りはすまいかと思ふが、決してさうではない。富裕猶太人と貧困猶太人は、長く相共同提携して進み、共に同民族であるといふ感情の絆は、決して兩者の間を引きさくことはない。何故かなれば、若し無政府主義が成功すれば貧困猶太人は富裕猶太人と相並んで地位を得べく、又若し無政府主義が失敗すれば、貧困猶太人は現狀を維持するだけであるが、其の代り富裕猶太人には少くとも、活動し得る新舞臺が、展開さるゝ見込があるからである。

獨逸の貧困猶太人達は、獨逸人といふ柵でとりまかれ、その柵内に閉ぢ込められて居つたから、柵外に出るためには、之を破壞する外は致し方がなかつた。露西亞に於ても同樣である。社會秩序が嚴存する限り、猶太人は或る位置内に閉ぢ込められて居つて、自由の境涯にはなれなかつた。之れは從來の經驗上、斯ふして置くのが其國の爲に無難で、猶太人から禍害を受けることが一番輕くて濟んだからであつた。其れは恰度體内に、外界から一異物が侵入して來たとき、人體の作用は自然に此異物を包圍してしまふと同じ樣な關係に、猶太人と諸國民との關

係がなつて居つたのである。
然るに近世に至つて猶太人は、此の國民の柵を破壞し、國民といふ一つの大なる建物を瓦解させ、斯くて發生した暗黑と混亂に乘じて、從來熱望し來つた地位を、獲得するの手段方法を案出するに至つたのである。

露西亞が崩壞した時、其時先づ現はれた人物は何人であらうか、猶太人ケーレンスキーである。けれども猶太人ケーレンスキーの諸計畫は、過激政府ではなかつた。從つて彼は失脚し、次いでトロツキーが權力を握つた。彼も矢張り猶太人である。トロツキーは亞米利加の社會組織が頗る堅固で、到底破壞し得ないものであると認めたから、先づ最も薄弱なる露西亞を突破して、之を時家藥籠中のものと爲し、是れより漸次全世界を、席卷しやうといふ意志をもつて居たのである。

露西亞の各委員は、殆んど皆猶太人である。露西亞の革命態當時の狀態を叙述した人々は、露西亞は混亂狀態にあつたと述べて居るのが通常である。併し露西亞の猶太人政府に對する評

としては、決して當つて居ない。露西亞猶太人は、其の猶太政府を根據として少しも亂れず、正々堂々の陣容を整へて進み、其の狀は宛然豫定の方針に基き、人爲的に造つた擾亂に乘じて、著々顚覆作業を進捗せしめたと見るべきである。

獨逸に於ても、全然露西亞と其軌を一にした。貧困猶太人達は、自己の野心を滿たさんが爲め獨逸人の鐵柵を破壞しやうと努力したのである。一度破壞口が造らるゝや、彼等は破竹の勢ひを以て之に突入し、斯くて國民を支配する主要なる位置は、悉く彼等の占有する所となつたのである。

此のことは、猶太人が何故に、破壞運動に其の力を注ぐのであるか、といふことを說明するものである。合衆國に於ては靑年猶太人等が、一つの思想宣傳に努力して居ることは、周知の事實であるが、此思想の具體化は、卽ち合衆國の滅亡を意味するものである。彼等の攻擊の目標は、勿論『資本主義』なる語で表はされて居るが、併し此資本主義は猶太人以外のものを意味し、其の眞の目的とする所は、現今の『非猶太人』による世界支配の顚覆にあるのである。

抑々實際の資本主義者、即ち資本を擁して居る資本家といふのは、猶太人である。故に猶太人が資本主義の殲滅を欲するとは、どうしても首肯し得ぬ所であつて、實に彼等は資本の獨裁的支配を爲さんことを欲し、既に遠き昔より、其の希望に向ひ、着々として功を奏しつゝあるのである。

九、プロレタリアの獨裁

獨逸並に露西亞に就て知り得るやうに、吾人は富裕猶太人と貧困猶太人との間には、方法に自ら差異あることを、認めなければならない。即ち一つは政府に向ひ、他の一つは國民に向つて居るものである。併しながら兩者共其の手段は、同一の目的に向つて、集中されて居るのである。

猶太人の下層階級が使用する手段は、唯壓迫を排除しやうといふ目的に向つて、努力して居るのみでない、更に支配權をも奪取せんと、件てゝ居るものである。即ち彼等下層階級の方法

の本體は、權勢を得やうといふ意志の達成にあるのである。卽ち人々が深く此の點を洞察するときは、『革命は權勢を得んとする、猶太人の意志の表現なり』と斷ずるを得やう。社會主義者民主々義者・自由主義者の如き各派の人々も、實は此の猶太人の意志表現の道具たるに過ぎないのだ、所謂『プロレタリアの獨裁』は事實上猶太人の獨裁でなくして何であらう。

一〇、ナチスの擡頭と猶太人の抗爭

前述の如く、獨逸に於ける猶太人勢力は、單り政治、經濟方面ばかりでなく、社會の萬般に及び・その基礎は益々鞏固を加へた。大戰後獨逸人が、逐次に常態に復するに及び、國粹氣分が獨逸內に彌漫し初め・遂にヒンデンブルグ元帥が大統領となつた。そこで政界方面の獨逸勢力は漸く勃興したが、併し國內各方面に亘つて根强く築き上げられた猶太勢力は、素より微動だにしなかつた。玆に於てナチスの活動が始まつたのである。ナチスとは純獨逸人を以て組織された國粹的團體の名稱である。

歐洲大戰後、獨逸の言論界は、全く猶太人に握られて居つた、それがためナチスの猶太人排斥に關する報導の如きも猶太人に依つて、各國の横文字新聞に掲載されたのである。從つて之等の通信に、ナチスの憎むべき横暴に對して、猶太人の同情すべき情況のみが、多く傳へられたのは、已むを得ないことと思ふ、日本に傳へらるゝのも、特別の視察觀察談などは別として、多くは猶太通信の一部であるから、吾々が其の眞相を捉へることは困難である。

私は勿論ナチス團の團員でもなく、又獨逸猶太人に對し何等の怨恩を有するものでないが、我々日本人が單に外國通信を見て、猶太人を憐れみナチスの横暴を憎む前に、先づ獨逸に居る猶太人の狀態を、一通り觀察することが必要と思ふ。

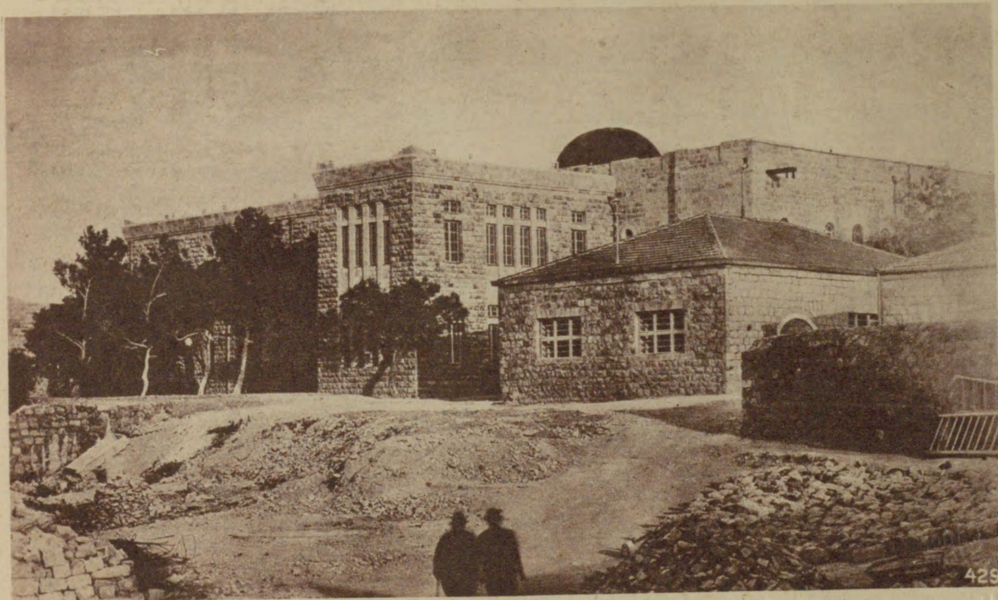
抑々世界に於ける各民族は、各其の歴史、環境、能力、性質等に應じて、其の有する文化に獨自の特徴を持つて居る。日本の文化と亞米利加の文化、猶太の文化と獨逸の文化は、決して同じではない。各民族は此の異つた文化を向上して行くことが、各民族の世界人類に貢献する所以であり、且つ其の文化的使命である。若しも亞米利加が、全部日本文化を以て換へられ

たとしたならば、それは亞米利加の文化的滅亡であり、亞米利加の文化的使命の消滅である。昔日本は印度及び支那の文化を多く輸入したが、之によつて日本の文化が消滅したのではなく、我が獨特の文化に一層の光を添へたのである。今日本は歐米文化によつて貢献せられて居るが、併し之が爲めに日本文化を滅却して、歐米文化をして之に代らしむるが如きことがあつては、相濟まないことである。

扨て獨逸ナチス團の猶太人排斥は、日毎に伸び行く猶太の絶大な勢力に對して、起つたものであつて、文化方面より言へば、獨逸の文學も藝術も音樂も、共に其影を潜め、猶太文化が之に代りつゝあつたのである。卽ち劇場の監督官も美術學校長も猶太人であり、有名な音樂家も作曲家も皆猶太人であつたのである。

又獨逸人の子弟の多くは、猶太教授の教育を受け、患者は猶太醫師に生命を托し、訴訟は猶太法官に依つて捌かれ、一方獨逸人の學者も法律家も失業狀態の有樣であつた。又獨逸の銀行も取引所も、全部猶太人に押へられ、前章にある通り、一流新聞たる有名なベルリーネル・タ

ヘブライ大學



猶太人が世界文化の中心たらしめんとの理想の下にカンラン山上に建設せるジェルサレムの有名なるヘブライ大學。

ーゲブラットもフランクフルテル・ツアイツングも皆猶太新聞で、其の上大通信社ウオルフさへ猶太人經營であり、遂に十萬の警察隊すら、猶太指揮下に入るに至つたのである。

然るに又一方に於ては、猶太人中共產黨に通じ、獨逸の潛行的破壞作業を、盛んにやるものもあるのだから堪まらない。此のまゝに置けば、結局獨逸は何處に行くであらうか、茲に於てヒツトラーが立つたのであつて、最近の總選擧に千七百萬の國民投票を得たのも、獨逸國民の對猶太思想の現はれに外ならないと思はれるのである。

若し日本が、外來の異民族の爲めに、斯の如き狀態に立ち至つたならば、我々日本人は默つて居るであらうか、我が新聞雜誌に報道される樣に、猶太人を排斥するのは惡い、猶太人は憐れなる同情すべき民族である、之を攻擊するのは世界文化の敵であると言ふて、そのまゝ猶太勢力下に沈默して居ることが出來やうか。

私は獨逸ナチス團の活動を見て、猶太人が排斥されるのは、猶太人が世界大戰の成功に乘じ、他國に於て、卽ち獨逸人の獨逸に於て、橫暴に振舞つた爲であつて、之は猶太人が惡いと

思ふ、併し一面に於ては獨逸人が、今日の狀態まで、猶太人に勢力を占められたのが間違ひで、排斥する位なら、なぜ獨逸人は初めから、もつとしつかりして居なかつたか、といふことになる。されど獨逸が、ヒツトラーの如き、特に熱烈果斷の愛國者を待たねばならなかつた程、巧妙に張られた猶太網に對しては、敗戰後疲勞困憊した獨逸人には、之を如何ともすることが出來ず、獨逸の國土に事實上の猶太國を出現せしむるに至つたのではあるまいか。

それは兎に角として、猶太人の勢力は、單に獨逸に許りあるのではない、お隣の支那にも、佛蘭西にも、又亞米利加にもある。之等の猶太人が夫々策動して居ることは、既に御承知の通りである。又獨逸に金權を握る各國の猶太人が、ナチスに對する反抗は、獨逸將來の財政に、如何なる影響を及ぼすであらうか、ナチスは初め頑として猶太人に向つたが、間もなく其手が緩みつゝあるのは、此の間の消息を物語つて居ると聞いてゐる。此の獨逸人對猶太人の抗爭は、結局獨逸國の運命を左右するもので、色々の意味から、吾々が愼重に注目すべき大なる問題であると思ふ。

世界列強は何れも、猶太人排斥の歴史を持つて居るが、獨り我が日本帝國は、未だ曾て猶太人を排斥した歴史を持たないのである。吾人は將來とも、歐米の轍を踏んで猶太人を排斥せねばならぬやうな國柄となりたくないものである。

八、猶太人の財的勢力と其の影響

國家なき民族、神の選民として、世界の最高人類たるの誇りを有し、且つ民族愛に燃ゆる猶太人の武器は、金力と言論機關の掌握である。

猶太の金力は、ヤコブ・シツフ一族の金力に於て、旣に窺知し得る處であるが、其の金力は、單にヤコブ・シツフや、獨逸のワルブルグ家だけではない。日本を除く各國に於ては、猶太の資本的勢力が確立されてゐる。

英國には英國の金融王で、世界經濟界の中心人物たるモンターギユ・ノルマンが居る。彼は前大藏大臣で現英蘭銀行總裁である、彼が英蘭銀行の椅子にあること旣に十五年、英國黑幕中

の第一人者として、又其の神出鬼沒の行動は有名なものである。

抑々此の英蘭銀行なるものは、昔和蘭から移住した猶太人の創設したものであるから、猶太人ノルマンが總裁をして居るのは當然なことである。尙ほ英國には世界大戰の大成金として有名な、希臘生れの猶太人サー・バジル・ザバロフが居る。彼が英國の重工業で儲けた利得は三百億と稱へられて居る、そして彼は英國の大軍需品製造會社ヴイカス・アムストロングは勿論、獨逸のベルリン・ベルグマン及び米國の造船並に兵器大工場とも密接なる關係を持つて居る、そしてヴイカス・アムストロンダの株主の中には、前內務大臣で軍縮會議の主催者ヘンダーソンも、サイモン外相も居る、サイモンの持株は一萬五千株餘と傳へられて居る、此等の猶太人が皆フリーメーソンの結社員であることは申す迄もない。

又佛蘭西の新成金に、洪牙利猶太人オーラス・フイナリーが居る、彼は佛國最大の事業銀行たるパリ・ペイバ銀行の總裁であると共に、佛國の電氣事業、石油事業、無線電信會社及ラヂオ等を完全に支配し、大兵器製造會社シュナイデルを掌握し、更に國外ではシュナイデルの弟會

社墺國のスコタ兵器工場を支配し、米國の兵器製造會社に關係し、又獨逸の大化學工業で資本金七十億フランの大トラストと連繋し、英・米、佛、瑞西の各化學工業會社と相協同して居る。

此の外フイチリーは佛國の大新聞ランデピープル、ループル、レコードパリ、プティパリジアンの四紙を所有し・尙ほ佛國の田舍新聞四百を其の手中に收めて居る、從つて彼の勢力たるや推して知る可く・彼の會社の重役は政治、外交・經濟界の大立物で網羅して居る。

かの佛國の非常な愛國者で・滿洲事變當時其の機關紙ランデピープルに依つて、日本の行動を正當有利に歐洲に紹介した香水王コテイー氏も・其の反猶太主義、反フリーメーソン主義が、佛蘭西の此の猶太王に睨まれずには居らなかつた。彼は猶太王の巧妙なる間接射撃を受け、コテイーの後妻の猶太人であつた所を利用されて・夫人の離婚金四億五千萬フランを卷き上げられ・其の上ランデピープルに對する紙の不賣同盟を喰はされて、完全に沒落してしまつた。

そして今迄の反猶太愛國新聞ランデピープルは、猶太の機關紙に變つたのである。

以上は歐洲に於ける猶太資本力の著名な一部を紹介したに過ぎない、併し之で猶太の東西南

北縱横に張り渡された國際資本網の偉大さを想像するに十分であると思ふ、又斯の如き大資本家を背景とする歐米の政治外交家が平和會議や、軍縮會議をやるのであるから、自分の持株の零になるやうな軍備縮小など成立する筈はない、軍縮會議があればある程、歐米の軍備は逆に增加して行くのは寧ろ當然で、事實は之を裏書して居るのである。

尙ほ此の外昔から有名な猶太資本家を擧ぐれば、倫敦巴里維納に本據を置くロスチヤイルド一家を第一として、倫敦のサツスーン、ラフアエル、ステルン、巴里のカモンド・フオールド、ペチエール、伯林のブライヒ・レーデル、ワールスチヨーエル、メンデルスゾーン、米國のフレールス・ダザート、セリグマン等屈指のものである。尙ほ極東に於ては、香港第一の富豪はサー・チエルチエーターであつて、上海第一の富豪はエヅラ、サツスーン、ハードン、カドウリの面々である。又ブタペストに於ても、コンスタンチノープルに於ても、アムステルダムに於ても、猶太人は富豪として屈指の位置を占めてゐる。

日本の貿易の王座を占めてゐる絹絲は、紐育のシルク・アツソシエーションの猶太人ジア

リーに依つて、其の相場が決定され、日本財界は之に依つて一喜一憂して居る。近來急激なる發達を遂げてゐる我が人絹貿易は、殆んど猶太人の手に依つて取扱はれて居る。日本の横濱、神戸、東京などで、外國の支店や出張所が隨分出て居るが、此中には猶太關係は決して尠くはない。

日露戰爭に於ては、日本は猶太人の外債應募に依つて、戰爭を遂行し得たが、歐洲諸國に於ても、其の軍資金は主として、猶太財閥の提供に依る所であると聞いて居る。猶太人は、金は世界の第一の力であると認識して居り、それに就て獨特の才能を持ち、非常な努力を續けて來た結果、今や全世界の商業利得の三分の一は、猶太人のポケットに入ると言はれたことは、既に十數年前の、米國猶太新聞に記載された所である。目下全世界の資本の三分の二は千三百五十萬の猶太民族に依つて掌握されて居る。而も猶太人は更に進んで、此の金力を増加すべく、有らゆる手段を以て努力をなしつゝある。

現在の世の中は、是亦、猶太人の思想的宣傳に依つて、物質第一主義で、何事にも金が物を

言ふやうになつた、政治も外交も金力を除外して行ふことは出來ない。極端になると人間の精神まで金力によつて左右せらるゝ世の中である。近頃、滿洲事變以來、我々精神生活者たる軍人も、どうやら社會的に明るい生活をするやうになつたが、歐洲大戰當時の黄金の浪の打ち寄する時代、卽ち大景氣時代には、一般民心は黄金熱にうかされ、軍人などには鼻もひつかけない時代があつた。

兎に角黄金力の作用は、隨分偉大なものである。然るに猶太人が、今殆んど世界の財界を左右してゐるのであるから、其の猶太人の力といふものは、決して輕視することが出來ないと、私は考へる。獨逸猶太排斥の巨頭ヒツトラーも、ナチスの主要綱領たる猶太排斥を、徹底せしむることが出來ないのは、結局猶太人の財界勢力の壓迫によるものであると、看做して居る向もあるが、決してヒツトラーに對する誣言ではないと思ふ。

將來日本が何れかの國と戰爭をする際、縱令日本が自給自足、總て自力を以て戰爭を遂行するものとしても、此の世界的猶太大金權の、直接間接の作用と、良きにつけ惡しきにつけ、無

關係で終始することが出來やうか。

九、猶太人の言論機關の掌握

猶太人は金を世界の第一の力とし、第二の力を言論機關と認めて居る。此の言論機關は、其の宣傳力によつて、白を黑とし、黑を白とすることも出來る程、非常な宣傳力を持つ恐ろしいものである。今や世界に於ける横文字新聞の殆んど全部は、全然猶太人に掌握せられて居る、我々が横文字新聞を手にしたとき、之は猶太の新聞であると見て、先づ誤りはないと思ふ。時としては一國の輿論も、世界の大勢も、現代の流行も、此の出版物に依り、猶太人の手に作爲せられるのである。

尙ほ世界的有名な大通信社ウォルフ通信は、獨逸猶太人ウォルフの主宰する所であり、ロイテル通信は、英國猶太人ロイテル男爵の經營する所である。又世界的無線電信會社マルコニーは、英國猶太人ゴットフレー・イサックが、其の專賣權を米國會社から買收し、其の兄弟たる

ルフユース・イサツク等と共に創設したものである。ルフユース・イサツクは、我が國ではリーデング卿の名で聞えて居る。

斯の如く世界の言論機關が、大資本を擁する猶太人に掌握されて居るのであるから、我々が言論機關を通じて世界を見るとき、そのつもりで之を觀察せねばならぬ。然るに其の事を辨へずに、日本にデモクラシーの思想が輸入さるれば、之は世界の大勢だと心得、自由主義が侵入すれば、これは世の中の進歩であると心得るやうでは、甚だ危險千萬と言はねばならない。

一〇、映畫、ジャズ等に依る猶太人の傳宣力

尙ほ猶太人は自分で國家を持たないのだから、其の出版物によつて、其の國民思想が廢頽しやうと、其の國家が滅亡しやうと、彼等の關する所ではない。否寧ろ進んで、言論機關の掌握を奇貨として、自己民族の都合のよいやうに、他民族を指導せんとしつゝあるのである。

從つて自ら非國家的インターナショナル主義、或は反軍國主義等を作爲宣傳する外、異民族

の中に曾々斯の如き思想を抱懷するものが現はれ、或は自己の思ふやうな、著作物が現はれた際には、金錢を吝まず之を世界的に流布宣傳することに努める。之に反して猶太思想に反するものは、其の鋭利なる筆法によつて、忽ち排擊せられてしまうのである。

現在米國に於ける青年男女の腐敗墮落は、殆んど其の極に達して居るとのことであるが、此の原因は猶太人の醞釀する廢頽思想に影響するもので、就中レビユウー、演劇、活動寫眞、ジヤズ等に依るものと看做されて居る。ジヤズは我が國にも侵入して、大流行を極めて居るが、其の大本は、米國に於けるトラストを成形してゐる猶太音樂出版所から、放送されたものである。伊太利ではムツソリーニーが、此の米國猶太ジヤズの、國民の志氣に及ぼす所、甚大なるに鑑み、一切ジヤズの輸入を禁止した。

又所謂活動寫眞は、勿論、最近のトーキーに至る迄、全部猶太トラストの支配する所であつて、我が國に輸入されるトーキーの機械も、外國映畫のフイルムも生フイルムも、總て猶太人の作製する所である。我々日本人は、知らず識らずの間に、日本全國に於て、每日莫大な金を

猶太人に仕拂ひつゝ、猶太人によつて仕組まれ、猶太人の監督指導によつて、猶太俳優が踊る有様を、喜んで見て居るのである。

世界の活動寫眞界は、猶太人が支配する關係から、スターなるものは猶太人でなければ、中々なれないのである。彼の有名なチヤツプリンと云ひ、デイートリツヒと云ひ、シルヴィア・シドニーと云ひ皆猶太人である。尙ほ佛國最大の名女優としてもてはやされ、イサベラ女王、椿姫に扮したサラ・ベルナールは、やはり猶太婦人である。

又日常我々が到る處で廣告を見受けるパラマウント會社は、猶太人アドルフ・ツーカーに依つて經營され、メトロゴールドウイン・メーヤーは、猶太人マーカス・リユー、ルイズメーヤー・カールレムール等の猶太人に依つて、又ユナイテツド・アーチス社は、ジヨセフ・エム・スケンク等の猶太人に依つて支配されて居る。

目下國際的トーキーとしては、W・EとR・C・A及 Tobisの三種に限られて居るが、W・E式はウエスターン・エレクトリツク會社の專賣であり、R・A・C式はレヂオ・コーポレーシヨン

ブオ・アメリカと稱するヴィクター蓄音器會社の姉妹會社の獨占で、共に猶太人の經營に依り、全世界に手を伸して居る。又Tobis式（トビス・クラングフイルム・システム）はトビス會社の占有で、該社はシーメンス及びアルゲマイネの二會社の特許權を結合し、伯林に根據を置く新會社として創立されたもので、此のトビス會社も、シーメンスやアルゲマイネと同樣に、和蘭在住の一猶太人の獨占的支配下に置かれてある。

從つて今日トーキーに關する限り、其の機械より、消耗品に至るまで、總て猶太會社から供給を受け、猶太會社に對し、莫大の金を仕拂つて居るのである。而も我が國に於ける無數の活動寫眞館の中に、現に直接其の資本的支配力が入つてゐるものもあるのであるから、我が人心に及ぼす猶太の支配力も、亦實に偉大なるものと言はねばならぬ。

之を要するに、猶太の宣傳力は言論、文藝、演劇、映畫等種々のものを通じ、我が國に甚大な影響を與へつゝあることを、以上によつて看取することが出來やう。換言すれば猶太人は、日々莫大な收益をあげつゝ、思ふがまゝの宣傳を行ひ、私に會心の笑を洩しつゝあるであらふ。

二、勞働票の起源は何か

五月一日はメーデー即ち勞働祭である。第三インターナショナルの本山露都モスコーでは、年々大觀兵式が擧行され、其の都度共產黨の首領等は、交互に大演說否世界的大宣言を爲し、勞農民は此の日許りは、歡呼して祝つてゐる。

共產主義國ならぬ世界の各都市でも、メーデーの勞働行列は官許の下に行はれ、我が國でも勞働組合は、豫め整へた準備によつて、夫々行列を爲し、其の不穩でない限り國家が之を許して居る。併し此のメーデーの日に於て、左傾分子の躍動、非國家的不逞言動は常に演出されて大騷ぎを爲し、御役目とはいひながら、我が警察官の勞苦は實に同情に堪へない。外國では到る處に流血の慘事が屢々演ぜられて居る。

兎に角メーデーは今や世界的勞働祭である。此のことは確か大戰後の歐洲思想の影響を最も強く受けた時代の、大正十二三年の頃と思ふが、私が或る當路の將校に、招魂祭を國祭日にす

る必要を話した際、其の友人は言つた、『實は此のことを提議したが、或る役人はメーデーを國祭日にしようといふ世の中だ、今頃招魂祭を國祭日にするのは、時代遲れだと一蹴した』と物語り、御互に大いに憤慨したことがあつた。

兎に角メーデーは、幸ひ日本の國祭日にはならなかつたが、年中行事の一つにはなつてしまつた。併し此の五月一日のメーデーに就て、其の起りを知る人は尠いやうである。中には此の日は猶太人の革命促進普及の記念日であるといつたら、今更驚く人もあろうが、全くそれに相違ないと思ふ。

先づ藤原信孝氏は其の著『國際共產黨の話』に次の如く述べられて居る。

『インターナショナルの色々な事を立ち入つて調べて見るといふと、今世紀の始めではなく前世紀の終りの歲、卽ち千九百年の巴里に於ける大會の時に此問題が定つたのである、といふ事を發見し得たのである。

そして又彼の五月一日といふのを何故示威運動の日としたか、四月一日では惡いか、六月

一日ではいかぬか、五月一日といふ日は抑々如何なる日であるかといふ事を、段々研究して見るといふと、それはアナ系ボル系兩方を一手に掌握して居る所のイルミナティといふ革命的秘密結社が、西暦千七百七十六年、獨逸のバイエルン州のウイルヘルムスバッドといふ所に出來たのである。其の創立の日が五月一日である。自分が今日調べる所を以て見るといふと、其イルミナティの創立の日が一番五月一日の古い起源であるやうである。未だ研究をして見たならば、イルミナティが五月一日に創立をしたといふのに、又そこに謂はれがあるかも知れぬけれども、自分はメーデーの事のみを研究をするといふ事にもいかないから、今日に於てはそれ程の程度より調べた事はないのである。他日又此起源に關して知り得たならば訂正する事があるだらうと思ふ。』

以上の研究に依れば五月一日をメーデーにしたといふことは、一七七六年五月一日にイルミナティ革命結社が創立されたといふことの因縁から、一九〇〇年に勞働祭として正式に決定されたといふことになつてゐる。尙ほ私の研究に依れば、メーデーの勞働祭としての決定は次の

やうに、猶太革命詩人ハイネとエンゲルスにも關係して居るやうである。

そこでハイネの話をしなければならないのであるが、ハインリッヒ・ハイネと云へば、獨逸の詩人として我が國でも知らぬ人のない位有名な學者で、彼の詩集は坊間到る處の店頭に販賣せられ、彼の詩は靑年學徒に今でも愛好されて居る。併し彼は眞の獨逸人ではなく、やはり猶太人で、社會に對する方便として、基督教に改宗した男である。從つて彼は改宗後と雖も、猶太敎義に對しては忠實であつた。

彼は獨逸に生れたのであるがプロシヤ政府に容れられず、君主政體並に現社會に對し、大なる不滿を懷き、其の强烈なる革命思想は、軈て巴里の七月革命に點火するに至つた。彼は民衆に對する煽動的記事及び反基督教記事の出版によつて、遂に獨逸を追はれ、一八三一年五月一日、自由の佛蘭西に逃れた、其の時彼は自ら『我は革命兒なり』と叫んだ。此の革命詩人ハイネの逃走の記念日が、後に其の友人エンゲルスの提議により一八八九年五月一日に、世界勞働者の祭日として決定せられたのである。此のハイネの幸福なる逃走を記念するため、此の年の

五月一日から年々世界各地に於て、幾多の革命、反亂及び暴動が企圖され、到る處に鮮血が流れた。以上は佛人サリユーストのハイネに關する記事に現はれて居る所である。

右によつて見るに、ハイネの逃走日が偶々其の革命秘密結社の創立日であるといふことは、誠に不思議な因緣であつて、其の起源の何れにせよ、猶太人の革命促進記念日たるや疑ひない所である。

然らば我が國の勞働者は何の必要、何の因緣あつて、此の五月一日のメーデーを祝ふのであるか。メーデーの起源を知つて、我が國の勞働者の淺薄極まる行動を見ると、彼等はまるで日本人たることを忘れ、猶太の世界革命を助長するために、其の奴隷となつてゐるとしか考へられない。我が勞働者は猶太革命家の依賴でも受けたのであらふか、もしも賴まれもしないのに、世界の大勢だなどゝ言ひつゝ、メーデーを祝ふに至つては、其の愚や實に及ぶべからずである。玆で御互にメーデーなるものゝ起源と、其の深く隱れたる目的を知つたなら、日本人として大いに考へねばならぬことゝ思ふ。

二、我が國と猶太民族

世界各國に分散しあるに拘らず、相互に鞏固なる團結を保ち、世界のダイヤモンド、金銀、銅、鐵等寶石、貴金屬並に主要金屬類の世界的支配權を獲得し、世界の公債を其の金庫に納め、言論界を風靡し、學術、演藝方面に於て、世界を猶太化し、『亞米利加の文化は淨化せられたる猶太文化なり』とさへ稱へしめ、『獨逸の文化は、猶太の文化にして、獨逸に獨逸の文化無し』とまで獨逸に對する酷評さへ現はるゝに至つた。

歐米のオペラ、演劇、ジヤズ、活動寫眞、トーキー等全く猶太トラストの統制下に世界の人心を誘導し、猶太思想の一表現たる自由、平等、博愛の思想より、共產、社會、無政府等、各種の主義思想は混然として五大陸を席卷し、歐米列强及び國際聯盟に深く干與して自己の爲に巧に之を利用し、更に世界的秘密結社フリーメーソン(マツソン)を自在に操縱して人心を左右し、武力を持たず、國家をも持たないが、猶太民族の世界的の勢力の絕大なる、實に偉なりと

言ふべきである。

此の猶太民族と我が大和民族と、又昔の猶太王國と我が日本帝國とを比較すると、互に非常に相似た所があると同時に、又非常に異つた所がある。

昔モーゼが一族六十萬の民族を率ゐて、埃及を脱出し、西暦紀元前一二五〇年彼等の故國たるカナンの地卽ちパーレスタインに復歸してから、猶太民族は十二の支族に分れたのであるが、其の正系に屬する種族は、其の後東方に向つて移動し、今以て其の行く先きが不明で、歴史上の一つの謎となつて居る。

そこで說をなすものは、

此の東方に移動した猶太民族は、卽ち日本民族である、從つて日本は猶太の正系に屬するもので、神の選民中の最高の位置を占めて居るものであると、いふことを述べて居る。

斯の如き說は獨り日本の一部の學者ばかりでなく、實際に於て歐洲で此の學說を唱へて居る學者がある。私がパーレスタインに滯在中、倫敦で或る英人が、此のことに就て大論文を書き、

博士になつたことを、猶太人から聞いたことがあつた。併し私は日本の猶太系說に對しては、全然承服し得ないのであるが、猶太王國の狀態を、日本に比較して見ると、實際兩國の間に似通つた點の少くないのを認めるのである。

先づ第一に猶太王國は、祭政一致の國體であつて、神を祭ることが卽ち民の政治を見ることである。昔ソロモン王は榮華の殿堂をジエルサレムに建立したのであるが、之は王宮と言ふよりも寧ろヱホバを祭る所の神殿であつたのである。又猶太の王族・臣民共に、猶太の神から分れたもので、猶太王室は臣民の宗家である。恰度我が國の如く、家族的組織によつて成立した君民一如の國家である。又耶蘇敎の舊約全書は、其の始めモーゼによつて書かれた猶太敎のバイブルであるが、其の中に記されてある猶太の諸儀式等は、全く日本のものと同樣であつて、尙ほ諸種の事柄も、西洋人の頭ではどうしても解釋の付かないことが多いが、日本人だけには明瞭に會得される點が、少くないさうである。從つて日本の有力なる耶蘇敎の牧師の人々の中には、舊約全書を眞に理解し得るものは、西洋人でなくして日本人であると、主張して居る人

々も少くないのである。

次に猶太人の家庭生活は、西洋式であるといふよりは、寧ろ日本式の家庭に近いのである。親は子を慈しみ、子は親に孝養を盡し、祖先を崇拜し、男尊女卑の傾きを有する等、西洋の家庭に見られない情況である。尚ほ又ジエルサレムの古城或は猶太の古い寺院には、多くは十二瓣であるが、畏れ多くも我が皇室の御紋章に酷似した菊花の章の附けてあるのを、見受けることが少くない。

以上の如き諸點から見て、日本の猶太系說が現はれたのであろうが、我が古代の嚴然たる歷史に鑑み、日本は猶太系なりなどいふことは、全然あり得べからざることと思ふ。

尚ほ現在の猶太民族は其の國家滅亡し、國民が世界に廣く流散して以來、特に近世に於ては、デモクラシー、社會主義の尖端をきり、革命家として活躍して居るが、現今に於ける猶太人の眞に希ふ所は、ソヴエート組織の國家でもなければ、社會共和主義の國家でもない。やはり猶太王國そのものである。此の事は先きに本書シオニズムの章で、ヘルツル博士の檄文『猶太

國』についてお話したが、其の『猶太國』の中に、同博士は次のことを述べて居る。

『猶太人は其の歴史の全夜を通じて、此の王國的夢を結ばないことは無かつた、「ジエルサレムの春夏秋冬」とは、吾々の古來渇仰せる言葉である……』

右の引用はヘルツル博士が、全世界の同族に對して、眞劍に呼びかけ言た葉の一節であつて、單なる空想や形容詞では無い。

斯の如く猶太王國と我が帝國との類似の點多々あるに拘らず、我が帝國は開闢以來、萬世一系の皇室を奉戴し、國民は天孫降臨の地に安住し、國家は神代の昔より繼續し、而も永遠無窮に亘らんとして居る、國體の尊嚴なること萬邦無比、蓋し人類の歴史あつて以來、他に比較すべき絶無の國家である。

然るに猶太民族は、早くもアブラハムの時代、メソポタミアに定住するを得ずして、カナンの地に移り、更に埃及に移住し、後漸くカナンの地に復歸して王國を建設し、ダビデ王、ソロモン王の時代に於て、其の隆盛の極に達したが、王國分裂以後、國家は忽ち滅亡し、國民は暫

時其の地に留まつて居つたが、軈て羅馬政府の壓制に堪へず、遂に全世界の各地に流散するに至つた。

猶太民族は人類としては、吾人と等しく最高の文明を有ちながらも、依然寄生生活を續けて居る。即ち國民あつて國家を有しない世界唯一の珍らしき民族である。

上述の如く大和民族と猶太民族とは、互に類似せる點はあつても、而も之を深く觀察すれば、恰も物の表裏の如く、全然正反對の立場にある民族である。從つて似てもつかぬ程に異つた所の歷史を有ち、異つた環境に置かれ、全然兩極にあるのである。然るに我が日本人が、此の猶太人の社會觀や主義、主張並に思想等を、其の儘受け入れて、之を我が日本帝國に實行せんとするが如きは、根本に於て既に誤りであると思ふ。

猶太民族は、自ら神に選まれた唯一の民であると言つて居るが、之を我々神の子孫たる大和民族に比べて見ると、現在如何にも甚だしく相違して居るではないか。

神の攝理とは謂ひながら、奇しき運命の民族である。彼等が國亡びて民のみを殘す悲慘な狀

猶太の泣壁



猶太人は其の國を失ふと同時に大切なる聖地の中心ソロモンの殿堂をも失つた。今こゝには回教徒が番をして居つて猶太人は一歩も入ることは出來ない、猶太人は已むなく殿堂外壁に集り王國の昔を偲び復興を神に祈りつゝ感極まつて泣く、よつて之を猶太の泣壁と稱す。

態に陷つたのは、勿論宿命であり、神慮に依つてではあらうが、併しながら彼等が、單なる宗教的民族であつて、尙武の氣象に富んで居なかつたのが、大なる原因であることは、歷史が證明するところである。然るに彼等民族は、依然として猶太敎による豫言を信じ、何れの日にか猶太王國を建設し、以て全世界に君臨せんと、黃金力と思想力とを武器に、日夜營々として努力を續けて居る。其の結果已にある方面に於ては、公然世界の支配的勢力を獲得するに至つたことは、旣述の通りである。

猶太人は自ら神の選民と唱へて居るが、我々日本人は、隈なく全世界を照らすべき、唯一無二の神の子孫であることを、決して忘れてはならない。猶太民族に如何なる企圖、策謀があらうとも、又如何に世界の黃金を把持掌握しやうとも、又更に曾て歐洲の諸帝國を呪ひし如く、假令我が帝國を呪咀し、不逞の行動に及ばうとも、日本人が之が爲め動搖してはならないし、又我が帝國が微動だにするものではない。結局猶太民族は、大和民族が天業を恢弘し、以て六合を兼ね八荒を併せ、彼等が其の皇澤に光被せらるゝ場合に於てのみ、眞に平和に安ずるを得

るものと、私は固く信ずるのである。

以上猶太民族に就て色々述べたが、猶太人の一人々々を觀れば、數千萬の猶太人が一人殘らず、革命運動に參畫して居るのでもなく、又皆一樣に大財閥である譯でもない。多くの猶太人の中には、之を分類すると色々の種類がある。

例へば繪で見る基督のやうな、昔ながらの服裝をして、『猶太の泣壁』に朝夕集り、救世主の降臨を祈り、全く現代とかけ離れて、猶太敎のみに沒頭して居る宗敎的猶太人がある。又一方にシオニストとして、パーレスタインの猶太國建設のみに熱中して居る猶太人があるかと思へば、又他方には國境を超越し、世界を舞臺として活動するインターナショナルの猶太人もある。更にシオニズムによつて一般に覺醒されたとはいひながら、シオン運動には無關心に自己の商賣にのみ熱中してゐる猶太人もある。

即ち猶太人であるからと言ふて、誰も彼も危險視すべきではない、我が國に取つて有害な人物もあれば、無害な善良な人もある。私が今迄論じた所は、主として猶太民族の一般的概念と

共に、其の特異なる民族性及び著明なる其の勢力、並に重大なる活動に就て述べたのである。

猶太問題につき、折角在郷軍人會本部から御依頼があつたに拘らず、公務多端而も不文にして筆路意に委せず、論述したき幾多の希望を持ちながら、之を十分に果し得なかつたこと、並に寸暇を利用しての作業なる爲め、推敲の暇なく玆に擱筆するに至つたことは甚だ遺憾とする所である。併しながら本書が、重要なる猶太研究の爲め、多少とも御參考とならば、幸甚の至りである。（をはり）

昭和十二年六月三十日印刷
昭和十二年七月五日發行

ユダヤの人々（奥付）
定價一圓

著者　安江仙弘

發行者　東京市麹町區九段一丁目五番地
財團法人　軍人會館出版部
代表者　平田重三

印刷者　東京市麹町區九段一丁目五番地
横山才四郎

印刷所　東京市麹町區九段一丁目五番地
財團法人　軍人會館印刷所

發行所　東京市麹町區九段一丁目五番地
軍人會館出版部
電話九段(33)（自四一〇一番 至四一〇九番）
振替口座東京二〇一〇七番